

本刑ニ照シ一等ヲ減シ其未タ成ラサル者ハ二等ヲ減ス(刑)一九〇、一九二、若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ着手セサル者ハ各三等ヲ減ス

(刑)二二、二二五、二二三、

第百八十七條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工ハ前數條ニ記載シ

第百八十七條

貨幣ヲ偽造シ又ハ變造スルノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工ハ總則ニヨリ正犯ヲ以テ論スヘキモノナルハ言ヲ俟タズ然レモ職工ハ給料ヲ受ケルヲ目的トシテ雇ヲ受ケ正犯ノ指令ニ從ヒ工事ヲシタルモノナルハ其情ヲ偽造行使ヲ目的トスル正犯ト目テ論スルヲ得ス其情理ニ於テ甚タ輕シ故ニ職工ハ其偽造行使ヲ目的ト爲ス正犯ト同ク罰スルノ必要ナクハ宜シク適當ノ刑ヲ科セサル可カラズ是レ本條ヲ規定シ前數條ニ犯シタル犯人ノ受ケ可キ刑ニ照ラシ一等ヲ減スルト爲ス所以ナリ又職工ノ補

助ヲ爲シ雜役ニ供シタル者ハ職工ヨリ其情狀猶且輕シ故ニ正犯タルト從犯タルトナ問ハス其情狀ノ輕重ニ因リ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ストシタル所以ナリ

第百八十八條

本條ノ房屋ヲ給與シタルモノハ偽造變造ノ罪ヲ幫助スルモノナルヲ以テ偽造變造者ト同シク論スルヲ得ス是レ各本刑ニ照シテ二等ヲ減ストシタル所以ナリ

タル犯人ノ受ケ可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス(刑)一〇九、一五八、若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス

第百八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ偽造變造ノ各



第百八十九條

學說 本條ノ偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入シタル者ハ偽造變造者ト其所爲ヲ異ニスト雖モ社會一般ノ信用即チ公益ヲ害スルノ點ニ至リテハ則チ一ナリ是レ偽造變造者ト同ク論スル所以ナリ

第百九十條

學說 本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一偽造變造ノ貨幣タルコト 第二其情ヲ知テ其貨幣ヲ取受シタルコト 第三其貨幣ヲ行使シタルコト是レナリ

本刑ニ照シ二等ヲ減ス  
(刑)一〇九、一二七、  
二四〇、二六一、

第百八十九條 偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シ  
(刑)一五七、

第百九十條 偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ取受シ之ヲ行使シタル者ハ偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ

照シ各二等ヲ減ス  
(刑)一

其未タ行使セサル者ハ各二等ヲ減ス  
(刑)一八六、

第百九十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス  
(刑)三八、

第百九十二條 貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入

第百九十條二項

學說 第二項ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一偽造變造ノ貨幣タルコト 第二其情ヲ知テ其貨幣ヲ取受シタルコト 第三其貨幣ヲ行使スルノ意思アリシコト若シ偽造變造ノ貨幣タル事ヲ知テ取受スルモ之レヲ行使スルノ意思ナキニ於テハ罪ヲ成サトルモノトス

第百九十一條

第百九十二條

學說 貨幣ヲ偽造變造シ若クハ輸入取受スト雖モ之ヲ行使セサル間ハ未ダ社會ニ害ヲ被ラシメタリト云フ可カラス社會未タ害ヲ被ムラス此時ニ當テ自首スレハ社會ハ危害ヲ未然ニ防止スルヲ得ヘシ故ニ社會ハ如此自首ノ多カラン事ヲ欲シ本刑ヲ免スル事ヲ示シテ其自首ヲ誘導スルニア

信用ヲ害スル罪



リ然レ其自首ハ最モ信心悔悟ニ出テタル乎將タ一時ノ策畧ニ出テタル乎未タ知ルヲ得可カラス故ニ本刑ヲ免スルモ監視ヲ特別ノ主刑トシテ之ヲ科シ爾後ノ危害ヲ防クニアリ

第百九十  
二條二項

學說

第二項ノ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者ハ其情狀輕ク殊ニ偽造變造シ又ハ輸入收受シタルモノヨリモ再犯ノ憂ヒ更ニ少シ故ニ其偽造變造者及ヒ輸入收受シタル者ヲ處スルト異ナリ其未タ行使セサル前ニ當リ自首スレハ本刑ヲ免シ別ニ監視ノ刑ヲ科セサルナリ

取受シタル者未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス  
(刑)三八、  
四〇、八八、  
若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ行使セサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス(刑)八八、

第百九十  
三條

學說

本條ノ罪ハ第一偽造變造ノ貨幣ナル事ヲ知ラスシテ收受シタルノ第二其收受シタル後其偽造變造ナル事ヲ知テ之ヲ行使シタルノ二條件ヲ以テ成ル本條ノ罪ノ如キハ知テ之ヲ受ケ行使スルモノニ比スレハ其情狀太甚タ輕シ故ニ罰金刑ヲ科ス所以ナリ

第百九十三條

貨幣ヲ

收受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルヲ知り之ヲ行使シタル者ハ其價額二倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓以下ニ降スヲ得ス(刑)一

學說

印章文書偽造ノ罪ハ偽造貨幣ニ次キ公衆ノ信用ヲ害スル所ノ罪ニシテ就申其官印偽造ハ最モ重キカ故ニ之ヲ信用ヲ害スル罪ノ章ノ第二節ニ置キシナリ

第二節 官印ヲ

偽造スル罪

第百九十  
四條

學說

本條ノ罪ハ二條件ヲ以テ成ル第一御璽國璽タルヲ第二之ヲ偽造シ又ハ其偽璽タル事ヲ知テ使用シタルヲ但シ單ニ偽造シタルノ

第百九十四條

御璽國

信用ヲ害スル罪



ミニ係ル時ハ其惡意ニ出ツル事ヲ要ス然ラサレハ未タ罪アリト云フヲ得サ  
ルベシ本條ニ其偽璽ヲ使用シタル者トアルヲ以テ單ニ解スル時ハ偽造ノ御  
璽國璽ヲ使用シタルモノ、如クナレハ本條ノ精神ハ然ルニアラス他人カ偽  
造シタル御璽國璽ナルヲ知テ之ヲ使用シ又ハ偽造ノ御璽國璽ヲ押捺シタ  
ル文書ナルヲ知テ使用シタル者皆其ノ使用ノ中ニ含有スルモノナリ

第九十五條

判例 (十九年三月三日) 某村ハ他村ト連合ニシテ該村ニ戶長役場ヲ設置  
シタルト無キモ該村ハ現ニ有ル村ナルヲ以テ尙モ其役場印ヲ  
偽造シタルモ其印章ノ方形象文ニ差違アルモ官印偽造ハ免ル、ヲ得サ  
ルモノトス

第九十六條

判例 (十九年五月二十五日) 押モ官廳ノ何レニ論ナク各官署ニ於テ用フ  
ル所ノ印及ヒ記號印章ヲ偽造シ又ハ使用シタル者ハ刑法第二編第  
四章第二節ニ掲ケル所ノ區別ニ從ヒテ處斷スヘキハ論ヲ待タサルナリ然リ  
而シテ被告等ノ所爲ハ原判文列示スル事實ニ據レハ所管郡衙ニ於テ用ユル所  
ノ檢印即チ印章ヲ偽造シテ押用シタルモノト認メタルヤ明確ナリ果シテ然  
ラハ上告論旨ノ如ク刑法第九十六條第二項什物等トアルニ包含スル者ナ  
レハ該條ヲ適用スヘキハ當然ナリトス

璽ヲ偽造シ又ハ其偽

璽ヲ使用シタル者ハ

無期徒刑ニ處ス(刑)ニ

第九十五條 各官署

ノ印ヲ偽造シ又ハ偽

印ヲ使用シタル者ハ

重懲役ニ處ス(刑)ニ〇六

第九十六條 產物商

品等ニ押用スル官ノ

記號印章ヲ偽造シ又

ハ其偽印ヲ使用シタ

ル者ハ輕懲役ニ處ス

(刑)ニ〇六、二

書籍什物等ニ押用ス

ル官ノ記號印章ヲ偽

造シ又ハ其偽印ヲ使

用シタル者ハ一年以

上三年以下ノ重禁錮

ニ處ス

第九十七條 御璽國

璽官印記號印章ノ影

蹟ヲ盜用シタル者ハ

第九十七條

學說 本條ノ罪ハ二條件ヲ以テ成ル第一御璽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ  
ル、第二之ヲ盜寫シ若クハ盜押シテ使用シタルト是レナリ



前數條ニ記載シタル  
偽造ノ刑ニ照シ各一  
等ヲ減ス(刑)二〇六、

若シ監守者自ラ犯シ  
タル時ハ偽造ノ刑ニ

同シ(刑)自一九四、至  
一九六、二〇五、

第百九十八條 官ヨリ  
發行スル各種ノ印紙  
界紙及ヒ郵便切手ヲ  
偽造變造シ又ハ其情  
ヲ知テ之ヲ使用シタ

第百九十  
八條

學說 本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙  
及ヒ郵便切手ナルヲ 第二之ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知リタルヲ  
第三使用シタルヲ是レナリ

自第百九  
十九條至  
二百一條

判例

(十六年十一月二十四日)偽造ノ證書ニ證券印紙ヲ再貼用シタルモ  
固ヨリ其證書ハ法律上無効ノ者ナルヲ以テ再貼用ノ所爲ハ刑法第  
百九十九條ノ間フ所ニアラス(十七年十月一日)既ニ貼用セル印紙ヲ再貼  
用スルモ固ヨリ其効ナキ者ナレハ消印ノ如何ニ依リ仍ホ印紙規則違犯ノ罪  
ヲ構成スルモノニ非ス而シテ消印ヲ要スルハ其貼用セル證書ノ効力并  
ニ印紙ノ使用ヲ證明スルニアリ故ニ一旦貼用セル印紙ヲ再ヒ用フルモ貼用  
ノ効ナクハ即チ消印ノ必要ナラサルノミナラス此等ノ證書ニ證人ニ立チ  
若クハ之レヲ請取リシ所爲ノ如キモ法律ニ正條ナキヲ以テ甲ニ對シテハ刑  
法第百九十九條ヲ適用シ乙外二名(證人)ハ無罪ナリ(十七年十月三日)監視  
ハ臈刑ノミニ附加ス可キハ法ノ原則ナルニ印紙再貼罰金ノ刑ニ第二百一條  
ヲ適用シ監視ヲ附加シタルハ不法ナリ(十九年三月三十一日)刑法第百九十  
九條ハ既ニ効用ヲ爲シ終リタル印紙ヲ再ヒ貼用シタル所爲ヲ云フモノナレ  
ハ一旦提出シタル訴狀ノ印紙ヲ剝取り之ヲ書直シタル訴狀ニ貼替へ使用シ

信用ヲ害スル罪

ル者ハ一年以上五年  
以下ノ重禁錮ニ處シ  
五圓以上五十圓以下  
ノ罰金ヲ附加ス(刑)二〇四、  
第百九十九條 已ニ貼  
用シタル各種ノ印紙  
及ヒ郵便切手ヲ再ヒ  
貼用シタル者ハ二圓  
以上二十圓以下ノ罰  
金ニ處ス

第二百條 此節ニ記載



タリトテ此罪アリト云フ可カラス何トナレハ前ノ訴狀ハ裁判所ニ於テ受理アラサリシ者ナレハ恰モ未タ提出セサリシニ等シク隨テ之ヲ貼付セシ印紙モ亦未タ効用ヲ爲シ終ラサルヲ以テナリ(十九年九月二十二日)上告ノ論旨ハ要スルニ被告ハ委任狀ニ印紙ヲ再貼シテ一旦他人ニ渡シタル者ナレハ已遂犯罪ニシテ犯罪ノ執行中ニアラサルヲ以テ之ヲ自ラ停止スルモ罪ノ消滅スヘキニアラスト云フニアルハ原判文ヲ查閱スルニ被告ニ於テ一旦甲ニ渡シタルモ其犯罪ナルヲ覺リ即時ニ他ノ委任狀ト引換置キタルニ檢査官ノ出張ニ際シ甲方誤テ之ヲ提出シタルモノナリト陳述セハ云々ト記載シ其未段ニ甲方檢査官ニ示シタル委任狀ハ被告ニ於テ即時ニ之ヲ取返シタルモノナリト明瞭ニシテ云々ト記載シタリ由是觀之ハ原裁判官カ認ムル所ノ者ハ要スルニ其取返シタルノ事實ダルト明白ナリ又上告者ハ刑法第九十九條ハ印紙ヲ再貼用セント着手シタルト同時ニ犯罪ヲ構成シ社會ニ害ヲ與ヘタル者ト見做シタルコトハ其第二百條未遂犯罪ノ時ト雖モ尙ホ處分スルノ明文アルヲ以テ明カナリト云フモ該條ハ再貼ニ着手シタルノミニテハ未タ全ク犯罪ヲ構成セス之ヲ再貼シ而シテ之ヲ使用シタルヲ以テ始メテ犯罪ヲ構成ス故ニ其明文ニ再貼ト云ハスシテ再貼用シタル者ハ云々トアリ然ルヲ以テ原裁判所ハ法律上犯罪ノ成立ツ場合ニ於テ成立タスト認定シタルニ非サルナリ又犯罪ノ已ニ成立タル後之ヲ改復シタルト云フニ非ラサルナリ右ノ理由ニ付原裁判官ハ破毀ノ原由ナシ(十九年十月十二日)烟章印紙ハ販賣前ニ貼用スル制規ナルヲ以テ之ニ印紙ヲ再貼用シタランニハ未タ販賣セサルモ既遂犯タル論ヲ映タサル所ナリ

シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス(刑)二二、三、  
 第二百一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス(刑)三、八、

### 學說

本節ノ罪ハ二條件ヲ以テ成ル第一信實ニ違フコト 第二人ヲ害スルノ意アルコト 第三損害ヲ生シ又ハ生シ能フコト是レナリ但シ詔書偽造ニ二種アリ有形無形ノ偽造是レナリ無形ノ偽造ニ二アリ即チ全ク無キ所ノ意味ヲ偽造スルト詔書ヲ書ク可キ官吏詔アリタル其詔ノ文章ノ意味ヲ偽造スルト是レナリ其全ク無キ所ノ詔書ノ意味ヲ偽造スルトハ罪トナルコトアリ或ハ罪トナラサルコトアリ即チ揭示シテ公衆ニ示シタルハ罪アリトス然レハ唯之ヲ新聞社ニ送附シタルノミニ如キハ偽造罪トナラサルナリ又一般官文書偽造即チ第二百三條ニ掲ケル所ノ偽造ニモ有形ノ偽造ト無形ノ偽造トノ二種アリ官ヨリ達スル文章ヲ偽造シ之ヲ新聞紙上ニ記載シタル如キハ罪トナラス然レハ官令ヲ掲載スヘキ職務アル新聞紙ニ記シタル時又ハ揭示場ニ揭示シタルモ亦罪アリトス通常ノ新聞紙ニ記セシ如キハ只虚言ヲ爲シタルニ過キス虚言ハ固ト罪トナラサルモノニシテ之レヲ罰セサルナリ又官文書ヲ作り得ヘキ資格ヲ有シタル人無形ノ偽造即チ官文書ノ意味又ハ未ダ會テアラサル所ノ事ヲ偽造シタル場合ハ尙ホ偽造罪アリ又證書ノ信實ニ違フコト付テモ有形ト無形トノ別アリ有形ノ信實ニ違ヒタリトハ譬ヘハ證書二千圓トアルニ貳ノ字ヲ加ヘテ貳千圓ト改ムルカ如シ無形ノ信實ニ違ヒタリトハ全ク無原因ノコトヲ構造スル是レナリ譬ヘハ甲ガ乙ニ對シ營テ貸金シタルコトナキニ貸金ノ證書ヲ偽造スルカ如キナリ

### 第二節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

第二百二條 詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ無期徒刑ニ處ス(刑)一、九五、

其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ

### 第二百三條 官ノ文書

### 判例

(二十年五月五日)事實ノ要點 戶長役場用係カ自己及ヒ家族ノ名稱凡俗ナルヲ職ニ竊ニ戸籍ニアル自己及ヒ家族ノ名ヲ變換シタル

信用ヲ害スル罪

### 第二百二條

### 第二百三條



ヲ有罪トセラレタリ(判決要略)文書偽造變造ノ罪ハ眞實ヲ變換スルコト害ヲ生スルコト惡意アルコトノ三要件ヲ具備スルニ非サレハ構成セサル者トス本條ハ第一第二ノ要件ヲ具有スルモ自己及ロ家族ノ名稱凡俗ナルヲ厭ヒタル迄ニテ他ニ意思ナキハ原則文ニテ明瞭ナリ果シテ然ラハ惡意ノ一元素ヲ缺キタル者ニシテ變換ノ罪ヲ構成セス刑法ノ制裁ヲ受クヘキ者ニ非ストス(十六年八月九日)犯人ニ下付シタル監視票ハ官文書ノ性格ヲ有セサルカ故ニ犯人ノ毀棄スルモ官文書ヲ毀棄シタル者ヲ以テ論スルヲ得ス何トナレハ監視票ノ性質ハ犯人謹慎ヲ表スル爲メ警察署ニ其票ヲ出シ認印ヲ受クルモノニシテ專ラ監視ノ刑ヲ受クル犯人ニ便益ヲ與フル爲ナレバ已ニ其票ヲ犯人ニ下付シタル以上ハ是乃チ犯人ノ所有ニ同シキヲ以テナリ

第二百四條

判例

(十九年四月十三日)刑法第二百四條ニ依リ官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造行使シタル者ハ重罪ニ入ルルハ其明文ニ在ル如ク公債證書地券ハ勿論其他之ニ次キ社會公衆ノ權義上ニ關スル危害稍大ナルモノ即チ不動產買賣讓與又ハ書入質入等登記ヲ必要トスルノ類ニ限ルモノトナサシル可ラズ故ニ勸解出願ノ代人願書ニ戶長ノ與書ヲ要スルカ如キハ等シク戶長ノ職務ヲ以テ爲スヘキ者ナレハ是唯其勸解職ニ對シ代人ノ屬籍ヲ證明スル迄ニテ一般公衆ノ權義ニ關スルモノト同日ヲ以テ論ス可キ者ニアラサルコト多言ヲ俟タスシテ明カナレハ原裁判所ニ於テ之ヲ官文書偽造ト爲サスシテ刑法第二百十條第二項ヲ適用シタルハ固ヨリ其當ヲ得タル者トス(附

ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス(刑)自至一九八、二〇六、二〇九、二一〇、其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百四條 公債證書

地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造シ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處

第二百五條

判例

(十九年四月十七日)刑法第二百五條官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ云々トハ假令戶長役場筆生ニモセヨ官吏タル戶長ノ管掌ス可キ職務ヲ履行スルキハ即チ官吏ノ資格ヲ有シ之ヲ管掌スルモノナレハ戶長代理ノ職ニ在テ其管掌スル文書ヲ偽造シタルハ本條ノ制裁ス可キハ勿論ナリトス

第二百五條 官吏其管

掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ(刑)一六七、一七四、一九七、其文書ヲ毀棄シタル



第二百六條

學說 本條ハ無用ノ條ナリトノ非難ヲ免レズ何ントナレハ本條ノ罪ハ數罪俱發一ノ重キ官印偽造罪ニ問フベキハ當然ニシテ特ニ本條ヲ俟テ後チ知ラサルナリ

者亦同シ

第二百六條 官ノ文書

ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス(刑百九四、至九九)

第二百七條

第二百七條 此節ニ記

載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上

第二百八條

判例 (十七年十一月十五日) 文書偽造ノ罪ヲ成スニハ第一眞實ヲ變換スルヲ要ス  
ル一 第二害ヲ加フルノ意思 第三害ヲ生スル一ノ三條件ヲ具備スルヲ要ス

判例 (十七年十月二十八日) 被告ノ金員借用證ニ印影ヲ盜録シタルハ明治十四年六月ニアレニ爾後乙等ト謀リ明治十五年二月ニ至リ該證書ヲ行使シタルモノナレハ此行爲ニ對シテハ刑第二百八條ヲ適用スヘキ者トス

二年以下ノ監視ニ付

ス(刑三六)

第四節 私印私

書ヲ偽造スル罪

第二百八條 他人ノ私

印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス



第二百九條

**判例** (二十年六月六日) 原判文ニ被告カ偽造シタル借用證書ニ借主通用寺ヲ濫記シ該寺ノ印影ヲ盗用シ云々ト揭ケアリテ其罪ニ坐セシト雖正印モ寺院ノ金穀借入ハ明治十年第四十三號布告ニ準據セザレハ素ヨリ僧侶一箇ノ私債トナル可キモノニシテ假令法規ニ叶フト否トナ間ハ其寺院ノミノ名義ヲ以テ責ヲ負フノ謂ハレナケレハ必スシモ其住職若クハ法類之レニ連署ス可キハ勿論ニ付只無形タル寺院ノ印影ヲ盗用スルモ未タ此點ニ對シ害ヲ生スル理由ナケレハ之レヲ認メテ罪アルモノト云フヲ得ス

**判例** (十九年二月二十四日) 刑法第二百九條ノ所謂爲換手形及ヒ約束手形トハ裏書ヲ以テ賣買シ得可キ者ヲ指ス者ニシテ與産會ニ於テ一時支拂フ可キ金員ヲ該會金預リ人ヨリ受取場合其支拂ヲ受ク可キ者ニ付與スル證明書ニシテ乃チ一ノ切符ニ過キサレハ同第二百十條ノ所謂權利義務ニ關スル證書ト云フヘクシテ爲替手形ヲ以テ目ス可キ者ニアラス(二十年三月十日) 刑法第二百九條爲換手形トハ爲替手形約束手形條例ニ準據シ作ルヘキ爲換手形約束手形ノ類ヲ指シタルモノナリ然ルニ原裁判所ニ於テ被告カ偽造シテ行使シタルト認定シタル手形ハ爲換手形ト稱スヘキモノニ非ラス又裏書ヲ以テ所有權ノ移轉ス可キ性質ヲ有スル者ニ非スシテ記名者ナル被告ニ非ラサレハ此證書ヲ以テ該金額ヲ受取ルヲ得ザル者ナリ要スルニ權利義務ニ干スル證書ニ過キサルニ爲換手形ヲ偽造行使シタルモノト判定シタルハ不法ナリトス(附言) 本例ハ管理ノモノト看認スルヲ得ス宜ク後

(刑) 五  
若シ他人ノ印影ヲ盗用シタル者ハ一等ヲ減ス(刑) 一

第二百九條 爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ證書若クハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第二百十條

例ト參照スベシ(廿年九月十二日) 押モ刑法第二百九條ニ爲換ノ手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ證書若クハ金額ト交換ス可キ約束手形トハ單ニ明治十五年第五十七號布告爲換手形約束手形條例ニ定メタル手形ノミチ云フニ非ス郵便爲換手形ノ如キ郵便條例中特ニ爲換手形ニ係ル條規ヲ定メ發行シタル爲換手形モ共ニ包含スルノ法意ナリトス今本按原判文ニ認メタル被告カ郵便小爲換手形ヲ竊取シ之ニ拂渡局名及ヒ爲換受取人ノ住所姓名ヲ記入シ或ハ更改變換シテ行使シタル所爲ハ即チ刑法第二百十條ノ犯罪ヲ構成スヘキ事實ナルヲ論テ然ルニ原裁判所ハ該手形變換ノ所爲ハ竊盜ノ結果ナリ又ハ該手形ハ刑法ニ所謂爲換手形ト稱スヘキ者ニ非ス或ハ該變換ハ爲換條例ニ定メタル裏書ノ式ニ適セザレハ詐僞ノ裏書ト云フ可カラストノ理由ヲ附會シ別ニ一罪ヲ推造スヘキ者ニ非ストモ原來爲換手形ナル者ハ金額ノ代替物ナレハ之ヲ竊取シテ現金ト爲サンニハ夫々手續ヲ要スヘシト雖正其手續ヲ爲スヤ一箇ノ犯罪ヲ構成スヘキ變換行使等ノ事實明確ナルトハ強テ竊盜ノ結果ナリトシ容易ク不問ニ措クヲ得ザル者ナリ然ルニ原裁判所ハ右ノ事實ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ上告第一論旨ノ如ク不當ノ裁判ナルノミナラス判文中段以下ノ理由ニ依レハ該手形ヲ竊取セシハ尋常竊取ノ如クナルモ其前段ノ理由ニ(被告某ハ曾テ伊勢國三重郡四日市郵便局ニ雇ハレ同局ニ於テ郵便物發着及其區別等ノ事務ヲ担任シタル者ニシテ) トアルヲ見レハ被告ハ當時郵便局ニ職ヲ奉シ其職務上担任シテ監守ノ責アル郵便物ヲ竊取シタル者ノ如シ果シテ然ラハ監守ノ盜罪ヲ構成スヘキ者ナリ(下略)(附言) 本例ハ前掲二十年三月十日ノ判例ト其判理ニ於テ矛盾スルモノナリ而シテ其當ヲ得タルモノハ則チ本例ナル乎ト信ス

**判例** (十七年九月二十四日) 刑法第二百十條文書偽造罪ハ人ニ對スルノ目的ニアリ第一ハ偽造行使ニシテ第二ハ 益ヲ得ントスルニアリ然レモ偽

(刑) 四  
其手形證書ニ詐僞ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シ

第二百十條 賣買貸借贈遺交換其他權利義



造罪ハ第一ノ目的ニ達スルニ於テハ其罪ヲ偽造ス人ニ害ヲ加フルノ念慮ナク唯其弟ノ犯罪ヲ藏匿センカ爲メ屬書ヲ詐爲シタル者ト雖モ第二百十條第二項ノ罪ヲ構成ス(十九年六月五日)原判文ニ(其所有ノ田畑廿二筆ヲ公賣ニ付セラルトニ際シ右ノ田畑ハ云々甲等カ講金ノ抵當ト爲シタルヲ以テ公賣落札ヲ低クシ再ヒ被告ヘ買戻シ講金ノ抵當ヲ完フシ被告カ所有ノ權ヲ失ハサル爲メ甲ニ謀リ他ニ投票者ノ無キヲ偵知シ金六十圓ヲ他借シテ甲ニ渡シ同人ヲシテ低價ノ入札ヲ爲サシムル前其投票ノ扣チ貰ヒ受ケ)云々トアルニ據レハ原裁判所ハ甲カ爲シタル本件ノ投票ハ其實被告カ自己ノ爲メ全人ヲシテ之レヲ爲サシメタルヲ認メタル者ト言ハサルヲ得ス然レハ則チ縱令ヒ被告ニ於テ該投票ヲ變換スルモ他人ニ對シ害ノ生スヘキ道理ナキヲ以テ之レヲ罰スヘキ者ニ非サルニ原裁判此ニ出テ被告ヲ處罰シタルハ上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ナリト判定シ原裁判ヲ破毀シ直チニ無罪且ツ放免ス(十九年七月九日)刑法第二百十條ハ其明文ノ如ク權利義務ニ關スル證書ヲ偽造行使シタル者ニ適用ス可キ法文ニシテ若シ之ヲ行使セザレハ本條ノ罪ヲ組成セザルヤ言テ俟タス(二十年四月十二日)被告ノ所爲ニハ惡意變質及ヒ損害ノ三要件ハ既ニ具備セル者ニシテ今之ヲ細言センニ被告カ無人及ヒ有合印ヲ用イテ借用證書ヲ作爲シ以テ債主ヲ説明セントノ犯法心ヲ生シ之ヲ決行セシハ所謂惡意ニシテ又其貸借ノ合意ヲ表明スルニハ必ス真正ナラサル可ラサル署名捺印ニ無人及ヒ有合印ヲ用ヒシハ所謂眞實ノ變換ニシテ又債主カ因テ以テ債主權ヲ證明スルノ一具ナル契約書ノ偽造タルキハ其權利ノ執行上ニ多少ノ困危ヲ醸生ス可ク是レ其所謂有害ナレハナリ(二十年四月二十七日)原判文ヲ觀ルニ甲ノ代人ト爲リ某裁判所ニ出頭ノ際該事豫備ノ爲メ甲ヨリ全人實印押捺ノ白紙一葉ヲ預リ置キ當時不用ニ屬シタルヲ返戻セス其儘所持シ

造罪ハ第一ノ目的ニ達スルニ於テハ其罪ヲ偽造ス人ニ害ヲ加フルノ念慮ナク唯其弟ノ犯罪ヲ藏匿センカ爲メ屬書ヲ詐爲シタル者ト雖モ第二百十條第二項ノ罪ヲ構成ス(十九年六月五日)原判文ニ(其所有ノ田畑廿二筆ヲ公賣ニ付セラルトニ際シ右ノ田畑ハ云々甲等カ講金ノ抵當ト爲シタルヲ以テ公賣落札ヲ低クシ再ヒ被告ヘ買戻シ講金ノ抵當ヲ完フシ被告カ所有ノ權ヲ失ハサル爲メ甲ニ謀リ他ニ投票者ノ無キヲ偵知シ金六十圓ヲ他借シテ甲ニ渡シ同人ヲシテ低價ノ入札ヲ爲サシムル前其投票ノ扣チ貰ヒ受ケ)云々トアルニ據レハ原裁判所ハ甲カ爲シタル本件ノ投票ハ其實被告カ自己ノ爲メ全人ヲシテ之レヲ爲サシメタルヲ認メタル者ト言ハサルヲ得ス然レハ則チ縱令ヒ被告ニ於テ該投票ヲ變換スルモ他人ニ對シ害ノ生スヘキ道理ナキヲ以テ之レヲ罰スヘキ者ニ非サルニ原裁判此ニ出テ被告ヲ處罰シタルハ上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ナリト判定シ原裁判ヲ破毀シ直チニ無罪且ツ放免ス(十九年七月九日)刑法第二百十條ハ其明文ノ如ク權利義務ニ關スル證書ヲ偽造行使シタル者ニ適用ス可キ法文ニシテ若シ之ヲ行使セザレハ本條ノ罪ヲ組成セザルヤ言テ俟タス(二十年四月十二日)被告ノ所爲ニハ惡意變質及ヒ損害ノ三要件ハ既ニ具備セル者ニシテ今之ヲ細言センニ被告カ無人及ヒ有合印ヲ用イテ借用證書ヲ作爲シ以テ債主ヲ説明セントノ犯法心ヲ生シ之ヲ決行セシハ所謂惡意ニシテ又其貸借ノ合意ヲ表明スルニハ必ス真正ナラサル可ラサル署名捺印ニ無人及ヒ有合印ヲ用ヒシハ所謂眞實ノ變換ニシテ又債主カ因テ以テ債主權ヲ證明スルノ一具ナル契約書ノ偽造タルキハ其權利ノ執行上ニ多少ノ困危ヲ醸生ス可ク是レ其所謂有害ナレハナリ(二十年四月二十七日)原判文ヲ觀ルニ甲ノ代人ト爲リ某裁判所ニ出頭ノ際該事豫備ノ爲メ甲ヨリ全人實印押捺ノ白紙一葉ヲ預リ置キ當時不用ニ屬シタルヲ返戻セス其儘所持シ

第二百十條二項

タルヲ寄貨トシ云々トアリテ其白紙ヲ不正ノ所爲ニ使用シタルハ善良ノ所爲ニアラサル言テ俟タスト雖モ印影盜用ノ罪ハ使用シタル條件アルヲ以テ足レトセス使用ノ外尙ホ所有主ノ承諾ナキニ私擅ニ押捺シタルノ一條件ヲ欠キタル者ナレハ其所爲ハ唯タ貸金證書偽造方法中ノ所爲タルニ過キサル者トス(十九年三月二十九日)死亡届ノ如キハ其性質上ニ干スル證書ニシテ財産上ニ干スル證書ニ非ス財産ニ干スル者ハ權利義務ニ關スル證書ト謂フ可キモ身上ニ干スル者ハ權利義務ニ干スル證書ト謂フヲ得サルナリ故ニ之ヲ偽造行使セシ所爲ニ對シテハ刑法第二百十條第二項ヲ適用ス可キ者トス(二十年二月廿六日)凡ソ證書ノ變換行使トハ證書ノ眞實ヲ虛欺ニ變更シ之ヲ他人ニ交付スルノ謂ナレハ則チ附帶上告論旨ノ如ク義務ニ屬スル事項ヲ除却シ之ヲ填補シタル所爲ハ毀棄ヲ蔽フ爲メノ策略又ハ結果タリトハ決シテ謂フヲ得サル者ナリ何者毀棄滅盡ナル者ハ或ル事實ヲ埋滅虛無ニ歸セシムルノ謂ニシテ變更ナルモノハ或ル事實ヲ或ル他ノ事實ニ作成スルノ謂ナレハナリ

令訓 (十七年七月三十日司法省ヨリ山縣裁判所酒田支廳檢事ヘ内訓) 戶長ヲ廢スルカ爲メ又ハ被告人召換ノ際或ハ保釋中呼出ノ節或ハ其他ノ事ニ因リ醫師囑託ヲ受ケ詐僞ノ疾病證書ヲ作りタル者ハ公務ヲ免ル可キタメノ一元素ナキモ其所爲ノ害ヲ生スル者ナレハ刑法第二百十條第二項ニ該ルヘキ者トス

其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加



第二百十一條

ス(刑)二五、  
二二三三、  
第二百十一條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス  
(刑)二二、  
二二三三、  
第二百十二條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下

第二百十二條

**學說** 本節ノ罪ハ有形上偽造文書ノ罪ト異テラサレ其目的ニ至リテハ大ニ異ナルモノアリ文書偽造ハ其目的詐欺取財ニアレ本節ノ罪ハ或ハ公務ヲ免レ或ハ警察ノ規則ヲ免レントスルニアリ乃チ其目的ヤ小ニ其害ヤ淺シ是レ其偽造文書罪ニシテ特ニ刑ヲ輕フスル所以ナリ

第二百十三條

**判例** (十九年九月廿一日) 刑法第二百十三條ノ罪タル惡意偽造及ヒ行使ノ事實ヲ具備シテ組成スルコト勿論ニシテ其餘條件有セザレハ問題ス可キ限ニ非ラザルナリ(中略)抑モ行使トハ他ニ對シ現ニ其鑑札ヲ使用シタル場合ヲ云フ者ニシテ之ヲ他人ニ示サス單ニ所持シタルト云フヲ以テ法律上謂フ所ノ行使トナスヘキモノニ非ス

ノ監視ニ付ス(刑)二三八、  
第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪  
第二百十三條 官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ

信用ヲ害スル罪



第二百十四條

判例 (十七年十月二十五日) 刑法第二百十四條ノ犯罪タル第一詐偽ノ意思 第二詐偽ノ所爲 第三免狀鑑札ヲ受ケタルヲ 以上三條件ヲ具備スルヲ要ス故ニ此内一條件タリトモ闕乏スル時ハ此罪ヲ組成セサルモノトス

附加ス但官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス(刑)百至二〇二、二一四、二二七、

第二百十四條 屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他

詐偽ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二

第二百十五條

學說 本條ノ罪ハ其偽造シタル證書ヲ行使シテ始メテ罪ヲ成スモノナリ故ニ偽造スルモ未ダ行使ヲ爲サル時ハ罪トナラス又醫師ニ囑託シテ其詐偽ノ證書ヲ貰ヒ受ケルモ之レヲ行使セスシテ只己レニ保存スルノミニテハ尙ホ罪トナラス必ラス其貰ヒ受ケタルヲ行使セサル可カラス行使シテ始メテ罪ヲ成スモノトス

圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑)二二七、二二八、官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下附シタル者ハ一等ヲ加フ

第二百十五條 公務ヲ

免カル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニ

信用ヲ害スル罪



第一百五十二條

學說

囑託ヲ受ケタル醫師其證書ヲ偽造シ之レナシテ公務ヲ免ル可キ人ニ交附シタルモ其人ニシテ之レヲ行使セサルニ於テハ尙ホ醫師ノ罪モ成立セサル可シ何トナレハ未タ社會ニ害ヲ與ヘサレハナリ

第一百六十六條

スルヲ分タス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑)一七八、一八〇、二〇〇、二二七、  
醫師囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ證書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フ(刑)一  
第二百十六條 陸海軍ノ徴兵ヲ免カル可キ

第二百十七條

判例

(十七年十月三十一日)刑法第二百十七條ノ罪タル免狀鑑札等ヲ自ラ増減變換シテ行使スルヲ要スルハ勿論ニ付キ假令變造物タルヲ知テ之ヲ行使スルハ其變造ノ事ニ干與セサル以上ハ無論該條ノ罪ヲ構成セサルモノトス

爲メ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ證書ヲ造リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ(刑)一  
第二百十七條 免狀鑑札及ヒ疾病ノ證書ヲ増減變換シテ行使シタル者ハ亦偽造ノ刑

信用ヲ害スル罪



令訓 (十七年一月十五日司法省ヨリ新潟縣へ指令) 賭博犯ニ關スル證人  
偽證及ヒ誣告者ハ刑法ニ依ルノ限リニアラス

第二百十八條

學說

本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一證據ノ信實ニ違背スルコト 第二  
此證據ニ因リテ害ヲ醸スベキコト 第三其目的タル事柄ニ付裁判所  
ヲ惑ハシムルノ意思アルコト是レナリ尤モ其證據タル裁判所ニ於ケル證據即  
チ資格アル證人タルベキヲ要スルハ論ヲ俟タサルナリ又偽證ノ罪ハ自ラ重  
キ性質ヲ有ス則チ此罪ハ證人タルノ誓ニ背キ裁判官ヲ欺キ社會ヲ害スルノ  
三害アルヲ以テナリ

判例

(十七年十月二十五日) 刑法第二百十八條ニ被告人ヲ曲庇スル爲メ  
事實ヲ掩蔽シテ云々トアルハ有罪ノ事實ヲ掩蔽シ曲テ被告人ヲ保  
庇スル場合ニ適當スル法條ニシテ本按被告人カ所爲タル其證言ハ信實ノコ  
トニ非ト雖モ原裁判官カ論スル如ク甲ハ其兄カ冤罪ナルヲ知りナカラ之レヲ  
證明スルノ策ニ苦シミ乙ニ託シテ偽證ヲ爲サシメ乙ハ之ヲ承諾シ不實ノ陳  
述ヲ爲シタルニ止マリ致テ被告人カ有罪ノ事實ヲ掩蔽セン爲メ保庇シタル  
ニ非ラサレハ之ヲ以テ刑法第二百十八條ニ依リ所斷ス可キ犯罪ナリト謂フ  
事ヲ得サルモノトス

ニ同シ(刑)二二三、

第六節 偽證ノ罪

第二百十八條 刑事ニ

關スル證人トシテ裁  
判所ニ呼出サレタル  
者被告人ヲ曲庇スル  
爲メ事實ヲ掩蔽シテ  
偽證ヲ爲シタル時ハ  
左ノ例ニ照シテ處斷  
ス(刑)二九二、三〇〇、二八六、四  
二五(治)百一七〇〇、五一九〇、

第二百十八條二項

學說

重罪ヲ曲庇スル爲メ云々トアリ則チ重罪ニハ性質上重罪ナルアリ  
或ハ宥恕等ヲ以テ重罪ヲ輕罪トスルコトアリ然レニ此ニ所謂重罪  
トハ性質上ノ重罪ナリヤ又結果ニ因テノ重罪ナリヤノ疑アリ然レモ此ニ云  
フ重罪トハ結果ニ因テノ重罪ニ非ラスシテ重罪裁判所ニ於テ曲庇スル爲メ  
偽證シタル者ヲ云フナリ如何トナレハ若シ結果ニ因テ定ムルモノナリト  
セハ其被告人ノ身分ニ因テ重罪ヲ輕罪トナシ或ハ無罪トスル時ハ重罪事件  
ヲ曲庇シタル者アリト雖モ輕キ刑ニ處スルカ或ハ又罰スルヲ得サルニ至レ  
ハナリ是故ニ重罪ヲ曲庇スルトハ重罪裁判所ニ於テ曲庇シタル者ナリト解  
ス可キナリ然レニ重罪裁判所ノ重罪ト云フハ豫審ニ於テ偽證スルハハ罰  
スルヲ得サルニ至ラン然レハ斯ク解釋スルモ亦十分ナラス原按ニ於テハ重  
罪公訴事件ニ付云々トアリタリキ

一重罪ヲ曲庇スル爲

メ偽證シタル者ハ

二月以上二年以下

ノ重禁錮ニ處シ四

圓以上四十圓以下

ノ罰金ヲ附加ス

二輕罪ヲ曲庇スル爲

メ偽證シタル者ハ

一月以上一年以下

ノ重禁錮ニ處シ二

圓以上二十圓以下

信用ヲ害スル罪



第二百二十九條

學說

本條偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免レタルハ社會ノ害大ナルカ故ニ其刑一等ヲ加フ

ノ罰金ヲ附加ス  
三違警罪ヲ曲庇スル  
爲メ偽證シタル者  
ハ違警罪ノ本條ニ  
依テ處斷ス(刑)四二  
第二百十九條 偽證ノ  
爲メ被告人正當ノ刑  
ヲ免カレタル時ハ偽  
證者ノ刑前條ノ例ニ  
照シ各一等ヲ加フ  
(刑)三二一、  
二八六

第二百二十條

學說

重罪ニ陷ラシムル爲メトハ文字明確ナラス何ントナレハ重罪裁判所ニ於テ重罪ニ陷ラシムル爲メ偽證スルコアリ或ハ輕罪裁判所的ニ因テ罪ヲ定ムルカ如キニ至レハナリ故ニ重罪被告事件ニ付云々ト解セサル可カラス

第二百二十條二項

判例

(十九年五月六日)刑法第二百二十條第二項ノ犯罪ハ第一惡意アルコト即チ裁判官ヲ欺クコト 第二信實ニ違フコト即チ誓ニ反スルコト 第三害アルコト三條件ヲ具備シテ以テ構造スト雖モ其誓ニ反シタル物ハ證人ノ資格ヲ有スル宣誓ヲナシ之ニ反シタルニ非ラサレハ構造スルモノニアラス今上告第三點ニヨリ一件書類ヲ査閱スルニ甲ハ乙ニ對シ詐欺取財ノ告訴ヲナシ併セテ民事原告人トナルノ申立ヲナシタルヤ明察タレハ從テ民事原告人甲ノ親屬タル被告人等ハ證人タルノ資格ナキヤ治罪法第百八十一條第二項ニ照ラシ明ラカナリ果シテ然ラハ原裁判官ニ於テ證人ノ資格ナク宣誓ヲ爲サシム可カラサル被告人等ニ宣誓ヲ爲サシメタルモノナレハ其宣誓ニ反シタリトモ刑法第二百二十條第二項ノ偽造罪ヲ構造シタルモノト云フヲ得ス然ルニ原裁判官ノ該法條ヲ適用シテ所斷シタルハ擬律ニ錯誤アル不法

信用ヲ害スル罪

百九十五

第二百二十條 被告人  
ヲ陷害スル爲メ偽證  
ヲ爲シタル者ハ左ノ  
例ニ照シテ處斷ス  
(刑)二八、二九、二八六、三五五、  
四二五(治)百一七〇、至一九〇、  
一重罪ニ陷ラシムル  
爲メ偽證シタル者  
ハ二年以上五年以  
下ノ重禁錮ニ處シ  
十圓以上五十圓以  
下ノ罰金ヲ附加ス



ノ裁判ナリト判定シ原裁判ヲ破毀シ直ニ刑法第二條ニ依リ無罪且放免ス

二輕罪ニ陷ラシムル  
爲メ偽證シタル者  
ハ六月以上二年以  
下ノ重禁錮ニ處シ  
四圓以上四十圓以  
下ノ罰金ヲ附加ス  
三違警罪ニ陷ラシム  
ル爲メ偽證シタル  
者ハ一月以上三月  
以下ノ重禁錮ニ處  
シ二圓以上十圓以

第二百一十一條

學說

反坐トハ佛語之ナリヨシト云ヒ報復ノ意即チ偽證ヲ以テ罪ニ  
陷レタル者ハ其者ノ受ケタル刑ト同一ノ刑ヲ以テ之ニ報ユルコトナ  
リ如此偽證者ヲシテ被害者ノ受ケタル刑ト同一ノ刑ニ處スルヲ以テ前條  
ノ如ク別ニ其刑ヲ定メスシテ可ナルカ如シ然レハ被害者ニシテ未タ刑ノ  
執行ヲ受ケサル前ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ實際其害ノ生セサルニ猶  
ホ偽證者ヲ其刑ニ反坐スル如キハ甚タ嚴ニ過クルヲ以テ前條ノ如ク其刑ヲ  
別個ニ定メタリ

下ノ罰金ヲ附加ス

第二百一十一條

偽證

ノ爲メ被告人刑ニ處  
セラレタル後ニ於テ  
偽證ノ罪發覺シタル  
時ハ偽證者ヲ其刑ニ  
反坐ス若シ反坐ノ刑  
前條ニ記載シタル偽  
證ノ刑ヨリ輕キ時ハ  
前條ノ例ニ照シテ處  
斷ス(刑)二九、二八六、  
三五五、三五七、



第二百一十二條 項

學說 本項ノ場合ハ偽證ノ爲メ刑ヲ受ケタル者ノ現ニ經過シタル刑期迄反坐ノ刑ヲ減ス可キモノニシテ決シテ其刑ノ性質ヲ變スルヲ得ズ尤モ然ル時ハ三年ノ有期徒刑二年ノ無期徒刑ノ如キ奇ナル刑ヲ生スレハ是レ已ムヲ得サルコトニシテ即チ立法者ノ茲ニ設ケタル例外ノ刑ナリ若シ他ノ刑ヲ科スルトセバ反坐ノ性質ヲ失フニ至ル可シ立法者ハ已ニ第五十三條ニ假出獄ナルモノヲ設ケタルニ因リ無期徒刑ニ處セラレタル者十五年ニ至テ假出獄ヲ許サレタルハ其刑十五年ノ無期徒刑ニシテ即チ例外ナリ之レト同シク本條ノ反坐ノ刑ヲ減等シタルモ亦例外ナリトス

第二百一十二條

學說 偽證ノ爲メ被告人死刑セラレタルハ偽證者ヲ其刑ニ反坐シ若シ其刑期限内偽證ノ罪發覺シタルハ現ニ經過シタル日數ニ照ラシ通常偽證ノ刑期ニ至ルマテ反坐ノ刑期ヲ減スルヲ得ルヲ以テ原則トス然レモ被告人偽證ノ爲メ死刑ニ處セラレタルハ此原則ニ從テ處斷スルコトヲ得ス而シテ死刑ニ一等ヲ減シ無期徒刑ニ處スル所以ノモノハ必竟裁判官ニ於テモ被告人ヲ裁判スルニ偽證者ノ偏言ノミヲ確信シタルノ過失アルニ偽證者ヲ死刑ニ反坐スルハ甚タ苛酷ナルノミナラス死刑ハ一時ニ執行スル所ノモノナルニ依リ未タ之ヲ執行セサル前ニ於テ其罪發覺シタルハ何レノ點ニ

其刑期限内ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルヲ得但減シテ前條偽證ノ刑ヨリ降スヲ得ス

第二百一十二條 偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反坐ノ刑一等ヲ減ス其

至ル迄反坐ノ刑ヲ減シテ可ナル平根據ス可キ所ナレハナリ故ニ本項條ニ死刑ニ付テハ反坐ノ刑一等ヲ減シ其未タ刑ヲ執行セサルハ二等ヲ減ス可シト定メタリ又被告人ヲ死ニ陥ルノ目的ニ出テ偽證ヲ爲スハ其情重ク恰モ夫ノ謀殺ト異ナラス之レヲ死刑ニ反坐スル實ニ當然ノ事ナリ而シテ其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ偽證ノ罪發覺シタルハ其害少キヲ以テ一等ヲ減スト定メタリ

第二百一十三條

學說 民事商事又ハ行政裁判ニ關シタル偽證罪ヲ成スニモ第一惡意アル第二信實ニ違フ第三害アルコト三條件ヲ要ス而シテ刑事

信用ヲ害スル罪

未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス若シ被告人ヲ死ニ陥ルノ目的ヲ以テ偽證ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反坐ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス

第二百一十三條 民事



ニ在テハ被告ノ人ヲ曲庇スル爲メ又ハ之レヲ陷害スル爲メニ非ラサレハ偽證ノ罪ヲ成サス民事商事行政ハ之ニ反シ原告ノ人ニナラス他人ニ損害ヲ齎ス以上ハ其罪ヲ爲スモノトス然レハ民事ノ偽證ハ刑事ノ如ク人ノ性命身體榮譽等ニ關セス是レ刑事ノ偽證罪ヨリ其刑ヲ輕フスル所以ナリ

第二百二十四條

**學說** 鑑定人又ハ通事等モ宣誓スベキモノトス故ニ詐僞ノ陳述ヲ爲シタル時ハ偽證ノ罪ヲ受ケサル可ラス此ニ裁判所ニ呼出サレタル者云々トアレハ鑑定人疾病ノ時ハ豫審判事其家ニ就キ審問ス故ニ呼出シタル者ニ非ラス然レハ此等ノ場合ハ呼出狀ヲ發スルヲ以テ尙可ナリト雖モ勅任官ニ對シテハ呼出狀ヲ發スルヲ得ス然ラハ勅任官ハ第二百十八條第二百二十四條ノ罪ヲ犯スモ罰スルヲ得サルニ至ラン

商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽證ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十四條 鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記載

第二百二十五條

**學說** 本條ニ其他ノ方法ト云フハ其意甚タ汎濶タリ凡ソ人ニ偽證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲シメタル手段ハ賄賂ハ固ヨリ命令ナリ詐僞ナリ暴行ナリ如何ナル手段モ皆ナ包含スベシ而シテ本條ハ元來教唆ノ罪ト同シキヲ以テ教唆ニ必要ナル條件ヲ具備セサル可ラス即チ其教唆ノ所爲能ク偽證者ノ精神ニ勢力ヲ及ボシ其精神ヲ束縛スル所爲アルヲ必要ナリトス故ニ被教唆者其教唆ノ如ク偽證シタル時ハ教唆者偽證ノ罪アルベキハ勿論ナレハ若シ被教唆者偽證ヲ承諾スルモ裁判所ニ於テ實事ヲ述偽證ヲ述ヘサリシ時ハ教唆ノ結果生セサルヲ以テ第八條ヲ通用セサルベカラス又被教唆者偽證タルノ事實ヲ知ラス其囑託ヲ受ル所ハ眞實ノトト信シ法廷ニ於テ其證言ヲ爲シタル時ハ其被教唆者ハ偽證罪トナラス唯其教唆者ノミ偽證罪アルモノニシテ此場合ハ其教唆者ハ偽證ノ正犯ナリ被告人自ラ偽言ヲ陳フルハ辨護權ノ中ニ入ルヲ以テ罪トナラサレハ八ニ囑託シテ偽證セシメタル時ハ偽證ノ罪ヲ成スモノトス

シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス(刑一七九、自三(准)一五七、自一九一、至二〇〇、)

第二百二十五條 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ亦偽證ノ例ニ同シ

第二百二十六條

**學說** 本節ノ罪ハ證人タルノ誓ニ背キ裁判官ヲ欺キ社會ヲ害スルノ三害アルカ故ニ之レヲ罰スルモノナリ而シテ本條ハ自首ノ例外ナリト

第二百二十六條 此節



ス何ントナレバ自首ハ元來一等又ハ二等ヲ減スルノミナルニ之ヲ全免スレ  
 バナリ之レヲ全免スル所以ノモハ凡ソ偽證ノ所爲タル其事件未タ宣告ニ  
 至ラサル前ニ在テ官ニ首出スルニ於テハ其害未タ然ニ防クノ益アリ故ニ本  
 條ヲ設ク本刑ヲ免ストシ自首ヲ誘導シ無辜ヲ罰セザラシメシヲ欲シテナ  
 リ而シテ此自首モ亦總則ノ原則ニ從フベキモノナルヤ言ヲ俟タズ故ニ其自  
 首ハ必スシモ其偽證ノ未タ發覺セサル中ニ於テセサルベカラズ又一且偽證  
 スルモ未タ裁判宣告ニ至ラサルノ間ニ前言ノ誤謬ナルヲ述ヘ之ヲ取消シ  
 タルハ於テモ偽證ヲ以テ論スルヲ得ズ何ントナレハ自カラ之ヲ取消スル  
 ハ害ノ未タ生セサルヲ以テナリ

ニ記載シタル罪ヲ犯  
 シタル者其事件ノ裁  
 判宣告ニ至ラサル前  
 ニ於テ自首シタル時  
 ハ本刑ヲ免ス(刑八八、  
 一三六、  
 九二三、  
 五六)

第七節 度量衡

ヲ偽造スル罪

第二百二十七條 度量

衡ヲ偽造シ又ハ變造  
 シテ販賣シタル者ハ

第二百二十七條

學說

本條ノ罪ハ二條件ヲ以テ成ル第一度量衡ノ偽造又ハ變造タルヲ  
 第二販賣シタルヲ 但爲メニ官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ盜用シタ  
 ル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照ラシ數罪俱發ヲ以テ論ス又其偽造シタル迄ニ  
 テ販賣セサル以上ハ罪ヲ爲サズ又販賣トアルヲ以テ若シ之レヲ贈與シ又ハ  
 自ラ使用シタル時モ罪トナラス然レモ若シ其使用ハ利ヲ得ル爲メニシテ既  
 ニ利ヲ得タル時ハ詐欺取財ノ既遂トナルベシ

第二百二十八條

學說

販賣シタル者ハ云々トアルヲ以テ販賣セサルニ於テハ本條ノ罪ヲ  
 成サトルモノトス例ヘハ只之ヲ店頭ニ並列シタルカ如キハ未タ罪  
 トナラズ又未遂犯ニモ非サルナリ凡ソ販賣トハ買主ト賣主ト契約ヲ爲シタ  
 ル時ヲ云フモノニシテ店頭ニ並列スル如キハ其危險ナキニアラサレモ到底

信用ヲ害スル罪

第二百二十八條 偽造

變造ノ情ヲ知テ其度

二年以上五年以下ノ  
 重禁錮ニ處シ十圓以  
 上五十圓以下ノ罰金  
 ナ附加ス但官ノ記號  
 印章ヲ偽造シ又ハ盜  
 用シタル時ハ偽造官  
 印ノ各本條ニ照シ重  
 キニ從テ處斷ス(刑自  
 一九四、  
 〇二)



本條ニ於テハ之レヲ罰スルヲ得サルモノナリ

第二百二十九條

學說

本條ニ所有ノ文字アルヨリ適用上ニ困難ヲ生ズル場合アリ何ントナレハ所有トアル以上ハ其職業場ニアラサル別宅ニ置クカ又ハ博物館等へ出品シ置クモ所有權アルキハ罰セサルヲ得ザルノ不都合アリ又所有トアレハ他人ヨリ借受ケタル物ニ係ル時ハ之レヲ職業場ニ現置スルモ罰スルヲ得サルノ不都合アレハナリ

判例

(十九年五月二十四日) 上告ノ理由トスル所被告ハ農工商ニ非ラサレハ定規ヲ減シタル榊ヲ以テ米穀ヲ販賣スルモ刑法第二百二十九條ノ正面ニ該當セスト云フニ在レハ假令被告ハ土方受買業ニモセヨ既ニ該當ノ破壞セシ即チ定規ヲ減シタル榊ニテ白米ヲ量リ販賣シテ利ヲ得タル事實明ラカナル上ハ面ノアタリ商賣ノ業ヲ營ミタル事故テ疑フ所ナクシテ素ヨリ刑法第二百二十九條ノ制裁外ナリト論スルヲ得ズ(附言) 律ニ正條ヲ要スルノ原則ヨリ云フ時ハ農工商以外ノ者ニ於テ之レヲ所有スルモ罪ヲ以テ問フヲ得ズ殊ニ本例ノ事實ハ單ニ詐欺取財ノ本條ニ依ルベキモノト信ス

學說

本條初項ハ商賣農工商ニシテ定規ヲ増減シタル度量衡ヲ其職業場或ハ其店頭等ニ於テ所有スルモノ之ヲ使用スルノ危險アルヲ以テ其

量衡ヲ販賣シタル者  
ハ前條ノ刑ニ一等ヲ  
減ス

第二百二十九條 商賈  
農工定規ヲ増減シタ  
ル度量衡ヲ所有シタ  
ル者ハ一月以上三月  
以下ノ重禁錮ニ處シ  
二圓以下二十圓以下  
ノ罰金ヲ附加ス(刑)  
若シ其度量衡ヲ使用

第二百二十九條

第二百三十條

所有ヲ禁制スルモノナリ今マニ項ノ由テ起ル所以ノモノハ他ナシ其初項ノ所有シタルノ結果トシテ之レヲ使用シ利ヲ得タル者ノ處分法ヲ明カナラシムルニ過キサルナリ故ニ商賣農工商以外ノ者其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル時ハ直ニ詐欺取財ノ本條ニ依テ處分スルノミ敢テ本條ノ關スル所ニアラサルナリ

學說

本條ハ囑托ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シタルヲ以テ罪ヲ成ス然ルニ囑托ヲ爲シタル犯人ハ之ヲ販賣セザレハ罪ヲ成サザルニ其却テ囑托ヲ受ケシ者ハ未タ其販賣ナキニモ關カハラス罪ヲ成スハ甚タ奇怪ナルカ如シ然レハ一步ヲ退ヒテ考フル時ハ囑托者ニ於テハ賣テ利ヲ得ルニアレハ受囑者ニ於テハ製作シテ利ヲ得ルニアリ即チ多少ノ利ヲ製作ノ爲メニ得ルモノト假想セサルベカラス然ラハ則チ其之ヲ自カラ偽造シテ販賣スル者トハ情稍ヤ輕シト雖モ利ヲ得ルノ點ニ於テハ同日ノ論ナリ故ニ之レヲ罰スル所以ナルベシ

シテ利ヲ得タル者ハ  
詐欺取財ヲ以テ論ス  
(刑)三九〇、  
三九二、

第二百三十條 人ノ囑  
託ヲ受ケテ度量衡ヲ  
偽造シ又ハ變造シタ  
ル者ハ其囑託シタル  
犯人ノ刑ニ照シ各一  
等ヲ減ス

第八節 身分ヲ  
詐稱スル罪



第二百三十一條

學說 身分ヲ詐稱スルノ罪トナルハ警察上ノ處分ヲ誤ラシムルヲ以テナリ此罪ハ道德ニ背戾スルコト僅少ニシテ社會ヲ害スルコト殆ト無シト雖モ警察ノ取締上ヨリ之ヲ罰スルモノトス屬籍トハ郡區町村府縣又ハ華士族平民等ノ如キヲ云ヒ身分トハ父母若クハ夫妻又ハ後見人或ハ代理者タル各自受クル所ノ待遇ヲ云フ

判例

(十七年十一月十三日)犯人カ糾問ヲ受クルニ該テ氏名ヲ詐稱スルカ如キハ辨護部内ニ在ルハ犯人ノ常情ナルヲ以テ審理審判時ハ容易ニ之ヲ看破シ得ヘキモノナレハ素ヨリ刑法ノ制裁ヲ受ク可キモノニ非サレモ其偽名ヲ以テ裁判ヲ受ケ爾後其刑ノ執行ヲ受クルニ至ルモ尙ホ氏名ヲ詐稱シ居リタル者ハ既ニ刑法第二百三十一條ノ罪ヲ犯セシモノトス(附言)本例ハ學理ニ適シタルモノトハ認メカキカ如シ○(十九年八月廿四日)凡ソ法術ニ於テ訊問ヲ受クルニ際シ氏名ヲ偽稱スルカ如キハ被告人タルモノノ常情ニシテ必竟犯罪ヲ辨護スルノ手段ニ外ナラザレハ刑法ノ支配ヲ受ク可キモノニアラス又監獄署ニ於テ前詐名ヲ以テ刑ノ執行ヲ受ルモ固ヨリ右ノ結果ニ過キザレハ是又刑法上ノ制裁スル所ニアラス(附言)本例ト前掲十七年十一月十三日ノ判例ト其判理齟齬スルモノナリ而シテ之レヲ法理ニ實ス時ハ本例ヲ以テ其當ヲ得タルモノト信ス(十九年九月十四日)刑法第二百三十一條ハ身分ヲ詐稱シ信用ヲ害スル所爲ニ施スヘキモノニシテ被告人カ逮捕セラレ、ニ際シシ卿實氏名ヲ詐稱スルカ如キハ素ヨリ普通ノ常情ニシテ畢竟被告事件ヲ辨護スルノ意思ニ外ナラザルヲ以テ該條ヲ以テ論スベキ限リニアラザルナリ

第二百三十二條

學說

本條僭用トハ用ユ可キ權ヲクシテ用非タル者ヲ云フ此僭用ハ公然ノ僭用ヲ指スモノニシテ人民自己ノ家屋内ニ在テ官服ヲ着シ勳章

第二百三十二條 官職

第二百三十一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齡職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(刑)一七八、二二四、

ナ僭用スルカ如キハ本條ノ僭用ト爲サ、ル所ナリ

學說

公選ノ投票トハ行政上規定スル所ノ選舉投票ハ總テ包含スベシ即チ國會代議士府縣會議員聯合會町村區會議員其他所得稅評議員選舉投票等是レナリ且ツ將來市町村制ノ實施ニ至テハ同制ニ定ムル所ノ選舉投票ノ如キハ固ヨリ論ヲ俟タサルモノトス

學說

増減トハ投票ノ數ヲ拔キ差シスルヲ云フモノニシテ其意廣シ本條ノ罪ハ二條件ヲ以テ成ル第一政事ニ關スル投票ナルコト 第二其偽

信用ヲ害スル罪

第二百三十三條 公選

位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ内外國ノ勳章ヲ僭用シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九節 公選ノ

投票ヲ偽造ス

ル罪



造若シクハ其數ヲ増減シタルハ是レナリ  
判例 (十六年八月九日) 村總代ヲ選フニ際シ其投票ヲ偽造シタルモ固ヨ  
リ政事ニ關スル投票トハ大ニ其性質ヲ異ニスルヲ以テ其所爲ハ刑  
法上之ヲ罪スヘキモノニ非ラス

第二百三十四條

學說 本條賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシムルトハ自己ノ當撰ヲ圖ルト他人ノ  
當撰ヲ圖ルトニ論ナク賄賂ヲ賄テ投票セシメタル者又ハ賄賂ヲ收  
受シ若クハ約束シテ投票シタルモノハ皆本條ノ罪アリ或ハ曰ク本條ニ賄賂  
ヲ聽許シタル者ノ明文ナシ果シテ然ラハ單ニ約束ノミヲ以テ投票ヲ爲スモ  
敢テ問フ所ニアラスト此レヲ駁スル者曰ク其レ蓋シ當理ノ論ニアラサルベ  
シ何ントナレハ其約束ニ依テ爲シタル投票ハ固ヨリ正當ト云フベカラサル  
ハ言ヲ俟タス之レヲ以テ信用ヲ害スルヤ其賄賂既收ト未收トニ別ツナカル  
ベシ況シテ律ノ精神ヨリ之レヲ云ヘハ其聽許ハ受ケトアル文字中ニ包含ス  
ルヤ明カナリト其賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメタル罪ハ三條件ヲ以テ成ル第

ノ投票ヲ偽造シ又ハ  
其數ヲ増減シタル者  
ハ一月以上一年以下  
ノ輕禁錮ニ處シ二圓  
以上二十圓以下ノ罰  
金ヲ附加ス(刑三  
一〇三)

第二百三十四條 賄賂

ヲ以テ投票ヲ爲サシ  
メ又ハ賄賂ヲ受ケテ  
投票ヲ爲シタル者ハ  
二月以上二年以下ノ

輕禁錮ニ處シ三圓以  
上三十圓以下ノ罰金  
ヲ附加ス

第二百三十五條

一投票ヲ爲サシムル爲メニ金錢物品ヲ贈與シ又ハ贈與スルノ約束ヲ爲シタ  
ルヲ 第二因テ投票ヲ爲ス者ハ其權ヲ有スル者タルヲ 第三其者其囑託ノ  
投票ヲ爲シタルハ是レナリ其賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ノ罪ハ三條件  
ヲ以テ成ル第一現ニ賄賂ヲ受ケ又ハ受ケルノ約束ヲ爲シタルヲ 第二投票  
權アルヲ 第三囑託ノ如ク投票ヲ爲シタルハ是レナリ若シ收賄者贈賄者ノ  
意ニ反シタル投票即チ正當ノ投票ヲ爲シタルニ於テハ或ハ場合ニ因テ詐偽  
取財ノ罪ヲ成スモ本條ノ罪ハ成立タサルベシ

學說

本條ハ其罪重シ何ントナレハ投票ヲ檢査シ又ハ其數ヲ計算スル者  
ハ之レヲ犯スニ易ク其害隨テ大ナレハナリ本條ノ罪ハ二條件ヲ以  
テ成ル第一投票ヲ檢査シ及ヒ其數ノ計算ヲ爲スノ任アル者タルヲ 第二投  
票ヲ偽造シ又ハ増減シタルハ是レナリ

第二百三十五條 投票

ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ  
計算スル者其投票ヲ  
偽造シ又ハ増減シタ  
ル時ハ六月以上三年  
以下ノ輕禁錮ニ處シ  
四圓以上四十圓以下



第二百三  
十六條

**學說** 投票ノ効果ハ結局ニ至ラサレハ之レヲ生セズ然ルニ其投票ノ調書ヲ造リ之ヲ報告スル者ニ於テ其數ヲ増減シ其他詐偽ノ所爲アルモノハ其重大ナル責任ニ背違スルノミナラス社會之カ爲メニ被ムル害モ亦大ナリトス是レ此刑ノ重キ所以ナリ本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一調書ヲ製シ投票ノ結局ヲ報告スルノ任アル者タルヲ 第二投票ノ數ヲ増減シタルカ又ハ詐偽ノ所爲アルト是レナリ

ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十六條 調書

ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ増減シ其他詐偽ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五章 健康ヲ害スル罪

スル罪

健康ヲ害スル罪

**學說** 第五章ノ罪ハ公衆ノ健康ヲ害スル場合ヲ云フモノニシテ一人ノ健康ヲ害シタル時ヲ云フニアラス又第一節ノ罪ハ本邦ノ法律ニノミ規定アル所ナリ元來阿片ハ味美ナルモノ之ヲ吸食セハ健康ニ大害ヲ來スモノナリ故ニ其罪ノ性質ヨリモ之カ刑ノ重キ所以ナリ爰ニ阿片ト云フハ藥用

阿片ヲ云ヒシニアラス只吸食ニ供スルモノヲ是レ云フノミ

第一節 阿片烟

ニ關スル罪

第二百三  
十七條

**學說** 本條ハ單純ノ條件ヲ以テ成ル則チ阿片烟ヲ輸入スレハ直ニ罪トナリ之ヲ製造スレハ直ニ罪トナリ之ヲ販賣スレハ亦直ニ罪トナル此販賣トハ職業トシテ賣捌ク謂ヒナリ故ニ之ヲ人ニ譲リ與フ如キハ本條ノ罪ニアラズ然レハ之レヲ他物ト交換シタル時ハ如何ン其目的利益ヲ得ルニ在ルハ是レ販賣ト異ナル所ナシ故ニ賣捌ノ方法ヲ以テ交換シタル時ハ猶ホ本條ノ罪アリ

第二百三十七條 阿片

烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第二百三  
十八條

**學說** 本條ノ罪ニ於ケルモ單純ノ條件ニ依テ成ル則チ其器具ヲ輸入シタルヲ以テ直ニ罪ト成リ之ヲ製造シテ直ニ罪ト成リ之ヲ販賣シテ亦罪ト成ス

第二百三十八條 阿片

烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル

健康ヲ害スル罪



第二百二十九條

學說 稅關官吏カ其情ヲ知テトハ他人カ阿片烟ヲ其器具ヲ輸入スルヲ明許又ハ默許スルヲ云フ此所爲アツテ則チ罪ヲ成スモノナリ尤モ此罪ヲ成サンニハ稅關官吏カ其職務ヲ執行スル時ニ於テ爲シタルヲ必要ト爲ス

者ハ輕懲役ニ處ス

第二百二十九條 稅關

官吏情ヲ知テ阿片烟

及ヒ其器具ヲ輸入セ

シメタル者ハ前二條

ノ例ニ照シ各一等ヲ

加フ

第二百四十條 阿片烟

ヲ吸食スル爲メ房屋

ヲ給與シテ利ヲ圖ル

者ハ輕懲役ニ處ス

第二百四十條

學說 本條ノ罪ハ二條件ヲ以テ成ル第一阿片烟ヲ吸食スル爲メニ房屋ヲ給與スルヲ 第二利ヲ得ルノ意アルヲ是レナリ

第二百四十二條

學說 第二項ノ罪ハ二條件ヲ以テ成ル第一誘引スルヲ 第二阿片烟ヲ吸食セシメタルヲ是レナリ

(引二〇九)

人ヲ誘引シテ阿片烟

ヲ吸食セシメタル者

亦同シ

第二百四十一條 阿片

烟ヲ吸食シタル者ハ

二年以上三年以下ノ

重禁錮ニ處ス

第二百四十二條 阿片

烟及ヒ吸食ノ器具ヲ

所有シ又ハ受寄シタ

第二百四十一條

學說 本條ハ阿片烟ヲ吸食シタルヲ以テ罪ヲ成ス

第二百四十二條

學說 本條ノ罪ハ單純ノ條件ヲ以テ成ル則チ阿片烟ヲ所有シタルハ罪ヲ成シ其吸食ノ器具ヲ所有シタル時ハ罪ヲ成シ阿片烟又ハ吸食ノ器具ヲ受寄シタルハ其罪ヲ成スモノナリ

健康ヲ害スル罪



學說

人ノ健康ニ最モ大關係ヲ及ホスモノハ飲用水ナルハ豫メ此節ヲ設ケ之ヲ保護セリ

第二百四十三條

學說

本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一飲用水ナルヲ 第二汚穢シテ用フルヲ能ハサルニ至ラシメタルヲ 第三故意アルヲ是レナリ

ル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス  
(刑)二六〇、三  
九、四〇一、

第二節 飲料ノ

淨水ヲ汚穢ス

ル罪

第二百四十三條 人ノ

飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルヲ能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一日

第二百四十四條

學說

本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一飲用水ナルヲ 第二人ノ健康ヲ害ス可キ物質ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタルヲ 第三故意アルヲ是レナリ

以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 人ノ

健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又腐敗セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰



第二百四十五條

學說 前條ノ罪ハ故意ヲ以テ健康ヲ害スル物質ヲ飲用水ニ混シ其性質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタルニ成リ人ヲシテ疾病又ハ死ニ至ラシムルノ目的ヲ以テ爲シタルヲ主要セス故ニ前條ノ罪ヲ犯シ爲メニ人ノ疾病又ハ死ニ至リタルハ此レ其犯人ノ豫期セサル偶然ノ結果ニシテ其目的ニハアラサルナリ此ヲ以テ其結果ニ因テ罪ヲ論スル毆打創傷ニ準シ各本條ニ照ラシ重キニ從テ處斷スヘシトセリ若シ其人ヲ殺スノ目的ヲ以テ前條ノ罪ヲ犯シタルトキハ毒殺ノ罪ヲ以テ論スベキモノナリ

金ヲ附加ス

第二百四十五條 前條

ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シテ重キニ從テ處斷ス(刑百二十九、三〇八)

第三節 傳染病

豫防規則ニ關

スル罪

第二百四十六條 傳染

第二百四十六條

學說 本節ハ特別規則ニ關スル罪ナリ而シテ本節ニ於テハ其刑ノミヲ規定シ其違背ノ方法細目ハ傳染病豫防規則ヲ以テ明カナラシメタリ又本節ニハ禁錮又ハ罰金トアリ是レ其罪ノ結果ノ大小ヲ量リ裁判官ニ於テ其一ヲ撰テ之ヲ科スルモノニシテ決シテ一時ニ禁錮ト罰金トヲ併科スルヲ得サルモノトス

トチ許サス然ルチ違背シテ上陸又ハ荷上ケナスル者ハ其地方人民ノ健康ニ害ヲ與フルノ患ヒ太甚シキモノナリ是レ本條ヲ設ケタル所以ナリ故ニ本條ノ罪タル許可ヲ得スシテ上陸及ヒ荷上ケタル時ハ直ニ罪ヲ成スモノトス而シテ此罪ヲ成スニハ敢テ意思ノ有無ヲ問ハサルモノナリ

第二百四十七條

學說 船長ハ船中ニ在テハ船内警察ノ權等凡テノ全權ヲ有スルカ故ニ人ノ前條ノ罪ヲ犯スヲ制セサルニ於テハ本條ノ罪ニ該ルベキモノトス其一等ヲ加フ理由タルヤ其全權ヲ有スルモノハ其責任ニ至テモ亦最モ重キヲ以テノ故ナリ

健康ヲ害スル罪

病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス(刑四二六)

第二百四十七條 船長

自ラ前條ノ罪ヲ犯シ



又ハ人ノ犯スヲ知  
テ制セサル者ハ前條  
ノ刑ニ一等ヲ加フ

(刑)一六七、一九七、  
二〇五、四二六、

第二百四十八條 傳染  
病流行ノ際豫防規則  
ニ違背シテ流行地方  
ヨリ他處ニ出タル者  
ハ十五日以上六月以  
下ノ輕禁錮ニ處シ又  
ハ十圓以上百圓以下

第二百四十八條

學說

十四年第五拾八號布告ヲ以テ虎列刺病已ニ市村ノ全部又ハ一部ニ在テ蔓延ノ兆ヲ顯ス時ハ之レヲ他ヘ蔓延セシメサル爲メ地方官ニ於テ內務大臣ニ稟議ノ上交通ヲ絶タシムルノ處分法ヲ定メタリ故ニ傳染病流行ノ際此等ノ處分アリタル時許可ヲ得スシテ其地ヨリ他所ニ出ル時ハ意思ノ有無ニ拘ハラズ本條ノ罪ヲ成スモノトス

第二百四十九條

學說

本條ハ獸類ノ傳染病流行ノ際ニ獸類ノ所有者若クハ使用者ニ於テ其豫防規則ニ違背シ獸類ヲ流行地ヨリ他所ニ出シタル者ハ意思ノ有無ヲ問ハズ之ヲ處罰スルニアリトス而シテ其刑ノ前條ヨリ輕キモノハ人命ニ比スレハ致命ハ大ニ輕キヲ以テナリ

ノ罰金ニ處ス(刑)四二六、  
四二八、

第二百四十九條 獸類  
ノ傳染病流行ノ際豫  
防規則ニ違背シテ獸  
類ヲ他所ニ出シタル  
者ハ十一日以上二月  
以下ノ輕禁錮ニ處シ  
又ハ五圓以上五十圓  
以下ノ罰金ニ處ス

第四節 危害品及

ヒ健康ヲ害ス可

學說

本節ハ前節ト同シク特別規則ニ關スルノミニシテ其刑ノミニテ此ニ規定シタルモノトス



キ物品製造ノ規

則ニ關スル罪

第二百五十條 官許ヲ

得スシテ危害ヲ生ス

可キ物品ノ製造所ヲ

創設シタル者ハ二十

圓以上二百圓以下ノ

罰金ニ處ス(刑)一五七、  
四二五、

若シ健康ヲ害ス可キ

物品ノ製造所ヲ創設

シタル者ハ十圓以上

第二百五  
十條

學說 本條ノ罪ハ二條件ヲ以テ成ル第一危害實物ノ製造所ヲ創設スル  
第二官許ヲ得サルニ是レナリ而シテ本條ノ罪ニハ意思ノ有無ハ要  
セサルモノトス

第二百五  
十條二項

學說

健康ヲ害ス可キ物品トハ惡水惡烟若クハ臭氣惡質ノ蒸氣ヲ發出シ  
健康ヲ害スルモノ、如キヲ云フ

百圓以下ノ罰金ニ處

ス

第二百五十一條 官許

ヲ得テ前條ニ記載シ

タル製造所ヲ創設ス

ト雖モ危害ヲ豫防シ

健康ヲ保護スル規則

ニ違背シタル者ハ前

條ノ例ニ照シ各一等

ヲ減ス

第二百五十二條 前二

第二百五  
十一條

學說

本條ハ其危害豫防健康保護ノ規則ニ違背スルヲ以テ罪ヲ成スモノ  
トス故ニ別ニ規則ナキニ於テハ本條ノ罪ヲ成サレルナリ

第二百五  
十二條

學說

官許ヲ受ク可キニ之レヲ受ケス又ハ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル  
ノ規則ヲ遵守ス可キニ之ヲ遵守セス此レ皆不行犯ニシテ元來無意

健康ヲ害スル罪



犯ノミ故ニ此結果ニ依リ人ヲ疾病死傷ニ致ス之ヲ過失殺傷ニ問フ法理ノ當  
サニ然レベキヲ以テナリ

條ノ罪ヲ犯シ因テ人  
ヲ疾病死傷ニ致シタ  
ル時ハ過失殺傷ノ各  
本條ニ照シ重キニ從  
テ處斷ス(刑)皇三二七、  
三二九、

第五節 健康ヲ

害ス可キ飲食  
物及ヒ藥劑ヲ  
販賣スル罪

第二百五十三條 人ノ  
健康ヲ害ス可キ物品

第二百五  
十三條

學學

本條ノ罪ハ二條件ヲ以テ成ル第一健康ヲ害ス可キ物品ナルヲ 第  
二故意ヲ以テ飲食物ニ混和シタルヲ 第三之レヲ販賣シタルヲ是  
レナリ若シ混和スルノ意思ナク偶然混和シテ販賣シタル時ハ本條ノ罪ハ成  
立セサルモノナリ

第二百五  
十四條

學說

賣藥取扱規則中第二類ノ毒藥第三類ノ劇藥ハ醫師處方書ニ依テ調  
合スルノ外醫師藥舖化學者製藥者工職者等ヨリ品名量數需要ノ目  
的年月日及ヒ住所姓名ヲ詳記シタル證書ヲ以テスルニ非ラサレハ決テ之ヲ  
販賣授與ス可カラズ其證書ヲ以テスルモ幼稚ノ者又ハ不安心ト認ムル者ニ  
ハ一切交附ス可カラズト定メタリ若シ此規則ニ違背シ毒藥劇藥ヲ販賣シタ  
ル者ハ社會公衆ノ健康ヲ害スルノ恐レアリ是レ本條ノ設ケアル所以ナリト  
ス

第二百五  
十五條

學說

本條モ第二百五十二條ト同ク人ヲ害スルノ意ナキ時ニ適用スルノ  
條ニシテ若シ意思アリテ犯シタルモノニハ本條ヲ適用スルヲ得  
ズ

ナ飲食物ニ混合シテ  
販賣シタル者ハ三圓  
以上三十圓以下ノ罰  
金ニ處ス(刑)皇二四三、至  
二四五、四二六、  
第二百五十四條 規則  
ニ違背シテ毒藥劇藥  
ヲ販賣シタル者八十  
圓以上百圓以下ノ罰  
金ニ處ス  
第二百五十五條 前二  
條ノ罪ヲ犯シ因テ人

健康ヲ害スル罪



ナ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス(刑)二九三、三〇七、自三二七、至三一〇、

第六節 私ニ醫

業ヲ爲ス罪

第二百五十六條 官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處

第二百五十六條

學說 醫術ナルモノ固ヨリ社會公衆ノ生命ヲ維持スルニ緊要欠クベカラサルモノナリト雖モ其ノニ之ヲ行フナ許ス時ハ無學無經驗ノ徒却テ公衆ノ生命ヲ傷害スルノ恐アリ故ニ學識經驗アリ醫術ヲ施スニ堪エベキ充分ノ能力アルモノニ限り之レカ醫業ヲ許容スル所以ナリトス然ルニ若シ官許ヲ得タル醫師ニシテ治療ノ方法ヲ誤リ人ヲ死傷ニ致シタルカ如キハ人事ノ防キ得可キニ非ラス此ヲ以テ法律ハ人事ノ防キ得可キヲ即チ官許ヲ受ケサル者ノ醫業ヲ爲スヲ禁シタルナリ

令訓 (十七年九月三日司法省ヨリ宮城縣へ指令) 刑法第二百五十六條ハ獸醫ヲ包含セス(十八年五月三十日第二七三四號司法省達) 從來官許ヲ得タル開業醫中ニハ内外科ヲ區別シテ專門ノ免狀ヲ附與セシ輩モ有之候處右ハ必スシモ其免狀ニ記載シタル科目外ノ治療ヲ許サトルノ旨趣ニ無

ス

之依テ齒科整骨科ヲ除クノ外内外科眼産科等ノ專門免狀ヲ有スル開業醫ニシテ普通ノ治療ヲ施スモ刑法第二百五十六條ニ照シテ處罰ス可キモノニアラス

判例

(二十年五月十九日)(非常上告要旨) 刑法第二百五十六條ハ自ラ門戸ヲ張リ私ニ醫業ヲ爲シタル者ヲ罰スル法條ニシテ其師ノ指揮ニ從ヒ代診ヲ爲ス場合ヲ支配スル者ニ非サレハ法律ノ制裁ヲ施ス可ラス云々(判決要旨) 免許ヲ受スシテ私ニ醫業ヲ爲ス者ハ醫師タルニ充分ナル學術ヲ備フルト否トテ論セス刑法第二百五十六條ノ制裁ヲ免レスト雖モ本按被告ハ開業醫ニシテ患者ヲ往診シタルニ止マリ別ニ醫業ヲ爲シタル者ニ非レハ之ヲ以テ同條ニ所謂官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者ト云テ得ス

學說

治療ノ方法ヲ誤ルハ必竟過失ニ出ルヲ以テ之レテ過失殺傷ニ問モナリ然ルニ本條ニ依ル時ハ官許ヲ得タル醫師治療ノ法ヲ誤リ過失殺傷ノ所爲アルモ其罪ナキカ如シト雖モ決シテ然ラズ若シ如此場合アラシカ直ニ過失殺傷ノ本條ニ依テ論スベキナリ但其線カニ治療ノ方法ヲ誤ルルハ如キハ其罪ハ不問ニ付スルモノトス

第二百五十七條 前條

ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス(刑)自三二七、至三一〇、

第二百五十七條

健康ヲ害スル罪



風俗ヲ害スル罪

學說

本章ニハ猥褻ノ罪賭博ノ罪及ヒ神佛ニ對スル不敬ノ罪等各其性質ヲ異ニスト雖モ皆是レ風俗ヲ害スルモノナリ

第六章 風俗ヲ害スル罪

第二百五十八條

學說

本條ノ罪ハ二條件ヲ以テ成ル第一猥褻ノ所爲ナルコト 第二公然ナルコト 猥褻トハ淫事ヲ行ヒ又ハ陰具ヲ見ハスカ如キ行爲ヲ云フ公然トハ衆人ガ去來スル場所即チ當然人目ニ觸ル可キ場所ニ於ケルヲ云フ故ニ深夜人ノ通行ナキ公道ニ於テ此所行ヲ爲スモ公然ノ場所ト云フヲ得ズ人ノ入來ラサル室内ニ於テ此所行アルヲ偶然外ヨリ人ノ目撃ニ係リタル時ノ如キモ猶ホ公然ノ場所ト云フヲ得サルベシ之レニ反シ室内ト雖モ公衆ノ目視シ得ル所ナレハ公然タルベク當然罪ト成ルベシ

第二百五十八條 公然

猥褻ノ所行ヲ爲シタ

ル者ハ三圓以上三十

圓以下ノ罰金ニ處ス

(刑)自三四六  
至三五四、

第二百五十九條 風俗

ヲ害スル冊子圖畫其

他猥褻ノ物品ヲ公然

陳列シ又ハ販賣シタ

第二百五十九條

學說

本件ノ罪ハ二條件ヲ以テ成ル第一風俗ヲ害スル冊子圖畫其他猥褻ノ物品タルコト 第二之レヲ販賣シ又ハ人目ニ觸ル、場所ニ陳列シタルコト是レナリ

第二百六十條

學說

賭場ヲ開張シテ利ヲ圖ルトハ賭博ヲ爲スノ場所ヲ設ケ人ヲシテ賭博ヲ爲サシメ其席料等ヲ得ルヲ云ヒ博徒ヲ招結スルトハ躬自ラ魁首ト爲リ多クノ博徒ヲ團結スルヲ云フ故ニ本條ハ賭博ヲ以テ平常職業トスル如キ者ヲ罰スルニアリ其招集ニ應シタル者ノ如キハ次條ニ因テ罰スベキ者ナリ○賭博ハ一ノ偶成契約ニシテ輸贏ヲ自然ノ成果ニ期スルモノ即チ財物ヲ賭シ其得喪ヲ偶然ノ成果ニ任スル業等ヲ云フ

第二百六十條 賭場ヲ

開張シテ利ヲ圖リ又

ハ博徒ヲ招結シタル

者ハ三月以上一年以

下ノ重禁錮ニ處シ十

圓以上百圓以下ノ罰

金ヲ附加ス(刑)二六一、  
四二八、

令訓

(十七年一月四日第一號布告)賭博犯ノ義ハ刑法第二百六十條第二  
百六十一條ニ明文有之候ヘトモ當分ノ内行政警察ノ處分ニ屬シ東  
京ハ警視廳其他ハ地方廳ヲシテ別紙賭博處分規則ニ依リ取締懲罰ノ事ヲ行  
ハシム(賭博犯處分規則)○第一條 賭博ヲ爲シタル者ハ二月以上四年以下  
ノ懲罰及ヒ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス家屋ヲ貸與シ及ビ見張ヲ爲シ  
其他總テ補助ヲ爲シタル者亦同シ博徒ニシテ黨類ヲ招結シ又ハ賭場ヲ開張  
シ又ハ兇器ヲ携帯シ又ハ四隣ニ横行スル者ハ一年以上十年以下ノ懲罰及ヒ  
五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス其招結ニ應シタル者ハ賭博ヲ爲サスト雖モ前項ニ依テ處分ス○第二條 賭具及  
ヒ賭場ニ現在スル財物ハ何人ノ所爲ナ間ハス之ヲ沒入ス○第三條 賭博犯ヲ取押フルニハ何人ノ家宅ヲ間ハス何時

風俗ヲ害スル罪



タリトモ之ニ立入ルコトヲ得但警察官巡查ハ其證票ヲ携帶スヘシ○第四條 此規則ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總  
監府知事東京府縣令ニ於テ便宜之ヲ定メ内務卿ノ許可ヲ得テ施行スルコトヲ得(十七年一月廿一日第十號太政官達)  
本年第一號布告ニ據リ懲罰ニ處シタル賭博犯人ハ明治十四年九月第八十一號達監獄則第一條第五項禁錮ノ刑ニ處セ  
ラレタル者ニ準シ服役其他ノ方法共總テ該則ニ依テ處分スヘシ此旨相違候事(十七年三月十九日司法省ヨリ秋田縣  
へ指令)本年第一號公布頒布前ノ賭博犯ヲ該公布ニ依リ懲罰ニ處シタル時ハ其科シタル懲罰過料ノ刑法ノ刑期金額  
内ニ在ルモノハ裁判所へ送付スルニ及ハスト雖其刑期金額ノ超過スルモノハ更ニ裁判所へ送付スベシ

第二百六十一條

**學說** 賭博罪ハ二條件ヲ以テ成ル第一財物ヲ賭シタルコト 第二現ニ博奕  
シタル博奕ナルコト 第二其博奕ナルコトヲ知テ房屋ヲ給與シタルコト是レナリ  
其財物トハ金錢貨幣米穀等ヲ云フ若シ賭博ヲ爲スノ際巡查ニ認メラレ逃走  
シタル者ノ如キモ一旦其現ニ行フ所ヲ發見セラレタルモノナレハ當然現行  
犯ナルヲ以テ其罪ヲ論スベキモノトス

第二百六十一條 財物

ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ  
爲シタル者ハ一月以  
上六月以下ノ重禁錮  
ニ處シ五圓以上五十  
圓以下ノ罰金ヲ附加  
ス其情ヲ知テ房屋ヲ

第二百六十二條

**學說** 賭博ノ器具トハ賭博ニ用井タル骨子骨牌其他博奕ノ勝敗ヲ決スル  
ノ要具タル物品ヲ云フ此等ノ現場ニ在ル時ハ沒收スベシ然レモ夜  
中ニシテ蠟燭ヲ點シ賭博ヲ爲スモ此蠟燭ハ賭博ノ器具ニ非サルヲ以テ沒收  
スルヲ得サルナリ若シ之ヲ沒收スルトモ賭博ニ在ル疊建具等迄モ沒收セ  
サルヲ得サルカ如キ奇怪ナルコトヲ生スベシ又犯者ガ現場ニ於テ其ノ賭博ニ  
供セントシテ懷中ニ包藏シ居リタル金錢ノ如キモ決シテ之ヲ沒收スルヲ  
得ス何ントナレハ現場ニ在ルトハ其金錢タル其場ニ現出シ居リタルモノヲ云フニ在レハナリ

第二百六十二條

**學說** 富籤トハ豫シメ數多ノ籤ヲ作り其籤ニ價額ヲ付シ且ツ當籤ノ種類  
ニ付キ得利ヲ釀金ノ全部或ハ幾分ト定メ當籤ヲ偶然ノ成果ニ期シ  
以テ財物ノ得喪ヲ約シ廣ク購買者ヲ求メ財物ヲ醜集シ而シテ其輸贏ヲ決  
スルノ興行ヲ云フ而シテ本條ハ前條ノ罪ト異リ富籤ヲ賣ル者ヲ罰シテ買者  
ヲ罰セス元來之ヲ買フ者ハ其從犯トシテ罰スルモ可ナリト雖モ之レヲ罰セ  
サルハ畢竟賣者アルカ爲メ偶然買フ者アルニ至ル故ニ立法者ハ豫メ其根源  
ヲ防キタルニ在リ

第二百六十二條 財物

ヲ醜集シ富籤ヲ以テ  
利益ヲ僥倖スルノ業  
ヲ興行シタル者ハ一

風俗ヲ害スル罪



令訓 (明治十五年五月廿四日第二十五號布告) 明治元年十二月二十三日

ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保補助ヲ爲シ及ヒ富籤ヲ講買シタル者處分法左ノ通り制定ス○第一條 凡富籤賣買ノ牙保若クハ補助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス○第二條 凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトテ間ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及他人ヨリ譲リ受ケタル者亦同シ○第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコトヲ得ス○第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタルモノニハ其徵ス所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス○第五條 富籤ニ關スル犯罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス○再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス○第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス(自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ因ル)右奉 勅旨布告候事

月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑)二六二

第二百六十三條

學說 (死骸ハ)一個ノ有形物ニ過スト雖モ其之ヲ敬重ス可キハ文明諸國ノ習俗ナリ故ニ本章ノ罪ハ特リ我刑法ノミナラス各國ノ刑法皆之ヲ規定セリ夫レ如此敬重スベキ者ナルニ之レニ對シテ無法ノ所行ヲ爲スハ其死者ノ榮譽上ニ對シ不敬ナルノミナラス其親族ニ汚辱ヲ加フルモノナリ法律之レヲ不問ニ措サル所以ナリ

本條ノ罪ハ現場ニ於テ公然ノ所爲タルヲ緊要ナリ現場ニ於テ公然ニアラステ陰然ニシテ人ノ覺知スル能サルノ所爲ハ罪ヲ成サス蓋シ陰然ノ所爲ハ公衆ノ感覺ヲ動スナキヲ以テ之レヲ罰スルノ必要ナケレハナリ必竟本條ノ罪タル重ニ道德ヲ害スルモノトス何ントナレハ自分ノ尊敬セサルノ故ヲ以テ他人ノ尊敬ヲ妨クルノ惡行ヲ爲シ以テ信仰者ヲ害スルニアレハナリ

第二百六十三條 神祠 佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ所爲アル者ハ二圓以上

二十圓以下ノ罰金ニ處ス(刑)一四二、四三六

若シ說教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

第二百六十四條 埋葬

ス可キ死屍ヲ毀棄シ

學說 本條埋葬ス可キ死屍トハ將ニ埋葬セントスル死屍ヲ云フ故ニ只死屍ト見做シテ可ナリ毀棄トハ毀ツト棄ルトトノ二義ヲ包含ス故ニ區別シテ解セサル可ラズ則チ本條ノ棄ツルチ罪スルハ之ヲ埋葬スベキノ責任アル者ニ限ル而シテ毀ツトハ其埋葬スベキノ責任アル者ト否トヲ論

死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

第二百六十四條



モス之ヲ毀ツニ於テハ本條ノ罪アリ尤モ之ヲ棄ツルノ所爲ハ敢テ惡意ヲ要セズノ其罪ヲ成立スベキモ其毀ツ者ハ必ス惡意アルヲ要スベキ者トス

判例

(十九年四月三十日)(事實摘要)原裁判所ニ於テハ被告ハ甲ガ乙方ニ於テ丙ト等論ヲ醸シ甲ヨリ其仲裁ヲ依頼セラレタルヲ以テ丙ハ

諸入り尙ホ和然ノ爲メ酒ヲ購ヒ互ニ飲酒中丙ハ又故ナク被告ニ等論ヲ仕掛ケタルヨリ甲ト共ニ其場ヲ立去リシ後甲ノ發意ニ同シ右丙ヲ打懲セントテ各割眞木ヲ携ヘ丙カ寓居ヘ向テ立越ス途中ニ於テ圖ラヌ丙ニ出會シタル際丙ハ怒聲ヲ發シ爾等兇輩何ヲ爲スト直ク甲ヘ打掛ルヨリ甲モ一層激怒シ其携ヘタル薪木ヲ以テ丙カ面部ヘ數度打込ミ其猛烈ナル打撲ヲ受ケ丙カ左額骨挫碎シ爲メニ腦振盪症ヲ發シ即時昏倒斃死シタル際被告ハ甲カ「夫レ打テ」ト云フ指示ニ從ヒ携ヘタル薪木ヲ以テ丙カ後頭部ヲ兩度毆撃シタルモノト認定シ右被告カ所爲ハ罰ス可キ正條ナシトテ刑法第二條ニ基ツキ無罪且放免ノ旨渡チ爲シタリ(原裁判所檢察官上告要旨及大審院檢事附帶上告要旨ハ大審院判決要領ニ於テ自カラ知ルヲ得可キニ依リ畧ス)例決要領)上告趣意ハ原裁判上死屍ヲ毆撃シタルト認定シナカラ刑法第二百六十四條ヲ適用セザリシハ不當ナリト云フモ該條ハ故サラニ死屍ヲ毀棄シタル者ヲ制裁スルノ法章タリ然ルニ被告カ丙ヲ毆撃シタルハ其意生ケル丙ヲ毆撃スルニ在リテ死セル丙ヲ毆撃スルニアラサレハ被告カ所爲ニ對シ該條ヲ適用ス可キ者ニ非ス又附帶上告ノ要旨ハ被告カ薪木ヲ携ヘテ甲ト共ニ其場ニ臨ミタルハ幫助ノ所爲ナリト云フニ在ルモ個ハ被告カ甲ト共ニ丙ヲ毆撃セントスルノ所爲ニ止リ甲カ丙ヲ毆打シタルニ關シ毫モ幫助ノ所爲アルニ非サレハ之ヲ以テ刑法第三百六條ニ適スル幫助ノ所爲ナリト云フヲ得ス若シ之ヲ以テ幫助ノ所爲ナリトセハ全第三百五條ニ所謂現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科スノ法文ハ殆ント解ス可カラサルニ至ラン如何トナレハ共謀人ヲ毆打シタル者ハ皆幫助ノ罪アルヲ以テ傷ヲ爲スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科スルヲ要セサレハナリ然ルニ附帶上告者ハ全第三百六條ニ

タル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(刑)二六五、自四二五、至四二七、

對シ一個ノ說ヲ附シ全第三百五條ハ共謀シテ毆打ヲ爲ス場合ニ適用ス可ラスト云フモ右兩條共ニ二人以上共ニ人ヲ毆打云々トアリテ其法文變モ異ナル所ナクレハ一ハ共謀ノ場合ニ適シ一ハ適ス可ラスト云フヲ得サルノミナラス全第三百六條ハ單ニ共謀人ヲ毆打スル幫助者ノ制裁ヲ規定シタルニ止リ共謀者各自ニ人ヲ傷ケタルノ場合ニ適用スベキニ非ス然ルニ該條ニ人ヲ傷セスト雖モトアレハ共謀ニ出テ、人ヲ傷シタルハ勿論該條ニ由テ處斷セサル可ラスト云フモ如何シテ斯ノ如キ者ヲ該條ニ依テ處斷シ得ベキヤ該條ニハ其處斷シ得ベキ法文ナキチ如何セン論シテ此ニ至レハ前文辨明ノ如ク該條ハ單ニ幫助者ヲ制裁スルノ法章ニ止マレリ其共謀人ヲ毆打シテ各々傷ヲ爲シタル者ハ全第三百五條ニ依ラサルヲ得スシテ同條ノ共謀毆打ヲ爲ス場合ニ適用スベキトハ勿論從テ本件被告カ所爲ハ全第三百六條ノ幫助ニ適セサルト益々著明ナリトス故ニ原裁判ハ疑律ノ錯誤ニアラサレハ上告及附帶上告共ニ其趣旨不相立モノト判定ス(下略)

對シ一個ノ說ヲ附シ全第三百五條ハ共謀シテ毆打ヲ爲ス場合ニ適用ス可ラスト云フモ右兩條共ニ二人以上共ニ人ヲ毆打云々トアリテ其法文變モ異ナル所ナクレハ一ハ共謀ノ場合ニ適シ一ハ適ス可ラスト云フヲ得サルノミナラス全第三百六條ハ單ニ共謀人ヲ毆打スル幫助者ノ制裁ヲ規定シタルニ止リ共謀者各自ニ人ヲ傷ケタルノ場合ニ適用スベキニ非ス然ルニ該條ニ人ヲ傷セスト雖モトアレハ共謀ニ出テ、人ヲ傷シタルハ勿論該條ニ由テ處斷セサル可ラスト云フモ如何シテ斯ノ如キ者ヲ該條ニ依テ處斷シ得ベキヤ該條ニハ其處斷シ得ベキ法文ナキチ如何セン論シテ此ニ至レハ前文辨明ノ如ク該條ハ單ニ幫助者ヲ制裁スルノ法章ニ止マレリ其共謀人ヲ毆打シテ各々傷ヲ爲シタル者ハ全第三百五條ニ依ラサルヲ得スシテ同條ノ共謀毆打ヲ爲ス場合ニ適用スベキトハ勿論從テ本件被告カ所爲ハ全第三百六條ノ幫助ニ適セサルト益々著明ナリトス故ニ原裁判ハ疑律ノ錯誤ニアラサレハ上告及附帶上告共ニ其趣旨不相立モノト判定ス(下略)

第二百六十五條

學說 本條初項ハ既ニ埋葬シタル後ニ於テ墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハスノ所爲ヲ罰ス此ノ所爲ハ死者ノ住所ヲ侵スノミナラズ其親族ヲ汚辱シ榮譽ヲ傷害スルヲ以テ其罪重シトス若シ發掘スルモ死屍棺槨ヲ見ハサルハ未滿犯ヲ以テ論スヘキナリ尤モ本條ハ惡意アツテ此所爲ヲ犯シタルヲ要ス故ニ改葬スルノ意思ヲ以テ其手續ヲ經シテ墳墓ヲ發掘シタルカ如キハ本條ノ罪ヲ成サズ

第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰

死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪



第二百六十五條二項

學說

第二項ハ前項ノ所爲アリ而シテ其死屍ヲ毀棄シタル者ハ其情狀一層重キヲ以テ之レヲ重キ刑ニ處スル所以ナリ

第二百六十六條

金ヲ附加ス(刑二六四)  
因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

學說

一國ノ盛衰ハ豈ラ農商工ノ興廢如何ニアルモノニシテ是レ實ニ經濟上大關係ヲ有スルモノトス故ニ其事業ノ安寧ヲ維持セン爲メ本章ノ設ケアル所以ナリ

第二百六十七條

學說

本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一人ノ需用ニ缺ケ可ラサル食用物ナルヲ第二賣買ニ係ルヲ第三僞計又ハ威力ヲ以テ之ヲ妨害スルヲ是レナリ但其物品ノ食用物以外ノ物品ニ係ル時ハ第二項ノ罪ヲ成ス又其賣買ニアラスシテ貸借ナルカ如キハ固ヨリ本條ニ依テ罰スルヲ得サルヘシ又草案ニハ食用物及ヒ香油薪炭木材ノ運輸賣買ヲ妨害シタル者トアリタレ本條ハ穀類其他衆人ノ需用ニ缺ケ可カラサル食用物ノ賣買ト限リタルヲ以テ香油薪炭木材ノ賣買ニ付テハ本條ノ制裁外ト云ハサルヲ得ズ又佛文原按ニハ輸出入運搬賣買ノ三者ヲ定メタリ此三者ノ如キハ問屋等ノ爲ス所ニシテ小賣買ニアラズシテ最モ大ナル賣買ナリ此賣買ヲ妨害シタル結果ハ公衆一般ニ害ヲ來スヲ恐ナカラザルヲ以テ之レヲ問スルニアリシナラン然ルニ本條ニ由テ見ル時ハ其賣買ノ大小ニ論ナク擧テ之ヲ問フモノト如シト雖モ若シ小賣買ニ就テモ悉ク之レヲ問フモノトセハ其際涯ナキノミナラス却テ大ナル弊害ヲ招クニ至ルベシ何ントナレハ商賣已レノ貨物ノ價格ヲ維

商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

第二百六十七條 僞計又ハ威力ヲ以テ穀類其他衆人ノ需用ニ缺ケ可カラサル食用物ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三



第二百六十七條二項

持セン爲メニハ多少ノ計畧アルハ商業上一般ノ常慣ナレハ之レヲ悉ク罰スルニ於テハ爲メニ商業ノ自由ヲ侵害シ大ニ振ハサルノ状態ヲ見ルニ至レハナリ由是觀之本條ノ精神ニ於ケル其實質ハ尙ホ公衆一般ノ安寧ヲ害スルモノヲ罰スルニ在ルモノト解セサルベカラズ○本條ノ偽計トハ詐僞ヲ用ユルヲ云ヒ威力トハ暴行脅迫ト云フノ意ナリ食用物トハ米穀ノミナラス場合ニ依テハ魚類菜類ノ如キモ亦缺ク可カラサル食用物トナルコアリ而シテ食用物ハ最モ人間生活ニ必要ナルカ故ニ其刑ニ於テモ亦重キ所以ナリ

學說

本項ノ物品ハ食用物以外ノ物品即チ膏油薪炭木材等衆人ノ需用ニ欠クベカラサル物品ノ賣買ヲ妨害シタル者ヲ罰スルニアリ而シテ其一等ヲ減スルモノハ同シク需用物トハ雖モ食用物ノ生活ニ於ケル如クニアラサルヲ以テ其情狀輕キ所以ナリ其他ノ理由ニ於テハ前項ト同一ナリ

第二百六十八條

學說

本條ノ罪ハ二條件ヲ以テ成ル第一糶賣又ハ入札ニ係ルコト 第二偽計又ハ威力ヲ以テ妨害スルコト是レナリ糶賣トハ動産不動産ヲ公賣スルコトナリ糶賣スルヲ得ベキモノハ其物品ノ所有權ノミナラス貸貸權使用權ニ至ル迄皆糶賣スルコトヲ得ベシ

圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑)二七二

前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百六十八條 偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑)二七二

第二百六十九條

學說

本條ノ罪ハ二條件ヲ以テ成ル第一業ノ農工ニ係ルコト 第二偽計又ハ威力ヲ以テ妨害スルコト是レナリ

第二百七十條

學說

本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一 偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲スコト 第二其所行ハ農工ノ雇人ノ其雇主及ヒ他ノ雇人ニ對スルコト 第三其妨害ハ雇賃ヲ増サシメ又ハ農工業ノ景況ヲ變セシムルノ意思ニアルコト其農工業ノ景況ヲ變セシムルトハ休業ノ日時ヲ増加シ又ハ行業ノ方法ヲ變改

商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

第二百六十九條 偽計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業ヲ妨害シタル者ハ亦前條ニ同シ(刑)四一九四二九、  
第二百七十條 農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシ



セシムルノ類ヲ云フ其妨害スルトハ如何ナルヲカ明瞭ヲ得ズト雖モ蓋シ其農工業ノ自由ヲ妨害スルノ意ナルベキカ

メ又ハ農工業ノ景況ヲ變セシムル爲メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十一條 雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農

第二百七十一條

學說 本條ノ罪ハ前條ニ反シ雇主カ雇人又ハ他ノ雇主ニ對シタル所爲ナリ則チ第一偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲ス 第二雇主ノ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對スル 第三其妨害ハ雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變スルノ目的タルノ三條件ヲ以テ罪ヲ成ス者トス

第二百七十二條

學說 本條ノ罪ハ二條件ヲ以テ成ル第一虛偽ノ風説ヲ流布シタル 第二爲メ穀類其他衆人需用物品ノ價直ヲ昂低セシメタルト是レナリ

工業ノ景況ヲ變スル爲メ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ亦前條ニ同シ  
第二百七十二條 虛偽ノ風説ヲ流布シテ穀類其他衆人需用物品ノ價直ヲ昂低セシメタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス



官吏瀆職ノ罪

學說

本章ノ罪ニハ直接ニ人民ニ害ヲ及ホスモノナキニ非サレモ盡ク之ヲ公益ニ關スル罪即チ第二編中ニ置キタルモノハ官吏ハ一國ノ施政ニ關與シ其職務ヲ奉スルモノナルニヨリ多少ノ威權ヲ有スルヲ以テ若シ其職務ニ背反シ之レヲ濫用スルハ其害タルヤ一私人ノ罪ヲ犯シタルヨリ大ニシテ其害ノ波及スル所モ亦廣シ故ニ之ヲ公益罪ノ部内ニ置キタリ而シテ本章ノ罪三個ノ區別アリ官吏人民ニ對スル罪、公益ヲ害スル罪、財産ニ對スル罪是レナリ茲ニ注意ヲ要ス可キ件アリ本節以下第二百九十一條ニ至ル迄ハ官吏タルノ身分ヲ以テ犯ス所ノ罪ナリ而シテ總則ニ身分ニ因テ刑ヲ加減スル時ハ其他ノ人ニ及ホスヲ得ストアルヲ以テ本節ニ於テモ人民ハ之ヲ補助スルモ官吏ノ罰セラルハ官吏タルノ身分ニ因テ然リ人民ハ決シテ罪ナシトスルハ總則ノ身分ニ因テ刑ヲ加減スルハ其他ノ者ニ及ホスヲ得スト云フノ法條ヲ誤解シタルモノニ人下雖モ之ヲ補助シ之ヲ教唆セハ或ハ正犯トナリ或ハ從犯トナルモノナリ

令訓

(十五年十二月二十八日第七十三號布告)憲兵卒其職務ニ關シ罪ヲ犯シタル時ハ官吏犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス(十六年十二月二日司法省ヨリ長崎縣へ指令)官林監守人職務ニ付テノ犯罪ハ官吏ト同視シテ處分スルヲ得ス

第二百七十三條

第九章 官吏瀆職ノ罪  
第一節 官吏公益ヲ害スル罪  
第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セス又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者ハ二月以上六月以下ノ

第二百七十四條

學說

兵隊ヲ要求スルノ權アル官吏トハ裁判官檢察官司法警察官ノ類ヲ云ヒ兵隊ヲ使用スルノ權アル官吏トハ陸海軍ノ將校ヲ云フ

輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑二三九)  
第二百七十四條 兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スル權アル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サ、ル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ



第二百七十五條

學說 商業ヲ爲スヲ禁スルモノハ官吏ニシテ商業ヲ營ムキハ不識不知ノ問々利慾ニ染淪シ爲メニ其威嚴ヲ失ヒ且往々其職務ヲ忽諸ニ附スルニ至ルト其職務上知り得タル機密ヲ資トシテ商品ノ相場ニ影響ヲ及ホシ利ヲ私スルノ奸策ヲ施ストノ憂アルニ由ル者ナリ故ニ若シ官吏ニシテ規則ニ違背シ商業ヲ營ムキハ必ス之ヲ罰シテ以テ公安ヲ維持セサル可ラス是レ本條ノ設クアル所以ナリ

令訓

(八年四月第六十五號太政官達)官吏商買ノ營業不相成ハ勿論ニ候處其區分別然タラサルニ付自今左ノ通被定候條此旨相違候事○但從前ノ指令之レニ牴觸スルモノハ廢止ト可心得候事○第一條 一凡ソ官吏タルモノ並ニ其家族トモ他ノ物品ヲ買入レ之ヲ餘入ニ賣リ以テ利ヲ獲ルモノ或ハ他ノ生産ヲ買入レ製作ヲ加ヘ之ヲ販賣シテ利ヲ獲ル等ノ業一切禁止ノ事○但神官教導職區長郵便取扱人學區取締役及ヒ等外吏ノ分ハ此限ニアラス(八年十月第七十六號ヲ以テ但書改正ス)○第二條 一官吏ノ家族自己ノ財ヲ以テ商買ノ業ヲ營マント欲スル者ハ分籍別居ノ上相營ムヘキ事○第三條 一左ノ數件ハ商買ノ業ニアラサルニ付官吏タルモノト雖モ制禁ニアラサルコト○但商買同様ノ店ヲ開ケハ不相成候事○一 嶺山借區營業及ヒ田地ヲ所有シ其利ヲ獲ル事(明治八年五月第八十七號達ヲ以テ第一項改正ス)○一 田地家屋ヲ貸シテ利ヲ獲ル事○一 金銀ヲ貸シテ利息ヲ獲ル事○一 所有地ヨリ生スル物産ニ製作ヲ加ヘ賣拂事○(十一年一月海軍省丙第十七號達)官吏商業不相成儀ハ明治八年四月中第六十五號公達ノ趣モ有之候處軍人軍屬ノ儀ハ一等卒以下ト雖モ軍艦乘組等級表ニ

二十圓以上百圓以下

ノ罰金ヲ附加ス(刑)

第二百七十五條 官吏

規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

圓以上五百圓以下ノ

罰金ニ處ス

第二百七十六條

列職スル者ハ自今左ノ通り可相心得此旨相違候事○一 他ノ物品ヲ買入レ之ヲ餘入ニ賣リ以テ利ヲ獲ルモノ或ハ他ノ生産ヲ買入レ製作ヲ加ヘ之ヲ販賣シテ利ヲ獲ル等ノ業一切禁止ノ事(八年八月第五十二號(院省使廳府縣)達)官地官林及ヒ不用ノ物品等公クノ入札法ヲ以テ拂下候節其官廳ニ屬スル官員ニ限リ本人ハ勿論其代理人ト雖モ投票爲致候儀不相成候條此旨相違候事(十四年五月第三十七號(官省院使廳府縣)達)官吏商業區分ノ儀ニ付テハ兼テ相違候趣モ有之候處自今道路河港ノ修築海陸ノ運輸土地ノ開墾及ヒ殖産ノ事業ヲ以テ目的ト爲シ設立スル會社ノ株主トナルハ不苦候條此旨相違候事(十四年五月陸軍省達)第二十八號達)官吏商買ノ營業不相成儀ハ明治八年第六十五號ヲ以テ御達相成候處今般後備軍職員(諸官廳ニ奉職スル列任官以上ノ者ヲ除ク)ニ限リ營業被差許候ニ付其業林ニ依リ認可スヘキ旨御達相成候條自今右望ノ者ハ其業林ヲ詳悉シ所管領臺ヲ經テ當省ヘ可申出此旨相違候事(十一年十二月內務省乙第八十號(府縣)達)内第四項)○一 郡區長書記ハ一般ノ官吏ト同ク商買ノ營業相成サル儀ト心得ベシ

學說

第二節ノ罪ニ依リ直ニ害ヲ蒙ル者ハ即チ職務ヲ行ハシムル所ノ政府ト人民トナリ何トナレハ官吏ハ政府ニ對シ其責任ヲ缺キ政府ノ信任ニ違背スレハナリ故ニ之ヲ公益罪ノ部ニ加ヘタルモノナリ(第二百七十六條ノ)人ナシテ其權利ナキ事ヲ行ハシムルトハ例ヘハ豫審判事法律ニ背キ常人ナシテ令狀ノ執行ヲ爲サシムル等ノ類ヲ云フ又其爲スヘキ權利ヲ妨害スルトハ例ヘハ訴訟關係人上訴ヲ爲サント欲スルニ書記擅ニ其上訴ヲ不當ナリトシテ之ヲ却下シ又ハ被告人辯護人ヲ用ヒントスルニ裁判長故ヲニ之ヲ拒絕シテ許サス又ハ擧舉人投票ヲ爲サントスル際シ警察官擅ニ之ヲ妨害スルノ類皆是レナリ又本條ノ罪ハ官吏ノ職務ヲ行フ時ハ常人ト異ナルコトナシ故ニ本條ハ官吏ノ職務ヲ行フニ際シテ擅ニ威權ヲ用ヒタル時ニ限ルナリ

第二節 官吏人

民ニ對スル罪

第二百七十六條 官吏

擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス



可キ權利ヲ妨害シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(刑)  
三九

第二百七十七條 人ノ身體財産ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事檢察官吏其報告ヲ受ケテ速ニ

第二百七十七條

令訓 (十六年十月三日司法省ヨリ根室裁判所檢察(内訓)豫審判事警察官吏刑罰法第二百七十七條ノ犯人アル場合ニ於テハ職務外ノ時間ト雖モ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得ト雖モ其時間中ナレハ之ヲ爲サルトテ刑法ノ間フ處ニアラス又二百七十七條ニハ治罪法第六十條警視廳警部區長郡長治安列事警部ノ在ラサル地ノ戸長等モ含蓄ス

保護ノ處分ヲ爲サ、ル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(治)二〇二二  
〇二〇三

第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ遵守セスシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シタ

第二百七十八條

學說 逮捕官吏トハ現ニ手ヲ下スト人ヲシテ逮捕セシムルトテ間ハス凡テ人ヲ逮捕シ又ハ逮捕セシムルノ權アル官吏及ヒ人ヲ監禁シ又ハ監禁セシムルノ權アル官吏ヲ云フ程式規則ヲ遵守セストハ現行犯ニ非サル場合ニ於テ令狀ナクシテ被告人ヲ逮捕シ又ハ逮捕セシメ若クハ罰金ノ刑ニ該ルヘキ被告人ナルコトヲ知テ故ラニ之ヲ拘留スルノ類ヲ云ヒ不正ニ人ヲ監禁スルトハ正當ノ理由ナキヲ云フ即チ拘留期限經過シタルニ拘ハラス故ラニ囚人ヲ解放セス又ハ贖人等ヲ拘留スルカ如シ



第二百七十九條

學說 囚人トハ未決既決ヲ問ハス警留勾留セラレトモノヲ包含ス

ル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

(刑)自三三二、至三三五(治)自一〇〇、至一〇六(自)一三三、至一四五、

第二百七十九條 司獄

官吏程式規則ヲ遵守セシテ囚人ヲ監禁シ若クハ囚人ヲ出獄

第二百八十條

學說 其他苛刻ノ所爲トハ千種萬態枚舉ニ遑アラスト雖正荷モ一時ノ怒リニ乘シ手足ヲ以テ擅ニ囚人ヲ打撲スルガ如キモ尙ホ此所爲アル者トス

セシム可キノ時ニ至リ之ヲ放免セサル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百八十條 前二條

ニ記載シタル官吏又ハ護送者囚人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處



第二百八  
十條二項

學說

前項ノ所爲ニ依リ囚人ヲ死傷シタルハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ  
一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷スルナリ

シ四圓以上四十圓以  
下ノ罰金ヲ附加ス

刑二七七  
八二七九

因テ囚人ヲ死傷ニ致  
シタル時ハ毆打創傷  
ノ各本條ニ照シ一等  
ヲ加ヘ重キニ從テ處

斷ス(刑)自二九  
九、至三〇八、

第二百八十一條 水火

震災ノ際官吏囚人ノ  
監禁ヲ解クヲ怠リ

第二百八  
十一條

學說

本條ハ懈怠ニ出タル不行犯ナリ而シテ其死傷ハ過失殺傷ナリト雖  
モ苟モ官吏タル者職務ヲ以テ其任ニ當リ乍ラ之レヲ忘却シ爲メニ  
貴重ノ人命ヲ水火震災ニ委シタルハ其罪狀苛刻ノ所爲ト權衡輕重ナシ故ニ  
過失殺傷ヲ以テ論セスシテ毆打創傷ニ同フ

因テ死傷ニ致シタル  
者ハ毆打創傷ノ各本  
條ニ照シ一等ヲ加フ

(刑)自二九九、至  
三〇八、三三五、

第二百八十二條 裁判

官檢事及ビ警察官吏  
被告人ニ對シ罪狀ヲ  
陳述セシムル爲メ暴  
行ヲ加ヘ又ハ凌虐ノ  
所爲アル者ハ四月以  
上四年以下ノ重禁錮

第二百八  
十二條

學說

暴行ハ必ス有形ナレトモ凌虐ハ非常ノ辱メヲ與フルコトニ無形ニ於  
テ猶ホ之レアリ例ヘハ食時ニ至ルモ食ヲ許サス其空腹ニ苦ムニ乘  
シ彌々訊問ヲ甚クシ或ハ痛苦ノ爲メニ水ヲ飲マサレハ發言ニ堪ユル能ハ  
サルヲ以テ水ヲ乞フト雖モ致テ之レヲ許サス却テ其痛苦ニ乘シテ益々糾訊  
ヲ逞フスルカ如キ皆然ルベキナリ



ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス(刑)百二十九、至三〇八

第二百八十三條 裁判官檢察官故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セス

第二百八十三條

學說 本條ハ三條件ヲ以テ成ル第一上官ヨリ受理ス可キノ命令又ハ官民等ヨリ訴ヘアリタルヲ 第二管掌ノ官吏力之ヲ受理セス又ハ管理セサリシヲ 第三其審理又ハ受理セサルハ正當ノ理由アルニアラサルヲ是ナリ故ナクシテ之ヲ受理セストハ忌避回避又ハ管轄違ヒ其他正當ノ事由アルニ因リ之ヲ審理セサルハ固ヨリ當然ノ事ナリト雖此等ノ事由ナクシテ法律ニ背キ告訴若クハ公訴又ハ上訴ヲ棄却スルノ類ヲ云フ遷延シテ審理セ

サルトハ正當ノ事由アルニ非スシテ他ノ事件ヲ先キニシ其以前ニ受ケタル事件ヲ放棄シ又ハ他ヨリ督促ヲ受ケルモ致テ之ニ應セサルノ類ヲ云フ訴訟關係人ヲ害スルノ意ニ出ルト自己ノ怠惰ニ出ツルトナ問ハサルナリ

第二百八十四條

學說 本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一行政司法一般ノ官吏タルヲ 第二其官吏タルモノノ贈物ノ約束ヲ承諾シ又ハ現ニ贈物ヲ收受シタルヲ 第三職務中一處置ヲ爲スト否トニ關シタルヲ聽許トハ第二ニ云フ事前ニ於テ事後ノ贈物ヲ收受スル約束ヲ爲スノ類ヲ云フ

又ハ遷延シテ審理セサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ

第二百八十四條 官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以



第二百八十五條

學說

本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル則チ第一民事ヲ管掌スル裁判官タル  
第二第三ノ條件ハ前條ニ同シケレハ更ニ贅セス

上一年以下ノ重禁錮  
ニ處シ四圓以上四十  
圓以下ノ罰金ヲ附加  
ス  
因テ不正ノ所分ヲ爲  
シタル時ハ一等ヲ加  
フ  
第二百八十五條 裁判  
官民事ノ裁判ニ關シ  
テ賄賂ヲ收受シ又ハ  
之ヲ聽許シタル者ハ

第二百八十五條二項

學說

(不正ノ裁判トハ)故意ヲ以テ原告訴旨ノ不當ナルモ之ヲ正當トナ  
シ被告ノ答辨至正ナルモ之レヲ不當ト爲ス如ク之レヲ換言スレハ  
被告ノ曲者ナルモ之ヲ直者ナリトシ原告直者ナルヘキニ之ヲ曲者ナリト裁  
判ヲ爲スチ云フ

第二百八十六條

學說

本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一刑事管掌ノ裁判官檢察官警察官吏  
タル第一第二ノ條件ハ第二百八十四條ト同シケレハ更ニ贅セス

二月以上二年以下ノ  
重禁錮ニ處シ五圓以  
上五十圓以下ノ罰金  
ヲ附加ス(刑)ニ  
八六、  
因テ不正ノ裁判ヲ爲  
シタル時ハ一等ヲ加  
フ  
第二百八十六條 裁判  
官檢察官警察官吏刑事  
ノ裁判ニ關シテ賄賂  
ヲ收受シ又ハ之ヲ聽



第二百八十六條二項

學說

(故意ヲ以テ曲庇シタルトハ)贈物ノ故ヲ以テ重ヲ輕トシ有罪ヲ無罪トスル如キヲ云フ(第二項ノ陷害トハ)贈物ノ故ヲ以テ無罪ヲ有罪ニ輕ヲ重ニ處スルヲ云フ

許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑)二

八五、

因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其被告人ヲ陷害シタ

第二百八十七條

學說

(情ニ徇カヒトハ)私情ノ爲メ不正ノ裁判ヲ行フヲ云ヒ(怨ヲ挾サミトハ)私恨ノ爲メ不正ノ裁判ヲ爲スヲ云フ

ル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條第二百二十二條ノ例ニ照シテ反坐ス

第二百八十七條 裁判官檢察警察官吏賄賂



ヲ收受聽許セスト雖  
モ情ニ徇カヒ又ハ怨  
ヲ挾サミ被告人ヲ曲  
庇陷害シタル者ハ亦  
前條ノ例ニ同シ(刑)二  
三、

第二百八十八條 前數  
條ニ記載シタル賄賂  
已ニ收受シタル者ハ  
之ヲ沒收シ費用シタ  
ル者ハ其價ヲ追徴ス

第二百八十八條

學說 元來沒收ハ直接ニ犯罪ヨリ得タル所ノモノナラサル可テサレハ一  
般ノ原則ナルニ本條ニ於テハ既ニ消費シタルモノモ之ヲ尙ホ追徴  
スルハ例外ノ法ナリトス

(刑)四三、  
四六、

第三節 官吏財  
産ニ對スル罪

第二百八十九條 官吏  
自ラ監守スル所ノ金  
穀物件ヲ竊取シタル  
者ハ輕懲役ニ處ス  
(刑)三  
六六、  
因テ官ノ文書簿冊ヲ  
増減變換シ又ハ毀棄  
シタル時ハ第二百五

第二百八十九條

學說 本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一官吏タルヲ 第二財物ヲ使用ス  
ルヲ 第三自ラ監守スル物件タルヲ是レナリ本條ニハ竊取トアレ  
其性質ハ背信ノ罪ニシテ費用受寄財産ト同一ノ性質ヲ有ス唯其刑ニ輕重  
ノ別アルニ過キサレナリ

判例 (十八年九月三十日)用係勤務中假ニ月長ノ助務ヲ取扱ヒタル者ニ  
シテ本廳長官ノ辭令書ヲ得テ公然月長ノ職務ヲ行フタルニアラサ  
ルモ已ニ月長代理ノ資格ヲ以テ徵集シ監守スル所ノ國稅金ヲ竊取シ之ヲ他  
人ノ手ニ渡シタル以上ハ監守自盜已遂犯タル勿論ナリ(十九年三月三十一  
日)刑法第二百八十九條末項ニ因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ云々トアル  
ハ必スシモ金員竊取ノ當時ヲ限リタル主義ニアラサレハ其後日ニアルト當  
時ニアルトヲ問ハス其初項ノ罪ヲ犯スニ因リ文書ヲ變換シタル等ノ所爲ア  
ルモノハ其末項ヲ適用ス(十九年五月七日)原列文ニ月長役場ノ雇員トナリ  
月長ノ命ヲ受ケ協議費徵收ノ事務擔任中其徵收シ監守スル所ノ明治十六年  
度ノ金五百七十八圓二十三錢四厘ノ内金三十八圓四十錢ヲ數度ニ竊取スト  
アリテ月長ノ命ニヨリ官吏ノ行フヘキ職務ヲ行ヒ其監守セシ所ノ金員ヲ竊

官吏瀆職ノ罪



條ノ例ニ照シテ處斷

ス(刑)ニ  
〇五、

第二百九十條 租稅其

他諸般ノ入額ヲ徵收

スル官吏正數外ノ金

穀ヲ徵收シタル者ハ

二月以上四年以下ノ

重禁錮ニ處シ五圓以

上五十圓以下ノ罰金

ヲ附加ス

第二百九十一條 此節

第二百九  
十條

取セシ者ナレハ假令ヒ雇員ト雖モ官吏ト同シク其罪ヲ論ス可キ者ニシテ原  
裁判所カ右所爲ニ對シ刑法第二百八十九條ヲ適用シタルハ當然ナリトス然  
レモ第二論旨ノ如ク自首ノ前後ヲ問ハス裁判宣告以前ニ在テ贓金ヲ完償シ  
タル上ハ刑法第八十六條ノ減等ヲ爲ス可キモノナルニ原裁判所ノ茲ニ出テ  
サルハ擬律ノ錯誤ナリ

學說

本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一官權ノ妄用 第二正數外即チ不  
適法ノ徵收 第三其正數外ナルヲ知リシト是レナリ

第二百九  
十一條

ニ記載シタル罪ヲ犯

シ輕罪ノ刑ニ處スル

者ハ六月以上二年以

下ノ監視ニ付ス(刑)三  
八



身體財產  
ニ對スル  
重罪輕罪

身體ニ對  
スル罪

第二百九  
十二條

### 學說

本編ハ私罪ヲ掲ケタリ私罪トハ一己ノ直接ノ害ヲ被リ社會ハ間接  
ニ其害ヲ受ルモノ是レナリ(身體ニ對スル罪ハ)有形上下無形上下  
ヲ問ハス故ニ名譽ニ對スル罪ノ如キモ皆此中ニ含蓄ス是レ唯財產ニ對スル  
罪ト區別ヲ立タルノ稱ニ過キズ(殺人罪ニ三種アリ)曰ク謀殺曰ク故殺曰ク  
過失殺是レナリ羅馬ノ學者ハ殺人罪ハ單純殺ト謀殺トノ二個ニ區別シ又更  
ニ各之ヲ四種ニ分チタリ○單純殺ヲ分ツテ四種トス曰ク偶然殺例ハ途上  
ニ於テ急病ヲ發シ識ヲ失ラス顛倒シテ小兒ヲ壓死セシメタル如キ是レナ  
リ曰ク必用殺即チ已ムヲ得サルニ出テ人ヲ殺シタル場合ニシテ正當防衛ノ  
如キ是レナリ曰ク過失殺曰ク故殺○又謀殺ヲ分ツテ四種トス曰ク單純ノ謀  
殺即チ豫メ謀テ人ヲ殺シタルモノ是レナリ曰ク狙擊殺例ハ路傍ニ潜伏シ  
テ人ヲ要撃スル如キ是レナリ曰ク詐欺殺即チ詐欺ノ方法ヲ以テ人ヲ殺スモ  
ノ是レナリ曰ク利益殺即チ人ヨリ金錢ヲ受ケ以テ他人ヲ殺スモノ是レナリ佛國及ヒ吾國ニ於テハ此レヲ謀殺故殺過  
失殺ノ三個トシ必用殺偶然殺ハ其罪ヲ論セス

### 判例

(十六年七月二十六日)凡器物ノ方法及ヒ現場ノ景況ニ於テ避ク可カラサルノ危險又慘酷ナル所爲ヲ行ヒタ  
ル殺害ハ法律ノ推測ヲ以テ有意ノ故殺ナリト認定スルヲ得然レモ毫モ故意ナキノ證據充分ナルトハ器物ノ  
方法又ハ現場ノ景況ノミニ拘ハリ概シテ故殺ノ所爲ナリト審斷スヘカラス

### 學說

本條ノ罪ハ二條件ヲ以テ成ル第一人ヲ殺スト 第二豫メ謀ルト是  
レナリ

### 判例

(十九年三月二十九日)刑法第二百九十二條ノ謀殺故殺罪ヲ構成セ  
ンニハ世ニ生活スル人ニ對シテ謀殺ノ決意及準備ヲ爲シ而シテ後

### 第三編 身體財產ニ

#### 對スル重罪輕罪

#### 第一章 身體ニ對

##### スル罪

#### 第一節 謀殺故

##### 殺ノ罪

### 第二百九十二條 豫メ

謀テ人ヲ殺シタル者

身體財產ニ對スル重罪輕罪



之ヲ殺害シタル所爲ナカルヘカラス何トナレハ該條ノ明文ニ豫メ謀リテ人ヲ殺シタル者ハ云々トアリテ現ニ被害者ノ世ニ生活スル人タルヲ要スレハナリ分曉スル前ヨリ已ニ殺意ヲ生シタルニ相違ナキモ道ハ謀殺ノ決意ト看做シ難キノミナラス豫謀ノ事蹟アルナク即チ出產ノ際初メテ殺意ヲ生シ決行シタル者ト言ハサル可ラス

第二百九十三條

學說

本條ノ罪ハ二條件ヲ以テ成ル 第一故意人ヲ殺ス 第二毒物ヲ施用シテ殺ス 是レナリ

ハ謀殺ノ罪ト爲シ死刑ニ處ス(刑)二九三、二九七、二九八、

第二百九十三條 毒物

ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス(刑)二九二、二九七、二九八、

第二百九十四條

學說

本條ノ罪ハ二條件ヲ以テ成ル 第一人ヲ殺ス 即チ有形ノ所爲アル 第二故意即チ人ニ死ヲ與フルノ意思アル 是レナリ

判例

(十六年九月七日) 故殺ノ未遂犯ヲ構成センニハ三個ノ條件ヲ要ス 第一殺意 第二執行ニ着手セシ 第三意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ其目的ヲ遂ケサル 是ナリ

第二百九十四條 故意

ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲シ

無期徒刑ニ處ス(刑)二二九五、

至二九八、

第二百九十五條

學說

本條ハ二條件ヲ以テ成ル 第一慘酷ノ所爲アル 第二故殺ノ所爲アル 是ナリ而シテ死刑ニ處スル所以ノ者ハ故殺ナリト雖モ其殺害ノ方法殘酷甚シク其殺意最モ惡ムヘク則チ其情狀謀殺ト輕重ナキヲ以テ特ニ之ヲ死刑ニ處スル所以ナリ

第二百九十五條 支解

折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス(刑)二九四、

第二百九十六條

令訓

(十六年十一月五日司法省ヨリ大分裁判所檢事ヘ内訓) 茲ニ庖丁ヲ攜帶シ人ノ邸内ニ設ケアル米搗水車場ヘ忍入り米ヲ竊取セントスル際看守者ニ覺知セラレ看守者ヨリ捕リ押ヘラレタルニ依リ免ル 爲メ携帶シ居ル庖丁ヲ以テ看守者ノ兩手ニ傷ヲ負ハセ終ニ死ニ致シタル者アリ右ハ故殺スルノ意アツテ傷ヲ負ハセタルニ非ス捕リ押ヘラレタル故免ル 爲メ傷ヲ負ハセタリト陳述シタル場合ニ於テ故殺ノ證據ハ原告官ヨリ之ヲ舉示セサルヘカラス若シ其證據ナキ時ハ刑法第三百三條ニ依リ處分スヘシ

第二百九十六條 重罪

輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲



第二百九十七條

學說 本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一詐稱誘導スルヲ 第二危害ニ陷  
ラシメサリシ場合ニ非ラサレハ能ハス若シ被害者其生命ヲ失フヲ知ルニ  
於テハ詐稱誘導其効ヲ生セサルナリ

メ人ヲ故殺シタル者  
ハ死刑ニ處ス(刑)ニ  
九四、  
第二百九十七條 人ヲ  
殺スノ意ニ出テ詐稱  
誘導シテ危害ニ陷レ  
死ニ致シタル者ハ故  
殺ヲ以テ論シ其豫メ  
謀ル者ハ謀殺ヲ以テ  
論ス(刑)ニ九二、二九  
九四、三〇八

第二百九十八條

學說 本條ノ誤殺トハ人ヲ誤認シテ殺シタルトハ豫謀ノ有無ニ依リ謀殺  
故殺ヲ以テ之ヲ論ス是犯人既ニ故意アリテ之ヲ殺スモノナレハ其  
被害者ノ何人ヲ問ハス身命ノ貴重ナルハ論ヲ俟タズ既ニ社會ヲ害スルヤ彼  
是毫モ輕重ナケレハナリ其人ヲ誤認シテ殺シタルトハ例ヘハ甲ヲ殺サント

第二百九十八條 謀殺  
故殺ヲ行ヒ誤テ他人  
ヲ殺シタル者ハ仍ホ  
謀殺故殺ヲ以テ論ズ  
(刑)ニ九二、二九  
四、三〇四

第二百九十九條

學說 本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一毆打創傷スルヲ 第二死ニ致ス  
ノミニアラズ突ツモ含蓄ス(致死トハ)殺意ナキヲ要ス○此致死ト爲スニ付  
古ノ學者ハ三個ニ區別シタリ曰ク充分死ニ致スニ足ルヘキ創傷ナルトハ擡  
生ノ疎畧及ヒ醫師不注意等ノ爲メニ死スルモ毆打創傷ニ因テ死ニ致シタル  
判例 (十六年十二月二十八日)所謂創傷トハ身軀ノ内部又ハ外部ヲ毀損  
スルノ謂ニシテ心悸亢盛ノ如キ内臟機關ノ作用其常度ヲ失シタル  
ヲ謂フニアラス

第二節 毆打創  
傷ノ罪  
第二百九十九條 人ヲ  
毆打創傷シ因テ死ニ  
致シタル者ハ重懲役

身體ニ對スル罪



二處ス(刑)自三〇二、  
至三一六、

モノトス曰ク死ニ致スニ足ラサル創傷ナルハ本人ノ不攝生或ハ醫師ノ不注意ノ爲メ死ニ至リタルモ死ニ致シタルモノトシテ論セス曰ク其創傷死ニ致スニ足ルヘキヤ否ヤ判然知レサルハ罪ノ疑ハシキハ輕キニ問フノ原則ニ基キ被告人ノ利益トナル可キ様ニ處置スルヲ要ス(故意ヲ以テ毆打スル)此故意ハ本條ノ罪ヲ成スニ已ム可カラサルノ一條件ナリ此故意アル已上ハ其重傷ヲ與ヘント欲シタルト輕傷ヲ與ヘント欲シタルトナ間ハ其結果死ニ致シタルハ皆本條ニ因リ重懲役ニ處ス是レ甚タ不權衡ノ如クナレト實ニ已ムヲ得サルモノナレハ裁判官ニ於テ宜ク酌量減輕ノ法ヲ用フヘシ

第三百條

學說 (兩目ヲ瞎シトハ)兩眼視ル能ハサルニ至ラシメタルヲ云ヒ(兩耳ヲ聾シトハ)兩耳聽ク能ハサルヲ云ヒ(兩肢ヲ折リトハ)兩手又ハ兩足ヲ折リテ動作ノ自由ヲ失ハシメタルヲ云フ(同時ニ一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一手一足ヲ折リタルハ)第一項ヲ適用スルヲ得サルベシ元來右手ト右足トヲ折リタル時ノ如キハ被害者兩手又ハ兩足ヲ折ラレタルト同一ノ不便ヲ感スルナラン然レモ第一項ハ兩目ヲ瞎シ兩肢ヲ折リ兩耳ヲ聾シタルト明ラカニ記載シアルヲ以テ實ニ同時ニ兩手ヲ折ルカ又ハ兩足ヲ折リタルカ如キニ非サルヨリハ之ヲ適用スルヲ得サルナリ又元來一目ナルカ或ハ一足等ノ者ニ對シ其一目ヲ瞎シ或ハ一足ヲ折リタルハ第一項ヲ以テ論スルヲ得ス何トナレハ第一項ハ兩目兩肢ト明記アルノミナラズ其既ニ有ラザリシ一目一足ハ加害者ノ所爲ニアラサレハナリ尤モ或ル學者ハ此所爲アルニ於テハ第一項ニ依ルヲ論シタルモ竟ニ無數ノ駁論ヲ受ケタリ(其舌ヲ斷チトハ)舌ヲ切り離シ口言フ能ハサルニ至ラシメタルヲ云ヒ(其陰陽ヲ毀敗シトハ)即チ機關ヲ切斷シテ造化力ヲ減失シ更ニ其作用スル能ハサルニ

第三百條 人ヲ毆打創

傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス(刑)自三〇一、至三〇八、

第三百條 二項

至ラシメタルヲ云ヒ(知覺精神ヲ喪失セシメトハ)痴呆癡癩ニ至ラシメタルヲ云フ(篤疾トハ)不治ノ病ニ致リシヲ云フ則チ本條ノ罪ハ前項ノ折症ノ所爲アリタルヲ 不治ニ至リシヲ 故意ヲ以テ毆打シタルヲ三條件ヲ以テ成ル

學說

第二項ハ一目ヲ瞎シ又ハ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘廢シ其一部ノ不治ヲ致シタルヲ癩疾トス(身體ヲ殘廢スルトハ)人ノ齒ヲ折リ人ノ耳目鼻ヲ抉毀シ或ハ筋骨腰項ヲ折跌セシムル如キヲ云フ

第三百條

學說 本條ノ罪ハ二條件ヲ以テ成ル第一毆打創傷ヲシタルヲ 第二爲メニ二十日以上疾病ニ罹リタルカ又ハ職業ヲ營ムヲ能ハサルニ至ラシメタルヲ 第三故意ヲ以テ毆打シタルヲ是レナリ

第三百一條 人ヲ毆打

創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムヲ能ハサ



第三百一  
條二項

學說

第二項ノ罪ハ第一毆打成傷 第二疾病休業ノ時間二十日未満ナル  
第三故意ヲ以テ毆打シタルノ三條件ヲ以テ成ル

第三百一  
條三項

學說

第三項ノ罪ハ第一毆打成傷シタルヲ 第二故意ヲ以テ毆打シタル  
ノ二條件ヲ以テ成ルモノトス

ルニ至ラシメタル者  
ハ一年以上三年以下  
ノ重禁錮ニ處ス(刑)自  
三〇二、  
〇八、  
三三、

其疾病休業ノ時間二  
十日ニ至ラサル者ハ  
一月以上一年以下ノ  
重禁錮ニ處ス(刑)自  
三〇二、  
〇八、  
疾病休業ニ至ラスト  
雖モ身體ニ創傷ヲ成  
シタル者ハ十一日以

第三百二  
條

學說

本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一豫メ謀リタルヲ 第二毆打成傷  
シタルヲ 第三爲メニ疾病休業又ハ癱疾或ハ篤疾又ハ致死タルヲ  
是レナリ

上一月以下ノ重禁錮  
ニ處ス(刑)四  
三五、

第三百三  
條

學說

本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一重罪輕罪ヲ犯スニ便利ノ爲メ又  
ハ已レノ罪ヲ免カレト爲メナルヲ 第二人ヲ毆打創傷シタルヲ  
第三爲メニ疾病休業又ハ癱疾或ハ篤疾又ハ致死タルヲ是レナリ

第三百二條 豫メ謀テ  
人ヲ毆打創傷シ休業  
癱篤疾又ハ死ニ致シ  
タル者ハ前數條ニ記  
載シタル刑ニ照シ各  
一等ヲ加フ(刑)自二九九、  
三〇一、  
第三百三條 重罪輕罪  
ヲ犯スニ便利ナル爲  
メ又ハ已ニ犯シテ其



第三百四條

**學說** 人ヲ誤認シテ毆傷スルモ猶ホ犯人ノ意思中ノ人ヲ毆傷シタルト同ク論スルモノハ既ニ犯人ノ身體ヲ毆傷スルノ謀意アリ故意アリテ之ヲ爲スモノナレハ其被害者ノ何人ヲ論セス身體ヲ傷フ者ナレバ是レ犯人意思中ノ人ヲ毆傷シタルニ異ナルコトナキハ論ヲ俟タス權衡毫モ輕重アラサレハナリ其毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ云々文字ニ依テ解スルハ目的タル人ヲ毆打シ其影響他人ニ及ヒタル場合ヲ指シタルモノノ如シト雖モ決シテ然ラザルナリ道ハ全ク其目的トスル所ノ人ト信シテ毆打シタルニ其人ニ非スシテ別人ナリシ時ノ如キヲ云フモノトス

第三百五條

罪ヲ免カル、爲メ人ヲ毆打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ  
(刑)百二十九、至三〇二  
**第三百四條** 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス(刑)二百五  
**第三百五條** 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下

學說

本條ハ共犯例ノ特例ヲ定タルモノナリ二人以上共犯ニ係ルハ普通ニテハ各自ニ其刑ヲ科スルコトセリ然ルニ本條ニテハ二人以上ノ共犯ト雖モ其現ニ手ヲ下シ傷ヲ爲スノ輕重ニ因ルコトセシハ毆打創傷ハ其創傷ノ結果ニ付テ其罪ヲ論スレハナリ然ルニ此ニ甲乙二人共ニ丙者ヲ亂撃シ何レカ重傷ヲ爲シ何レカ輕傷ヲ爲セシヤ知ル可カラサル時ニ當テ其重

學說

シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハザル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラス(刑)二〇四、二〇五、二〇七

第三百六條

**學說** 既ニ總則ニ於テ從犯ハ豫備ノ所爲ヲ幫助シタルモノトシ其現行ノ并幫助シタルモノハ正犯トシタリ故ニ本條ノ場合モ現ニ傷ヲ成サシメタル者ナルヲ以テ之レヲ正犯ト爲シタレモ唯其幫助ニ止マルヲ以テ特ニ一等ヲ減スル所以ナリ

**第三百六條** 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セス

判例

(十九年四月三十日)被告カ乙ト共ニ甲ヲ毆打セントスルノ意思ニ止マリ乙カ甲ヲ毆打シタルニ關シ毫モ幫助ノ所爲アルニ非サレハ

身體ニ對スル罪



之ヲ以テ刑法第三百六條ニ適スル幫助ノ所爲ト云フヲ得ス若シ之ヲ以テ幫助ノ所爲ナリトセバ全第三百五條ニ所謂現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科スノ法文ハ殆ント解ス可カラサルニ至ラン如何ントナレハ共謀人ヲ毆打シタル者ハ皆幫助ノ罪アルヲ以テ傷ヲナスノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科スルヲ要セサレハナリ

第三百七條

學說 本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一健康ニ有害ノ物品ヲ施用シタル  
第二故意アルヲ 第三人ヲ疾苦セシメタルヲ其健康ヲ害スヘキ物品トハ範圍廣シ故ニ苟モ其物品ノ健康ヲ害スル者ナルニ於テハ第一ノ條件ヲ成ス可キ者トス又若シ其意人ヲ殺ニ在リタル時ハ毒殺罪ト成ルヘシ

ト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス(刑)ニ

第三百七條 健康ヲ害

ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス(刑)ニ五五、三三、三三、八三、

第三百八條 人ヲ殺ス

第三百八條

學說 本條ハ第二百九十七條ト其趣旨相類似セリ故ニ該條ト參看セハ可ナリ

第三百九條

學說 (宥恕及ヒ不論罪ニハ通常ト特別トノ二個アリ本章ハ其特別ナルモノナリ即チ此特別宥減輕ノ場合ハ五個アリ第三百九條乃至第三百十二條及ヒ第三百十六條是レナリ(特別ノ不論罪ハ)第三百十四條第三百十五條是レナリ○特別ノ宥恕及ヒ不論罪ハ即チ殺傷ニ關スル罪ノミニシテ他ノ罪ニハ決シテ之レナシ是レ殺傷ハ暴行等ヲ受ケ怒ヲ發シ直ニ爲ス如キ人情已ムヲ得サルヨリ起ルト雖モ他ノ罪ニハ如此情狀ナケレハナリ○此ニ云フ宥恕ト不論罪トノ區別ニ注意セサルベカラス宥恕ハ元來罪アレ其刑ヲ輕減シ若クハ減シ盡シテ之ヲ科セサルナリ不論罪ハ之レニ反シ全ク其罪ヲ構造セサルモノトス

學說 (本條宥恕スベキ情狀アリト爲スニハ)第一暴行ヲ受クル事 第二自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルヲ 第三暴行ノ不正ナルヲ 第四受ク

身體ニ對スル罪

ノ意ニ非スト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス(刑)ニ九七、

第三節 殺傷ニ

關スル宥恕及ヒ不論罪

第三百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シ







第三百十  
二條

學說

本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一畫間ナルヲ 第二人ノ住所シタ  
ル邸宅ニ入り又ハ其門戶牆壁ヲ踰越損壞セントスルヲ 第三腕力  
ヲ用ユルニ非サレハ之ヲ防止スル能ハサルヲ是レナリ○本條モ宥恕減輕ナ  
レト第三百九條トハ其主意ヲ異ニス本條ハ第三百十四條ヨリ起ルモノニシ  
テ其性質正當防衛ナリト雖モ少ク欠ク所アルヲ以テ宥恕減輕中ニ入レリ故  
ニ本條侵入破壞ノ所爲ハ被害者自己又ハ家族ノ性命ヲ危アムナクシテ唯其  
精神ニ最モ劇シキ感觸ヲ生シタル事ヲ要スヘキモノトス其自己若シクハ他  
ノ身性命ヲ危フスル目的ノ所爲アルニ於テハ第三百十四條ニ依リ處分ス  
可キモノナリ例ヘハ兇器ヲ持テ隊ヲ爲シテ門戶牆壁ヲ踰越スル者アルニ當  
リ銃ヲ放テ之ヲ殺シタルカ如キハ是レ被害者自己若クハ家族ノ性命ニ危難ア  
ルノ感觸ヨリ出ツルヲ以テ本條ニ依リテ得ズシテ之レヲ第三百十四條ニ間  
ハサルヲ得ズ○本條防止ノ所爲ハ自己ノ邸宅ト他人ノ邸宅トノ區別ヲ立テ  
サルヲ以テ假令他人ノ宅ニ侵入シタル者ヲ殺傷シタルモ其罪ヲ宥恕  
セサルベカラズ○夜間本條ノ所爲アル時ハ不論罪ニシテ畫間ハ宥恕ニ止マ  
ルモノハ畫間ハ夜間ニ比セハ其危險小ニシテ且ツ他ノ救援ヲ得易ク防禦ス  
ルニ難カラサルヲ以テ之レヲ不問ニ付スル能ザル所以ナリ

第三百十二條

畫間故

ナク人ノ住居シタル  
邸宅ニ入り若クハ門  
戶牆壁ヲ踰越損壞セ  
ントスル者ヲ防止ス  
ル爲メ之ヲ殺傷シタ  
ル者ハ其罪ヲ宥恕ス  
(刑)二七、三三、  
三、三二五、四〇二、  
第三百十三條 前數條  
ニ記載シタル宥恕ス  
可キ罪ハ各本刑ニ照

第三百十  
三條

第三百十  
四條

學說

本條ノ所爲ハ五條件ヲ以テ成ル第一身體ニ暴行ヲ受ケ避ケル能ハ  
サルヲ 第二腕力ヲ用ヒサレハ防衛スル能ハサルヲ 第三加ヘラ  
ル暴行ト加マル暴行ト同時ナルヲ 第四自己ノ不正ナル所爲ニ因リ招キ  
タル暴行ニアラサルヲ 第五暴行ノ不正ナルヲ是レナリ或ル學者ハ本條ノ  
罪ヲ六個ノ條件ニ分析シタリ曰ク攻撃ノ不法ナルヲ曰ク攻撃ハ現在タラサ  
ルヘカラズ曰ク攻撃ハ必ス暴行タルヲ曰ク攻撃ハ一般ニ生命身體ニ對スル  
モノタルヲ曰ク防衛ニ欠クヘカラサルヲ曰ク不正ノ所業ニ依リ自ラ攻撃ヲ  
招キタルニアラサルヲ是レナリト○此ニ注意ヲ要スルハ自己不正ノ所爲ノ  
點是レナリ此不正ノ所爲ハ刑法上罰スルヲ得ベキ大ナル場合ニアラサレハ  
能ハサルナリ又本條及ヒ次條ノ爲所ト第七十五條ノ所爲ト違同スベカラズ  
第七十五條ノ所爲ハ抗拒スベカラサル強制ニ遇ヒ己レ避ケルヲ自由ナキヲ  
以テ其罪ヲ論セサレト其不正タルハ免レズ而シテ本條及ヒ次條正當防衛ノ  
所爲ハ人間固有ノ防身權ヲ行ヒタルニ過キスシテ毫モ不正ト云フヲ得ズ是  
レ其罪ナキ所爲ナリ

第三百十四條

身體生

命ヲ正當ニ防衛シ止  
ムヲ得サルニ出テ  
暴行人ヲ殺傷シタル  
者ハ自己ノ爲メニシ  
他人ノ爲メニスルヲ  
分タス其罪ヲ論セス  
但不正ノ所爲ニ因リ  
自ラ暴行ヲ招キタル  
シ二等又ハ三等ヲ減  
ス



第三百十五條

**學說** 本條ハ前條ト事ヲ同シクシテ類ヲ異ニスル正當防衛ノ場合ヲ定メ其數ヲ分ケテ三個トセリ其第一項ノ所爲ハ第一財產ニ暴行ヲ受ケ避クル能ハサルヲ 第二腕力ヲ用ユルニアラサレハ之レヲ防止スル能ハサルヲ 第三加ヘラレハ暴行ト加フル暴行ト同時ナルヲ 第四自己ノ不正ヨリ招キタルニアラサルヲ 第五暴行ノ不正ナルヲ 五條件ヲ以テ成リ其第二項ノ所爲ハ第一盜犯ノ現行ナルト加フル暴行ノ同時ナルヲ 第二之レヲ防止シ又ハ其盜犯ヲ取還スルニ出タルヲ 第三腕力ヲ用ユルニアラサレハ能ハサルノ三條件ヲ以テ成ル其第三項ノ所爲ハ第一夜間ナルヲ 第二故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞スルヲ 第三腕力ヲ用ヒサレハ之レヲ防止スル能ハサルヲ 第四其侵入及ヒ踰越損壞ノ所爲ト加フル防止ノ所爲ト同時ナルヲ 五條件ヲ以テ成ルモノトス○以上ノ條件ヲ具備スルモノハ輒ク刑ヲ科スルヲ得ベキカ如キモ而モ實際ノ狀況ニ付テモ亦充分ナル注意ヲ要セサルベカラズ例ヘハ貧人アリ富者ノ文久錢一厘ヲ窃取シタリトテ富者之レカ取還ノ爲メ其盜者ヲ殺ス如キハ本條ヲ適用スルヲ得ズ又之レニ反シ貧者ニシテ其小數ノ錢ヲ奪ハレントスルヲ取還ヘサントシテ其奪取者ヲ殺傷セン乎則チ本條ニ問ベキナリ

者ハ此限ニ在ラス

(刑)七五、八四、三〇  
九三、二六、三六五、

第三百十五條 左ノ諸

- 件ニ於テ已ムヲ得
- サルニ出テ人ヲ殺傷
- シタル者ハ其罪ヲ論
- セス(刑)八四、三
- 一 財產ニ對シ放火其
- 他暴行ヲ爲ス者ヲ
- 防止スルニ出タル
- 時

第三百十六條

**學說** 本條ハ正當防衛ニ必要ナル條件ヲ欠キ不完全ノ場合ニ於テノ處分法ナリ危害既ニ去リタルハ正當防衛ノ權ナシ故ニ身體財產ヲ防衛スルニ出ルモ其時機既ニ失シ己ムヲ得サルニ非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害既ニ去リタル後仍ホ勢ニ乘シテ害ヲ暴行人ニ加ヘタルトキハ正當

身體ニ對スル罪

第三百十六條 身體財

產ヲ防衛スルニ出ル

- 二 盜犯ヲ防止シ又ハ
- 盜賊ヲ取還スルニ
- 出タル時
- 三 夜間故ナク人ノ住
- 居シタル邸宅ニ入
- リ若クハ門戸牆壁
- ヲ踰越損壞スル者
- ヲ防止スルニ出タル
- 時(刑)一七三、
- 四〇二、







リ然レ疎虞トハ不熟練不注意疎忽等ノ通稱ニシテ例ヘハ斧ヲ以テ木材ヲ斫ントセシニ其斧ノ柄脱シテ傍人ヲ殺シタルカ如ク免許ノ醫師足ノ指六本ノ不具人アリテ切斷ヲ依頼セシニ醫師ハ左足ノ指ヲ切斷シ四本ト爲シタルカ如キ是レナリ(懈怠トハ)怠慢ノコニシテ例ヘハ瘋癲人ノ番人其監守ヲ怠リ睡眠ノ際其瘋癲人ノ逃走シ人ヲ殺傷シタル如キ或ハ旅宿ノ主人旅客ノ大病ナルヲ知テ醫師ヲ招カス遂ニ死ニ致シタル如キ是レナリ(規則トハ)行政規則等ノコトニシテ(慣習トハ)其土地ニ行ハルハ慣例ヲ云フ

判例

(十九年四月三十日)原判文前段ニ被告カ長男某六ヶ月ヲ懷キ寢臥シ熟睡中自己ノ身軀ヲ以テ某ヲ死ニ致シタル云々ト明示シタルニ依テ見レハ故意アリテ之レヲ致シタルニアラス疎虞懈怠ノ過失ニ出テタルモノト云ハスシテ何ソヤ故ニ此ノ所爲ニ對シ刑律ヲ適用スルニハ刑法第三百十七條ニ准據セサル可カラス然ルニ原裁判ハ爰ニ出テス後段ニ於テ疎虞懈怠ニ出タリト認ム可キ廉ナク罰ス可キ正條ナシト爲シ無罪ヲ言渡シタルハ擬律ノ錯誤ナリ

第三百十八條

學說

此過失ノ語ニハ疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セサルヨリ生スル所爲ヲ包含ス以下之レニ倣ヘ○過失殺傷ニハ未遂犯ハアラサルナリ然レ共犯ニ至テアル場合アリ例ヘハ父其小兒ニ教ヘテ弓ヲ射ラシメタルニ其矢誤テ人ヲ殺傷シタル時ノ如キハ小兒及ヒ其父ハ共犯者ナルベシ

第三百十八條 過失ニ

因テ人ヲ創傷シ癱篤疾ニ致シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス(刑)三〇〇、

第三百十九條

第三百十九條 過失ニ

因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス(刑)三〇、

第五節 自殺ニ

關スル罪

第二百二十條 人ヲ教

唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺

第三百二十條

學說

(自殺ニ關スル罪ハ)自殺者ヲ罰セサル者ハ何ソヤ抑モ人ノ生存權タル最モ貴重ナリト雖モ其權タル自己ノ有スル所ニシテ此權ヲ棄損スルモ他ヲ害シタリト云フヲ得サレハナリ然レ之レヲ幫助シ若クハ之ヲ行ハシメタル者モ亦罰スルノ理ナキカ如シ然レ此等ノ者タル必ス罰セサルヘカラス若シ法律ニ於テ別ニ正條ヲ設ケサルハ謀殺ノ正犯又ハ從犯ヲ以テ論セサル可カラス是レ假令本人ノ依託アルモ其所爲タル罪ヲ構成スルモノニシテ本人ノ自カラ死センコトヲ承諾シ之ヲ囑託シタルハ毫モ自殺ヲ助ケタル人ニ影響ヲ及ボスノ理ナケレハナリ然ラハ則チ謀殺ニ間ハン乎甚々嚴酷ナルノミナラス其性質ヲ異ニス何ントナレハ謀殺ニハ詐欺ノ意ヲ含

身體ニ對スル罪



有スルモ自殺ヲ助ケタル場合ニハ詐欺ノ意アラサレハナリ然ラハ其所爲タル故殺ニ過キズト雖モ之レヲ無期徒刑ニ處スベキ其所爲タル惡意少ナキノミナラス或ハ善意ニ出ツルナキ能ハズ故ニ故殺ヲ以テ論スルモ亦酷ナリ是レ則チ本節ノ起ル所以ナリ(人ヲ教唆シテ自殺セシメタルトハ)自殺ノ意ナキ者又ハ自殺ノ意アリト雖モ未タ決心セサル者ヲ懲處シテ其意ヲ決セシメ遂ニ自殺セシメタルナニ(囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者トハ)自ラ人ヲ害スルノ意ナク自殺人ノ依頼ニテ止ムヲ得ス手ヲ下シタル者ヲ云フ既ニ其所爲アルトハ本條ノ罪ヲ成ス又(其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者トハ)自殺人ヲ補助シテ其自殺ニ便ヲ得セシメタル者即チ此所爲アレハ罪ヲ成スト雖モ其情輕キカ故ニ一等ヲ減スルモノトセリ○又自殺ニ關スル罪ニ付説ヲ爲ス者アリ曰ク此罪ハ既ニ手ヲ下シタルトハ自殺者死スルト否トチ問ハズ一旦手ヲ下セハ既ニ罪ト成ルモノトス故ニ自殺者ノ死セサル時ニ於テモ罰ス可キナリト非ナリ此罪ハ既遂即チ自殺者死シタルトニアラサレハ成立セサルモノトス

第三百一十一條

學說 本條ノ(自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ云々トハ)實ニ其場合ナキカ如シト雖モ之ナキヲ保シ難シ被教唆者ニシテ愚鈍ナルトハ如キハ其教唆ニ陷ルコトナシトセス是レ本條ノ設ケアル所以ナリ然レモ其刑ニ至テハ尙ホ輕キヲ覺ユ

人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

(刑三六二)

第三百二十一條 自己

ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル

者ハ重懲役ニ處ス

(刑三六三)

第六節 擅ニ人

ヲ逮捕監禁スル罪

第三百二十二條 擅ニ

人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金

第三百一十二條

學說 本節ハ人ノ自由ヲ束縛スルヨリ生スル罪ナリ此レ人民ノ人ヲ逮捕監禁スルヲ云フモノニシテ若シ官吏ノ犯ス時ハ第二編ノ公益ヲ害スル罪ノ中ニ入ル尤モ官吏ト雖モ人民ノ資格ヲ以テ爲シタルトハ此節ニ問フ可キナリ擅ノ字ヲ用ヒタルハ無權者即チ逮捕監禁スルノ權ヲ有セサル人ノ人ヲ逮捕スルヲ以テナリ

學說 本條ノ罪ハ二條件ヲ以テ成ル第一逮捕又ハ監禁權ヲ有セサルコト第二逮捕又ハ監禁ヲ爲シタルコト是レナリ但本條ノ私家トアレモ本條ノ罪ヲ爲ス必スシモ私家ヲ要セザルナリ○凡ソ監禁ノ罪タル人タルモノト天縱ノ自由ヲ妨クルモノナレハ假令父母ノ子孫ニ於ケル夫ノ妻妾ニ於ケルモ本條ニ依テ其罪ヲ問ハサルベカラズ

身體ニ對スル罪



第三百二十三條

學說 單タ人ヲ監禁シ又ハ制縛スルニ止マラスシテ尙ホ之ヲ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタルモノハ前條ヨリ其情重ク害モ亦隨テ重大ナリ其他苛刻ノ所爲トハ本條指定セズ專ラ裁判官ノ判定ニ任シタリ然レモ其所爲タル要スルニ毆打ト云ヒ拷責ト云ヒ衣食屏去ト云ヒ皆有形ナル苛刻ノ所爲ヲ云フヲ以テ其他苛刻ノ所爲モ亦有形ナル苛刻ノ所爲ニ限ルベシ

ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ(刑)二七八、三六三(治)一〇五  
第三百二十三條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰

第三百二十四條

學說 人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施ストキハ被害者爲メニ疾病死傷ニ至ルコト世間其例尠カラズ此ノ如キ場合ニ於テ單ニ前條ノ刑ヲ適用スルニ止マルトキハ其性質相類スル夫ノ毆打創傷ト權衡其平ヲ得サルノ恐レアルアリ故ニ特ニ本條ヲ設ケ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷スト定メタリキ

金ヲ附加ス(刑)二八〇、三六三、三六四、  
第三百二十四條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス(刑)二九九、至三〇六、  
第三百二十五條 擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クコトヲ怠リ因テ死傷ニ致

第三百二十五條

學說 本條變災ノ際監禁ヲ解クコトヲ怠リテ監禁者ヲ死傷ニ致シタルノ罪ヲ定メタリ此罪ヲ毆打創傷ノ各本條ニ依テ論スルモノハ其監禁ノ所爲タル故意ニ成立テ結果死傷ニ至リシモノナレハ毆打創傷ト權衡平ヲ得タルヲ以テナリ



シタル者ハ亦前條ノ

例ニ同シ(刑)二八一、自二  
九九、至三〇六、

第七節 脅迫ノ

罪

第三百二十六條 人ヲ

殺サント脅迫シ又ハ  
人ノ住居シタル家屋  
ニ放火セント脅迫シ  
タル者ハ一月以上六  
月以下ノ重禁錮ニ處  
シ二圓以上二十圓以

第三百二十六條

**學說** 脅迫トハ暴行ニ對スル義ニシテ言語若クハ文書ヲ以テ人ニ禍害ヲ加フベキノ意ヲ示シ以テ恐喝畏懼セシメ金錢財物ヲ取ントシ又ハ其他ノ事件ヲ満足セシメントスルニ在リ

**學說** 本條第一項ノ罪ハ第一金錢財物ヲ取メ又ハ其他ノ事件ヲ満足セシメントスルヲ以テ成ル但本項ノ脅迫ハ言語文書ヲ以テ爲シタルモノニ限ル又此罪ハ其脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親屬ノ告發ヲ待テ後チニアラサレハ其罪ヲ論スルヲ得ス

第二其目的ヲ達スルノ惡意アルヲ 第三被害者畏懼ノ念ヲ生シタルヲ三條件ヲ以テ成ル但本項ノ脅迫ハ言語文書ヲ以テ爲シタルモノニ限ル又此罪ハ其脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親屬ノ告發ヲ待テ後チニアラサレハ其罪ヲ論スルヲ得ス

第三百二十六條

**學說** 本項モ亦々三條件ヲ以テ罪ヲ成ス其第二第三條件ハ前項ト同シク而シテ第一條件ノミヲ異ニス前項ニ於テハ殺サント云ヒ若クハ人ノ居宅ニ放火セント云ヒ以テ脅迫シタルモ本項ニ於テハ毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財産ニ放火及ヒ毀壞劫掠セント脅シタル場合ニアリ毆打創傷其他暴行ヲ加ヘントハ身体ニ對スル場合ヲ云フ

下ノ罰金ヲ附加ス

(刑)一三九、一四二、  
一四七、三三三、

毆打創傷其他暴行ヲ  
加ヘント脅迫シ又ハ  
財産ニ放火シ及ヒ毀  
壞劫掠セント脅迫シ  
タル者ハ十一日以上  
二月以下ノ重禁錮ニ  
處シ二圓以上十圓以  
下ノ罰金ヲ附加ス

(刑)一三九、一四二、  
一四七、三三三、



第三百二十七條

學說

兇器ヲ持シテ脅迫スルハ其危險實ニ大ニシテ被害者畏懼ノ念ヲ生スルモ甚タ深キヲ以テ其刑亦從テ重シ

第三百二十七條 兇器

ヲ持シテ前條ノ罪ヲ

犯シタル者ハ各一等

ヲ加フ(刑)三

第三百二十八條 親屬

ニ害ヲ加フ可キ事ヲ

以テ脅迫シタル者ハ

亦二條ノ例ニ同シ

(刑)三

第三百二十九條 此節

ニ記載シタル罪ハ脅

第三百二十八條

學說

親屬トハ第四百十四條第四百十五條ニ記スル者ヲ云フ親屬ト雖モ其間自ラ親疎ノ別アルモ概スルニ皆ナ相親シミ相愛スル所ノ者ナリ故

ニ親屬ニ害ヲ加フルコトヲ以テ脅迫セラルルハ恰モ自身ニ害ヲ加フルヲ以テ脅迫セラルルト同一ノ感觸ヲ來シ畏懼ノ念ヲ生スベキモノナリ是レ本條ノ設アル所以ナリ

第三百二十九條

學說

脅迫ハ其被害者ノ畏懼スルト否ヤトニ因テ罪ノ有無ヲ決スルモノニシテ人ノ性ニ強弱ノ別アリ腕力ニ剛怯ノ差アレハ如何ニ劇シキ脅迫ト雖モ敢テ意トセサル者アリ些少ノ脅迫ト雖モ大ニ畏懼ヲ懷ク者アリテ其人ニアラサレハ容易ニ之ヲ知ル能ハス是レ本條ノ告訴ヲ待ツ所以ナリ

第三百三十條

第三百三十條

學說

古昔ハ墮胎ヲ爲スモノ、刑大ニ重カリシモ今世其刑輕キ所以ノモ

學說

懷胎ノ婦女自ラ藥物其他手術等ヲ用ヒ墮胎シタル時ハ本條ノ罪ヲ成ス

第八節 墮胎ノ罪

第三百三十條 懷胎ノ

婦女藥物其他ノ方法

ヲ以テ墮胎シタル者

ハ一月以上六月以下

ノ重禁錮ニ處ス(刑)二



第三百三十一條

學說 墮胎者ノ承諾ニ依リ他人カ藥物其他手術等ヲ以テ墮胎セシメタル時ハ本條第一段ノ罪ヲ成ス若シ其所爲ノ結果婦女ノ死ヲ致シタル時ハ未段ノ刑即チ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス此刑タル輕キカ如シト雖モ必竟初メヨリ少シモ婦女ヲ殺スノ意ナキノミナラズ其所爲ヲ施シタルモノハ婦女ノ承諾アルニ依レハナリ故ニ其故殺毆打殺等ト異ナリ其刑輕キ所以ナリトス

第三百三十一條 藥物

其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル者ハ亦前條ニ同シ因テ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス(刑)二九三三〇七、  
第三百三十二條 醫師 穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ(刑)二九三三〇七、

第三百三十二條

學說 醫師穩婆ハ此罪ヲ犯シ易キヲ以テ之ヲ防シカ爲メ其刑特ニ重キ所以ナリ

第三百三十三條

學說 威逼トハ威勢ヲ以テ婦女ヲ脅迫スルヲ云ヒ誑騙トハ誑誑ヲ以テ婦女ヲ騙騙スルヲ云フ此方法ヲ以テ墮胎セシメタル所爲アル時ハ本條ノ罪ヲナス而シテ此刑ノ重キ所以ノモノハ其所爲殘酷ナルヲ以テナリ

第三百三十三條 懷胎

ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメタル者ハ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス(刑)直三二六、三二八、

第三百三十四條

學說 本條第一段ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一懷胎ノ婦女ト知ル、第二毆打又ハ暴行ヲ爲シタル、第三墮胎ニ至ラシメタルト是レナリ但シ其毆打又ハ暴行ノ所爲初メヨリ墮胎セシムルヲ以テ目的ト爲シタルニ在ル時ハ未段ノ刑即チ輕懲役ニ處スルモノナリ

第三百三十四條 懷胎

ノ婦女タルヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス(刑)直三二六、三二八、



年以下ノ重禁錮ニ處ス其墮胎セシムルノ意ニ出タル者ハ輕懲役ニ處ス

第二百三十五條 前二

條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ癩篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス(刑)自二九九、〇六一

第三百三十五條

學說 本條ハ前二條ノ罪ニ因リ生スル結果ニ關スル處分法ヲ定メルナリ

學說 本節ノ罪モ古昔ハ重刑ヲ科シタルモ今世之ヲ輕フシタリ蓋シ現今之ヲ犯スモノ多クハ赤貧ニシテ養育スル能ハス全ク不得已ニ出ツルノ所爲ナルヲ以テナリ

第三百三十六條

學說 本條ノ罪ハ二條件ヲ以テ成ル第一八歳未満ノ幼者又ハ自活スル能ハサル老耆疾病者ナルヲ 第二遺棄シタルヲ但其遺棄ハ寧固無人ノ他ヲ除クノ外ハ何レノ地ニ遺棄スルモ必ス本條ノ罪ヲ成ス又其疾病者タルト否ト及ヒ生活スルヲ得ルト得サルモノトハ事實裁判官ノ判定ニ任スルモノナリ

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第二百三十六條 八歳

ニ滿サル幼者ヲ遺棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス 自ラ生活スルヲ能ハサル老耆疾病者ヲ遺棄シタル者亦同シ



第三百三十七條

學說 本條ニ老疾者トハ尙ホ前條ニ云フ自活スル能ハサル老者疾病者ヲ云フ而シテ本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一右ノ幼者老疾者ナルハ第二寮間無人ノ地タルハ第三遺棄シタルハ寮間無人ノ地トハ山谷原野ノ人跡希ナル所ヲ云フ

第三百三十七條 八歳

ニ滿サル幼者又ハ老疾者ヲ寮間無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十八條

學說 本條ハ前二條數罪ノ條件ヲ具備シ尙ホ給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ專ラ保護ノ責任アル者ナルヲ要シ以テ此罪ヲ成スモノナリ

第三百三十八條 給料

ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養ス可キ者前二條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各一等ヲ加フ

第三百三十九條

學說 我刑法中致シタルノ文字ハ屢見ル所ナリト雖モ本條ノ如キハ尤モ注意ヲ要スベキモノトス即チ遺棄シタルノ原因ニテ癱瘓疾或ハ死ニ致シタルヲ云フモノニシテ假令遺棄スルモ他ノ原因ヨリ癱瘓疾或ハ死ニ致シタル時ハ本條ノ罪ニアラサルナリ

第三百三十九條 幼者

老疾者ヲ遺棄シ因テ癱疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス (刑)三〇〇三

第三百四十條

學說 本條ノ罪ハ其所爲不行犯ニシテ三條件ヲ以テ成ル第一自己ノ所有地内又ハ看守ス可キ地内ナルヲ第二遺棄セラレタル者ノ幼者老疾ナルヲ第三之ヲ知テ扶助セス又ハ官署ニ申告セサルヲ是レナリ此罪ヲ成スニ最モ必要ナルヲ知ルノ點ナリトス

第三百四十條 自己ノ

所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺棄セラレ

身體ニ對スル罪



第三百四  
十條二項

學說

第二項ノ罪モ所有主看守人ニ於テ前項ノ地内ニ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルヲ知テ扶助セス又ハ申告セサルニ於テハ即チ此罪ヲ成スモノトス

學說

本節ノ罪ハ古來ヨリ多ク行ハル、所ノ罪ニシテ就中婦女ヲ誘拐スルモノ多キニ居ル

タル者幼者老疾者アルヲ知テ之ヲ扶助セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス(刑)四

若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルヲ知テ扶助セス又ハ申告セサル者亦同シ(刑)四

第十節 幼者ヲ

第三百四  
十一條

學說

本條ノ罪ハ四條件ヲ以テ成ル第一十二歳未満ノ幼者ナルヲ第二略取又ハ誘拐ノ所爲アルヲ第三惡意アルヲ第四他人ニ交付シ若クハ自ら藏匿シタルヲ是レナリ略取トハ幼者ヲ強テ奪ヒ去ルヲ云ヒ誘拐トハ小兒ニ菓子等ヲ與ヘ誘ヒ行クカ如キヲ云フ自家ニ藏匿トハ尋ヌル者アルモ之ヲ秘シテ出サトル時ヲ云フ故ニ假令自家ニ藏匿スルモ尋ヌル者アルニ當リ之ヲ返ス時ハ藏匿ト云フヲ得ズ但之レヲ外國人ニ交付シタル時ノ外ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スベキモノナリ

略取誘拐スル

罪

第三百四十一條 十二

歳ニ滿サル幼者ヲ略取シ又ハ誘拐シテ自ら藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑)三四七、三四九、



第三百四十二條

學說

本條ノ罪ハ四條件ヲ以テ成ル。前條ノニ同シ唯其幼者ハ十二歳以上二十歳未満タルノ條件前條ノ第一條件ト異ル。而シテ其刑ノ前條ヨリ輕キハ十二歳以上二十歳未満ノ幼者ハ十二歳未満ノ幼者ニ比スレハ智識能力兩ナカラ優ルモノアリ十二歳未満ノ幼者ヲ畧取スルト難易ノ差同一ニ論シカタク其誘拐ニ至ツテハ殊ニ難キヲ以テ各其刑ニ輕重ノ區別ヲ設ケタリ其十二歳以上二十歳未満ノ幼者ヲ誘拐スルニ至テハ詐欺眩惑ノ外他ノ方法ヲ以テ誘拐スルモ罪トナラサルナリ故ニ十二歳以上二十歳未満ノ婦女ト相約シ其婦女ヲ他ニ伴ヒ行キタル如キハ罪トナラサルモノトス但其幼者ヲ外國人ニ交付シタル時ノ外被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スベキナリ

第三百四十二條 十二

歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ六

第三百四十三條

學說

本條ニ其他ノ名稱ヲ以テ收受スルトハ藝妓娼妓等ノ名義ヲ以テ收受スルノ類ナリ又畧取誘拐ノ幼者ヲ收受シタルモノハ略取誘拐者ニ比スレハ其情狀輕キヲ以テ一等ヲ減スルニアリ

第三百四十三條 畧取

誘拐シタル幼者ナルヲ知テ自己ノ家屬僕婢ト爲シ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ



第三百四十四條

學說

略取誘拐ノ罪ハ内行ニ係リ幼者ノ貞操榮辱ニ關スルカ故ニ檢察官直チニ公訴ヲ越ストキハ幼者ノ將來ヲ妨害スル等害ニ害ヲ加フルノ恐アリ故ニ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ始メテ其罪ヲ論スヘキモノトシタリ又但書ニ略取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタルトハ告訴ノ効ナシトアリ其式トハ蓋シ其妻タルヲ戸籍面ニ登記スルヲ以テ式ヲ行ヒタリト云ハサルベカラス又婚姻シタル時告訴ノ効ナシトセシハ若シ告訴ノ効アリトスルニ於テハ夫婦トナルノ後妻其夫ノ小過失アルモ常ニ告訴セシテ陳ヘテ夫ヲ壓服セシメ遂ニ一家ノ和合ヲ完フスル能ハサルカ故ナリ又此告訴ヲ爲シ得ルモノハ親屬中最モ近親ノ者ニシテ若シ近親ノ者棄捨シタル時ハ其次位ノ者在テハ告訴スルヲ得サルモノトス

第三百四十五條

學說

前條ノ幼者ヲ略取誘拐シテ之ヲ外國人ニ交付スルニ於テハ搜索發見ニ難ク幼者復歸スルニ難シ殊ニ國憲ヲ蔑シ國辱ヲ招クノ恐レアリ

減ス

第三百四十四條 前數

條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但畧取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ効ナシ(刑)二四三三(刑)二四三三(刑)二四三三(刑)二四三三

第三百四十五條 二十

ルヲ以テ之レカ刑ヲ重クシ且ツ被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待タズシテ其罪ヲ論スル所以ナリ

學說

猥褻トハ男女ノ幼者若クハ丁年者ニ對シテ淫猥ノ所行ヲ爲スナ云ヒ姦淫トハ強姦有夫姦幼者ノ淫行ヲ勸誘スルヲ云ヒ重婚トハ配偶者アル者重子ヲ婚姻ヲ爲スナ云フ

第三百四十六條

學說

本條ハ十二歳未満ノ男女ニ對スル罪ト十二歳以上ノ男女ニ對スル罪トヲ定ム其十二歳未満ノ男女ニ對スル罪ハ第一其幼者ナルヲ第二猥褻ノ所行ヲ爲シタルヲ第三暴行脅迫シタルヲ第一其幼者ナルヲ第二暴行脅迫シタルヲ第三猥褻ノ所行ヲ爲シタルヲ第三條件ヲ以テ成ル〇其十二歳未満ノ男女ニ對シテハ暴行脅迫ノ條件ナキモ之レヲ罰スルモノハ元來思慮未タ猥褻ノ事タルヤ否ヤヲ識別セス然ルニ誘導ノ猥褻ノ所行ヲ爲セハ後來教育ヲ施シ善男善女タラシムルモノ却テ品行ヲ亂シ隨テ發生スル弊害復タ軟フベカラサルニ至ル此レ道徳ヲ害シ社會ヲ害スルモノナレバ其承諾ノ有無ヲ擇ハス暴行脅迫ヲ要セス之レヲ

歳ニ滿サル幼者ヲ略取誘拐シテ外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十一節 猥褻

姦淫重婚ノ罪

第三百四十六條 十二

歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ



罰スル所以ナリ○又十二歳以上ノ男女ニ至テハ智識殆ント備ハリ道徳モ亦粗ホ辨スルモノナレハ其承諾上ノ所爲ハ道徳ヲ害スルモ社會ヲ害セズ此レ其暴行脅迫ヲ以テ爲シタルハ非サレハ行フ能ハサレハ猥褻ノ所行ハ男ヨリヲ目的トスレハ男女相待ツニ非サレハ行フ能ハサレハ猥褻ノ所行ハ男ヨリ男ニ女ヨリ女ニ對スルハ非ト雖モ爲シ得ヘキナリ此猥褻ハ他ノ罪ト異ナリテ未遂犯ノ場合ナシ何ントナレハ此所行ハ種々ノ事實ヨリ成立スルモノニシテ目的アリテ爲スアリ或ハ目的ナクシテ爲スアリテ其猥褻ナルヤ否ヤ一々裁判官ノ認定ニ任スモノナレハ若シ裁判官ニ於テ猥褻ノ所行ト認ムレハ直ニ罪ヲ生スルモノナレハナリ○又暴行脅迫ノ點ニ於テモ之レヲ認定スルハ專ラ裁判官ノ認定ニ委ス但シ本條ノ罪ハ被害者又ハ親屬ノ告訴アルニアラサレハ其罪ヲ論スルコトヲ得ス

第三百四十七條

學說 本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一十二歳未満ノ男女ナルコト 第二暴行脅迫ヲ爲シタルコト 第三猥褻ノ所行ヲ爲シタルコト是レナリ十二歳未満ノ男女ニ對スル猥褻ノ所行ハ暴行脅迫ノ所行ナキモ其道徳ヲ傷ヒ社會ヲ害ス况ンヤ柔弱ナル此幼者ニ對シ暴行脅迫ノ所行ヲ施シ以テ之ヲ犯スモノ其害實ニ重大ナルヤ言ヲ俟タサル所此レ刑ヲ重フスル所以ナリ但シ本條ノ罪モ被害者又ハ親屬ノ告訴アルニアラサレハ其罪ヲ論スルコトヲ得ス

以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑)ニ

第三百四十七條 十二

歳ニ滿サル男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以

第三百四十八條

學說 本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一十二歳以上ノ婦女タルコト 第二暴行ノ所爲アリシコト 第三不正ノ交合ヲ爲シタルコト是レナリ而シテ猥褻罪ニハ未遂犯ナキモ強姦ニハ未遂犯アリ則チ男女ノ造化機相結合スルト否ヤトニ因テ已遂未遂ヲ區別スベキモノナリ但シ本條ノ罪ハ被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ爲シタルニアラサレハ其罪ヲ論セズ

第三百四十八條二項

學說 昏睡トハ被害者ヲシテ暫時精神錯亂知覺ヲ失ヒ夢中トナスヲ云フ

下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑)ニ

第三百四十八條 十二

歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル者ハ輕懲役ニ處ス(刑)三四九、三八一、

藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ



第三百四十九條

學說 本條ノ姦淫罪ハ第一十二歳ニ滿サル幼女ナルヲ 第二承諾上ナル脅迫ノ所行アルヲ 第三姦淫シタルヲ強姦罪ハ第一同上ノ幼女ナルヲ 第二暴行ヲスト雖モ通常ノ強姦罪ト等ク罰スルモノハ十二歳未滿ノ幼女ハ殊格未ダ整サル者ナレハ之レヲ十二歳以上ノ幼女ニ比スレハ其害甚タ大ナリ是レ其刑重キ所以ナリ殊ニ此幼女ニ對シ暴行脅迫ノ所行ヲ以テ強姦スルモノニ至テ殊更刑ヲ加ヘサルヲ得ス是レ重懲役ニ處スル所以ナリ

論ス(刑三四九、三八一)

第三百四十九條 十二

歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者ハ輕懲役ニ處ス若シ強姦シタル者ハ重懲役ニ處ス

(刑三四八、三八一)

第三百五十條

判例 (二十年四月五日)抑モ姦淫罪ノ公訴ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴アルニアラサレハ之ヲ提起實行セサル所以ノ者ハ他ナシ其犯罪ノ性質專ラ被害者ノ節操榮辱ニ干スルヲ以テ概テ之ヲ隱蔽セント欲スルハ情ノ常ナルカ故ニ其意ニ反シ之ヲ顯擧スルハ猶ホ被害者ノ痛苦ニ一層甚シキヲ加フルノ道理ナレハ先ツ其意ノ向フ處ニ沿ハント欲スルニ外ナラス然レモ其罪ヲ犯スニ因テ人ヲ死傷ニ致スカ如キ罪ヲ相伴テ犯サハ其殺傷罪ハ告訴告發ヲ要セスシテ直チニ公訴ヲ提起實行スヘキモノニ付此場合ニ於テハ彼

第三百五十條 前數條

ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

(刑一四三、三九三、四四三、五三六、四三三、四二六)

第三百五十一條

ノ姦淫罪モ亦告訴ヲ待テ公訴ヲ爲スヘキ限リニアラス何トナレハ其殺傷罪ヲ審判スルニ就テハ必スシモ其起因タル姦淫ノ事實ヲ表明セシムルハ能ハス既ニ表明スルヲ要スル以上ハ亦之ヲ公ニセスシテ蔽ハント欲スルモ蓋シ避クヘカラサルノ條理ナレハ到底公益ノ爲メニハ私益ヲ顧ルニ違ナク社會刑罰權ノ因テ生スル所ニ基キ其告訴ノ有無ニ論ナク共ニ之ヲ罰スヘキハ法理ノ當ニ然ルヘキモノトス

第三百五十一條 前數

條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス但強姦ニ因テ癩篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑

身體ニ對スル罪



第三百五十二條

學說 本條ハ風俗ヲ紊シ男女ノ將來ヲ誤ラシムルノ罪ナリトス○本條淫行ヲ媒合スル所爲ハ其區域ヲ定ムルコトナシ是レ定メ難キナリ此罪ハ道德ニ關スル罪ナレハ裁判官ハ其道德ヲ害スル甚クシク犯罪ヲ構造スルニ充分ナル時ニ非サレハ容易ニ媒合シタル者ト看做ス可ラス

ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

(刑)百二十九、三五〇二、

第三百五十二條 十六

歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十三條 有夫

第三百五十三條

學說 本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一交合ノ事實アルコト 第二締婚アリタルコト 第三犯意アルコト是レナリ但本夫ノ告訴アルニアラサル

ハ其罪ヲ論スルヲ得ス

令訓

(十六年十月二十六日)水戸裁判所檢事へ内訓)婚姻ノ取組整ヒ戸籍登記セサルモ親族近隣ノ者夫婦ト認ムルニ於テハ其者ノ姦罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ問フヘシ(附言)學理上ヨリ論スル時ハ未タ戸籍ニ登記セサルモノハ婚姻ヲ爲シタル夫婦ト爲スヲ得ス從テ其姦罪ノ如キ有夫姦罪ヲ以テ罪ヲ論ズベキモノニアラスト信ス

判例

(十七年三月二十六日)姦婦ト指稱スルモノ死去シタル場合ニ於テハ其共犯人即チ姦夫ト思料スル者ノミニ對スル公訴ハ成立タサルモノトス(附言)此ノ判例ハ學理上其當ヲ得タルモノト看認メ難キカ如シ請フ其理由ヲ云ハシ蓋シ該判定ノ據テ決シタル所以ノモノハ姦婦ノ死去ニ拘ハラズ姦夫ニ對シ公訴權存在ストセハ姦夫ヲ有罪トスルノ結果死去シテ辨護スルコト能ハサル所ノ姦婦ニ對シ罪名ヲ地下ニ被ラシメ其名譽ヲ害スルニ至レハナリトノ理由ニ外ナラサルベシト雖モ若シ此理由ヲ以テスル時ハ本夫カ現ニ姦所ニ於テ其ノ姦婦ヲ殺シタル時ト雖モ尙ホ生存シタル姦夫ニ對スル公訴ハ消滅スルニ依リ起訴スルコト能ハザルトノ判決ヲ下サレ得サレニ至ラン然ルニ此場合ニ於テ本夫ノ姦婦ニ加ヘタル殺害ノ罪ハ却テ宥恕セラルトニアラズヤ抑モ法律ニ於テ其妻ノ姦通ヲ覺知シ之ヲ殺害シタル本夫ノ罪ヲ宥恕スルハ是レ即チ死シタル姦婦ノ姦通ヲ其死後ニ證明スルコトヲ許スモノナリ既ニ法律ニ於テ姦婦ノ姦通ヲ其死後ニ證明スルコトヲ許スニ於テハ如何ノ獨リ姦通ヲ爲シタル姦夫ノ既ニ死シタル婦ト姦通シタルコトヲ證明シテ之ヲ罰スルコトヲ得サルノ理アラシ

ノ婦姦通シタル者ハ

六月以上二年以下ノ

重禁錮ニ處ス其相姦

スル者亦同シ(刑)三一、三五四、

此條ノ罪ハ本夫ノ告

訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

但本夫先ニ姦通ヲ縱

容シタル者ハ告訴ノ

効ナシ(刑)一一四、三二九、三

四二、三、四四、三五〇、三六一、四二六、

身體ニ對スル罪



ヤ若シ假リニ姦婦ニ對シテ無罪ノ身ヲ以テ死去シタルト爲シ即チ姦通ヲ爲サトリシトノ推測ヲ爲スルハ本夫ハ到底  
刑法第三百十一條ノ宥恕ヲ受クルコト能ハサルニ至ラン之レ豈ニ法理ノ當サニ然ルベキモト爲スナ得ンヤ

第三百五十四條

學說 本條ノ罪ハ二條件ヲ以テ成ル第一配偶者アルコト 第二其重テ婚姻  
ヲ爲シタルコト 第三犯意アルコト是レナリ

第三百五十四條 配偶

者アル者重テ婚姻  
ヲ爲シタル時ハ六月  
以上二年以下ノ重禁  
錮ニ處シ五圓以上五  
十圓以下ノ罰金ヲ附  
加ス(刑三  
五三)

第十二節 誣告  
及ヒ誹毀ノ罪

第三百五十五條 不實

第三百五十五條

學說 本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一告訴發テ爲スコト 第二告訴告  
發事實ニ違フコト 第三惡意即チ人ヲ罪ニ陷ルルノ目的ヲ以テ爲ス

判例

〔十九年九月廿八日〕抑モ誣告罪ヲ斷スルハ人ヲ陷害スルノ目的ヲ  
以テ法律上有罪ニシテ且ツ不實ニ係ル事柄ヲ訴出タル場合ニアル  
コトハ固ヨリ多言ヲ俟タサル所ナリトス故ニ暫ク被告ハ甲等ヲ陷害セントス  
ルノ目的アリテ偽貨幣偽造行使ノ所爲アリト訴ヘタルモノトスルモ偽貨幣  
ノ如キハ明治七年第九十六號布告ヲ以テ一般ノ通用ヲ廢止セラレ當時既ニ  
法律上通貨タルノ性質ヲ失ヒ從テ之レヲ偽造スルモ刑法ノ制裁スヘキモノ  
ニアラサレハ被告ハ事ヲ爲スノ始メヨリ目的ヲ達成スル能ハサル事即チ法  
律上罪ト爲ラサル事柄ヲ訴出テタルモノト見做サ、ルヲ得サルノミナラス  
偶々之方爲メ處刑セラレタルモノアリトスルモ被告カ訴出テタル事柄ノ不實ニ非サリシコトヲ微シ得ヘキヲ以テ被告  
ノ所爲ハ到底誣告罪ヲ構成セサルコト明ナリトス

學說

本條推問ヲ始メサル前トハ起訴以前ノ意ナリト云ヒ或ハ其推問ヲ  
ル語ハ猶ホ訊問ノコトヲ指スニ外ナラズト云フノ二說アリ然レモ立  
法者特ニ推問ト記シタルノミナラス佛文章按ニハ起訴以前トアルヲ以テ見  
ル時ハ其推問ヲ解スル起訴以前ト爲スノ論至當ナルベシ

第三百五十六條 誣告

ヲ爲スト雖モ被告人  
ノ推問ヲ始メサル前  
ニ於テ誣告者自首シ  
タル時ハ本刑ヲ免ス



學說 本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一一事ヲ以テ其人ノ計算ニ加フル  
テシタルト是レナリ○惡事醜行ハ誣告ノ如ク刑事上ノ制裁アルヲ要セス  
只其被害者ノ恥辱トナル事ヲ摘發セハ直チニ罪トナル然レモ一事件ヲ以テ  
其人ノ計算ニ加ヘタル時ナルヲ要ス故ニ事件ヲ其人ニ加ヘスニテ彼レハ馬  
鹿ナリ彼レハ痴呆ナリト云フモ罪ト爲ス○事實ノ有無ヲ問ハスト  
スルハ人ハ元來他人ノ惡事醜行ヲ摘發シ其榮譽ヲ毀損スルノ權利ナク又義  
務ナキナリ然ルニ若シ之ヲ罰セスハ吾人ノ自由ハ地ヲ拂フニ至ルベシ故

ニ事實ノ有無ヲ問ハス○公然ノ點ニ於テハ議論一定セズ專ラ裁判官ノ判定  
ニ任スヘキナリ○演說ハ公然ナルヲ要シ書類圖畫ハ公布シタルヲ要シ雜劇  
偶像ノ如キハ人目ニ觸レシムルヲ要ス  
判例 (十六年十一月二十八日)新聞紙廣告欄内ニ於テ自家ノ製藥ノ有効  
長藥ナルヲ喋々シ他ノ製藥ハ無効有害ナリト誹リタルモ未ダ惡  
事醜行ト目ス可キ人ノ行爲ヲ指摘シタルニ非ラサレハ以テ刑法第三百五十  
八條ノ支配スヘキ誹毀罪ト爲スヲ得ス(十八年十二月二十五日)其新聞論說  
ハ實藥課稅ノ布告アリシニヨリ實藥性質ヲ汎論セシ止リ其實藥其營業者  
ヲ指名セシ事ナキハ勿論暗指セシ事ニモアラス其行文申語勢極端ニ馳セ少  
シク平穩ナラサル所ナキニ非スト雖モ原裁判所モ已ニ見認メタル如ク毫モ  
惡意ヲ包藏セシ事ナシ是誹毀ナリトスルノ要件ヲ具有セサル者ニシテ刑事  
上ハ勿論民事上ニ於テモ何等ノ責任ナキ論說ナリトス

(刑)八五、八八、一一一、  
六一九、二二三、六、

第三百五十七條 誣告

ニ因テ被告人刑ニ處  
セラレタル時ハ第二  
百二十一條第二百二  
十二條ニ記載シタル  
例ニ照シテ處斷ス  
第三百五十八條 惡事  
醜行ヲ摘發シテ人ヲ  
誹毀シタル者ハ事實  
ノ有無ヲ問ハス左ノ

例ニ照シテ處斷ス  
(刑)一四一、  
四二六、

一 公然ノ演說ヲ以テ  
人ヲ誹毀シタル者  
ハ十一日以上三月  
以下ノ重禁錮ニ處  
シ三圓以上三十圓  
以下ノ罰金ヲ附加  
ス  
二 書類圖畫ヲ公布シ  
又ハ雜劇偶像ヲ作



爲シテ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十九條 死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔ニ出タルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルヲ得ス

第三百五十九條

學說 死者ニ對スル誹毀ハ誣罔即チ有ル事ヲ無シト云ヒ無キ事ヲ有リト云フカ如キ時ニ非サレハ罪トナラス又其誹毀ニ因テ被害者タル者ハ死者ニアラスシテ親族ナリ親族ナルヲ以テ告訴ハ親族ニ於テ之レヲ爲スヲ得ルモノナリ

第三百六十條

學說 本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人若クハ神官僧侶ノ身分タルヲ 第二委託ヲ受ケタルヲ 第三知得タル隱私ヲ漏告シタルヲ是レナリ例ヘハ人ヲ殺傷シタルニ因リ其密事ヲ打明テ醫師ニ治療ヲ請ヒ又ハ病死ノ診斷書ヲ請ヒタルニ醫師肯セスシテ之レヲ漏告スル時ハ其人ノ信用ニ背キ委託者ヲ害スルニ至ル故ニ此等ノ人ヲシテ委託ノ隱私ヲ漏告セシメサランカ爲メ本條ノ制裁ヲ設ケタリ尤モ裁判所ニ於テ證明ヲ受ケ陳述スルハ此限リニアラス然レモ裁判官ハ強テ之レヲ陳述セシムルヲ得サルモノナレハ假令裁判所ノ命ヲ拒ンテ陳述セサルトモ決シテ罪トナルヲナシ但シ本條ノ罪モ被害者又ハ死者ノ親族ノ告訴アリタルニアラサレハ之ヲ論セス

(刑)一四二、  
第三百六十條 醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人若クハ神官僧侶其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因リ知得タル隱私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ十一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上



第三百六十一條

學說 本節ノ所爲ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スベシト爲シタルモノハ誹毀ハ之ヲ受クル者ノ意思ニ誹毀ヲ受クルモ致テ意ニ介セサル者アリ或ハ之ヲ他人ニ知ラシメサランコトヲ欲スルモノアリ然ルニ告訴ナキニ直チニ公訴ヲ提起シテ罰スル時ハ被害者ナキニ之ヲ罰シ或ハ被害者ノ匿サント欲スル暗地ノ耻ヲ明地ニ出シ被害者ノ榮譽ヲ害スルコトアレハナリ

三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス(刑)一七九、一八〇(治)二八三、

第三百六十一條 此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス(刑)一四、三二九、三五〇、三五三、四二二、三四二、六、

第三百六十二條

學說 本節ハ犯人ト被害者トノ身分上ノ關係ニ因リ刑ヲ加重スルノ法ナリ○子孫ト其祖父母父母トノ關係ハ天理自然ノ倫理ニシテ若シコリ悖ルヲ得ヘカラサルモノナリ然ルニ倫理ニ背キ祖父母父母ニ對シテ犯ス者ハ之ヲ凡人ニ對シテ犯スニ比スルニ其情重且大ナリ是レ蓋シ特ニ法條ヲ設ケ嚴ニ罰スル所以ナリ

第十三節 祖父母

父母ニ對スル罪

第三百六十二條 子孫

其祖父母父母ヲ謀殺

故殺シタル者ハ死刑

ニ處ス(刑)一〇六、一一〇、一一四、自二九二、至二九八、

其自殺ニ關スル罪ハ

凡人ノ刑ニ照シ二等

ヲ加フ(刑)三三〇、三三一、

第三百六十三條 子孫

其祖父母父母ニ對シ

第三百六十三條

令訓 (十一年十月二十六日司法省ヨリ水戸裁判所檢察(内訓)養子養女ノ取組整ヒ戸籍ニ登記セサルモ親族近隣ノ者養父子ト認ムルニ於テハ其養子タル者祖父母父母ト稱スル者ヲ毆打シタル時ハ其罪ヲ問フ可シ(附言)學理上ヨリ云フ時ハ其未タ戸籍ニ登記セサルニ於テハ對祖父母父母罪ヲ以テ論スルヲ得サルモノト信ス



毆打創傷ノ罪其他監禁脅迫遺棄誣告誹毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ但癡疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス(刑)自二九九、至三〇八、自三二二、至

三一九、自三三六、至三四〇、自三五五、至三六一、

第二百六十四條 子孫

其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給セス其他必要ナル奉養ヲ缺キタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前條ノ

第三百六十四條

學說

其必要ナル奉養云々ノ必要トハ其身命ヲ保安スルニ欠ク可ラサルノ謂ナレト人ニ貧富ノアルアレハ宜ク其分限相應ニ奉養スルヲ要スルモノニシテ此等ノ點ハ宜ク事實裁判官ノ認定ニ任スヘキ者トス



第三百六十五條

學說 本條特別ノ宥恕及ヒ不論罪ヲ父母祖父母ニ對スル殺傷ニ適用セザルモノハ固ト子孫タル者ハ祖父母父母ニ對シテハ尊敬ヲ加ヘ柔順ヲ旨トシ決シテ之ニ抗抵ス可カラサルモノナルノミナラス殊ニ本邦ハ道徳ノ國ニシテ人倫ヲ重シスルハ他國ノ遠ク及ハサル所ナリ然ルニ祖父母父母ニ對シ殺傷ヲ加フル如キ實ニ殘忍猛惡ニシテ決シテ假貸ス可カラサル大罪ナリ是レ其特別ノ宥恕及ヒ不論罪ヲ適用セサル所以ナリ特別ノ宥恕不論罪トハ第三百九條乃至第三百六十六條ニ規定スル所トス然ラハ假令正當防衛ニ出テタル時ト雖モ不論罪トナラサルナリ然レニ之レニ反シ總則ニ規定スル所ノ宥恕及ヒ不論罪ハ皆適用スルモノナリ是レ實ニ不權衡ナルモノト云ハサルヲ得ス何トナレハ公明正大ナル固有ノ權利アル正當防衛ヲ行ヒタルハ罪トナリ已レニ權利トテモ毫モ之レナキモノトスル抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ殺傷シタル所爲ナルハ不論罪トナリ

例ニ同シ

第三百六十五條 祖父

母父母ニ對シタル殺

傷ノ罪ハ特別ノ宥恕

及ヒ不論罪ノ例ヲ用

フルヲ得ス但其犯

ス時知ラサル者ハ此

限ニ在ラス(刑)七七、自三〇九、至三一六、

第二章 財產ニ對

スル罪

第一節 竊盜ノ罪

財產ニ對スル罪

學說 第二條ニ云フ財產トハ動產不動產ヲ總稱ス此財產ハ社會ヲ構造スルノ基ニシテ吾人々類ノ生活ニ於テ廣大ナル利益ヲ與フル本源ナリ故ニ之ヲ害スルハ隨テ害ヲ社會ニ及ボシ其影響財產ノミニ止マラス是ヲ以テ此罪ヲ身軀ニ對スル罪ト同シク刑法ニ規定シ至嚴ノ刑ヲ科スル所以ナリ又第一節ハ竊盜ノ罪ヲ規定セリ此罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一竊取スルヲ第二他人ノ所有物ニ係ルヲ第三惡意アルヲ是レナリ

第三百六十六條

令訓 (十六年九月二十二日) 司法省ヨリ愛媛縣ヘ指令(道路堤防河川或ハ田圃山林等ノ土石ヲ掘取リ他ニ賣却シ利ヲ圖リタル者アリ右盜情ニ出テタル者ハ第二百六十六條產物タル可キ土石ハ第三百七十三條ニ依リ處分スヘキモ其所爲些少ニシテ盜情ニ出テサル者ハ違警罪内ニ加フルモ妨ケナシ

第三百六十六條 人ノ

所有物ヲ竊取シタル

者ハ竊盜ノ罪ト爲シ

二月以上四年以下ノ

重禁錮ニ處ス(刑)八六、八七、三八二、三八六、三九九、

判例

(十六年三月二十三日) 他人ノ郵便書狀ヲ開封シテ爲替券ヲ取出シ其券ヲ用ヒテ金圓ヲ詐取シタルハ竊盜及詐欺取財ノ二罪アル者トス(十七年十月二十四日) 未遂犯ナリト申立ルモ枯竹ニ把テ竊取シ之ヲ持チ歸ラントスルニ方リ取押ヘラレタル事原裁判官渡書ニ明瞭ナリ然ラハ既ニ竊取セシ時ニ於テ盜罪ヲ構成シタルモノニシテ未遂犯ナリト云フヲ得ス

(十七年十月廿八日) 被告ハ甲ヨリ寄附ヲ受ケタル箱入銀簪細工物ヲ持歸ル途中ニ於テ該箱ノ中ヨリ銀簪二本銀鎖壹筋拔取リ該箱ハ元ノ如ク爲シ事主乙ニ相渡シ之ヲ典賣費消シタリ云々トアリテ其寄託ヲ受ケタル所ノ箱中ノ物品ヲ竊ニ拔取り元ノ如ク該箱ノ外面ヲ裝爲シ事主ハ相渡シ而シテ之ヲ典賣セシト現著ナレハ則チ竊盜ノ犯罪ニシテ豈ニ之ヲ受寄ノ財物ヲ費消シタル罪ト云フヲ得シ(十九年四月二十九日) 刑法第三百六十六條ハ他人ノ所有ニシテ且保管ノ事蹟アル物件ヲ竊取シタル者ヲ制裁ス(十九年六月五日) 刑法第三百七十二條田野ニ於テ殺類菜葉其他ノ產物ヲ竊取シタル者トアルハ管ニ其田野ニ生シタル殺類菜葉ニ止ラス假令之ヲ刈取リ乾燥中ニ係ルモ未タ生來ノ形骸ヲ變更セザレハ復タ以テ該法章中ニ含有セリ然レモ其刈取シタル殺類ノ田野ニ在ラス既ニ運搬シタル場合ハ刑法第三百七十二條ノ所謂田野ノ區域ヲ脱シタル者ニシテ則チ刑法第三百六十六條ノ制裁ニ屬スヘキヤ勿論ナリトス(十九年六月廿一日) 凡ソ共有物ナル者ハ各共有物共ニ其全部ニ付キ平等ノ權利ヲ有スル者ナレハ苟モ特約ナキ以上ハ他ノ承諾ヲ經入シテ擅ニ其物件ヲ處分スルヲ得サルヲ論テ歎タス何トナレハ他ノ共有者カ有スル權利ヲ侵

財產ニ對スル罪



害スルヲ以テナリ然ラハ縱令共有者ノ一人ト雖モ若シ盜ムノ意ニテ其物件ヲ竊取スル時ハ則チ竊盜罪ヲ免カレ能ハサルナリ(二十年五月十八日)刑法第三百六十六條二人ノ所有物ヲ竊取トアル其所有物タルヤ法律上看テ以テ財産ト指定シ得ヘキ價值アル物ヲ總稱スル精神ナルヲ論テ峽タサル所ナリ而シテ今原判之ヲ見ルニ本案被告カ所爲ハ甲カ乙ヘ差入ル可キ支米二俵ノ預リ證書ヲ竊取シタル者ナリ此證書タルヤ既ニ乙ヘ交付シタルモノヲ竊取セシニ於テハ素ヨリ竊盜罪ヲ免ヌカレスト雖モ未タ交付シタルニ非ス甲ノ手ニ在ル以上ハ其効力ヲ有セサルノミナラス價值ナキ者ト云ハサルヲ得ス果シテ然ラハ之ヲ竊取シタリトテ刑法第三百六十六條ニ依リ竊盜ヲ以テ論スル限リニ在ラス

第三百六十七條

第三百六十七條 水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス  
第三百六十八條 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若

第三百六十八條

判例 (十六年八月九日) 槍張棒ヲ以テ戸締シタル雨戸ヲ押外シ忍入り竊盜ヲ爲シタル者ハ刑法第三百六十八條ニ適用ス可キ者トス何者所謂鎖鑰トハ其鎖具ノ金屬又ハ木製タルニ拘ハラズ都ヘテ他ノ排入ヲ防拒スヘキ方法ヲ以テ戸締リヲ爲シアル者ノ謂レナリ(十九年四月二十九

クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ(刑)一七一、四一七、四一八、

日) 被告カ條下ヲ潜リ宅内ニ忍入り竊盜ヲ爲シタル所爲ハ刑法第三百六十八條ニ所謂踰越ノ所爲ニシテ同條ニ依リ處斷ス可キ者ナリ(十九年六月一日) 刑法第三百六十八條ノ犯罪タル門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キタルノミニ限ラス假令「ツツパリ」棒ニモモセヨ容易ニ閉披ノ成ラサル締リヲ爲シ現ニ鎖鑰ニ代用セシモノヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ノ如キモ亦以テ本條ノ制裁ヲ受ク可キ者トス(十九年十一月十六日) 刑法第三百六十八條ハ外部ノ破壞ト爲シテ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯ス者等ヲ罰スル法律ニシテ其犯人カ被害者ト同居ノ者タルト否トニ關セサルモノトス而シテ被告カ其床下ヘ忍入り尙ホ家屋ノ外圍タル隣室ノ床板ヲ破壞シ其室内ニ在ル物品ヲ竊取セントシタルモノナレハ固ヨリ外部ノ破壞タル論テ峽タサルナリ(二十年一月二十五日) 被告カ所爲ハ踰越損壞等ノ形蹟ナキニ刑法第三百六十八條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フモ原判文ニ離下ヲ潜リ云々トアリ其離下ヲ潜リタルハ則チ踰越シタル論テ峽タス何トナレハ離下ハ人ノ出入スル所ニ非ラサレハナリ

第三百六十九條

第三百六十九條 二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ(刑)一七一、三三九、

判例 (二十年五月三日) 二人以上ニテ罪ヲ犯スハ單身罪ヲ犯スニ比スレハ之ヲ犯スニ易ク且危害ヲ加フル大ナルヲ以テ其刑ヲ加重スル者ナレハ其共犯人ノ一人十二歳未滿ニテ其者ニ對シ其罪ヲ論セサルモ荷モ二人竊盜罪ヲ犯セハ刑法第三百六十九條ノ加重ハ免ルト、ヲ得サレハナリ

財産ニ對スル罪



第三百七十條

三百二十四

第三百七十條 兇器ヲ  
携帶シテ人ノ住居シ  
タル邸宅ニ入り竊盜  
ヲ犯シタル者ハ輕懲  
役ニ處ス(刑)一七二、  
三七九、  
第三百七十一條 自己  
ノ所有物ト雖モ典物  
トシテ他人ニ交付シ  
又ハ官署ノ命令ニ因  
リ他人ノ看守シタル  
時之ヲ竊取シタル者

第三百七十一條

第三百七十二條

判例 (十九年三月二十五日) 檢事ニ於テ被告カ盜取セシ大根八十餘本ハ  
既ニ所有者ニ於テ畑地ヨリ拔取リ樹本ニ干シ置キタル者ナレハ天  
然ノ成形ヲ變シ即チ天產物ノ區域ヲ脱シタルニ因リ刑法第三百七十二條ニ  
所謂田野ノ穀物菜菓其他ノ產物ニ非ラサルヲ以テ則チ本條ノ制裁外ナレバ  
第三百六十六條ニ依ルヘキ者トノ意見ナルモ本件ノ大根ハ唯々畑ヨリ拔取  
リ干シ置キタル迄ニテ未ダ天然ノ成形ヲ變シタルニアラス被害者ノ家ニ取  
メ若クハ他所ニ運搬シタルニモアラス該畑地ニアルヲ竊取シタルモノナレ  
ハ單ニ畑ヨリ拔取リ在ルノ故ヲ以テ直チニ刑法第三百六十六條ノ犯罪ト爲  
スヲ得サレバ原裁判所方同第三百七十二條ニ間擬セシハ至當ナリトス(十  
九年三月三日) 田野ニ在ル稻束ノ如キハ聊カ人工ヲ加ヘタルモ其性質名稱  
ヲ變シタルニ非ラサレバ刑法第三百七十二條ノ制裁ヲ受クヘキナリ

第三百七十三條

判例 (十九年三月二十七日) 刑法第三百七十三條ハ天產物即チ山林ニ現  
ニ生存スル竹木等ヲ指シタルモノニシテ既ニ之ニ人工ヲ加ヘ一ノ  
材木ト爲シタル以上ハ其山林ニ在ル者ト雖モ之ヲ竊取シタルハ同法第三  
百六十六條ノ制裁スル所ナリ(十八年八月二十五日) 刑法第三百七十三條ニ  
於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊取シ云々トアルハ其竹木第二人工ヲ加ヘタル  
ト否トチ間ハス苟モ山林ニ於テ人ノ監守セサル所ノ木石產物等ヲ竊取シタ

財產ニ對スル罪

三百二十五

ハ竊盜ヲ以テ論ス

(刑)一七五、  
三九六、

第三百七十二條 田野

ニ於テ穀類菜菓其他  
ノ產物ヲ竊取シタル  
者ハ一月以上一年以  
下ノ重禁錮ニ處ス

(刑)三八六、

第三百七十三條 山林

ニ於テ竹木礦物其他  
ノ產物ヲ竊取シ又ハ



ル者ハ皆本條ノ支配スル所トス(附言)本例ハ前例ニ反ス而シテ其當ヲ得サ  
ルモノト信ス(十九年三月二十九日)刑法第三百七十三條ニ於テ竹木礦物其  
他ノ產物ヲ竊取シタル者トハ其土地ヨリ生シタル天然ノ產物ヲ竊取シタル  
ヲ云フ者ニシテ本案ノ如キ他人ノ勢力ヲ加ヘ燒炭トナシタル者ハ天然ノ產  
物ト云フヲ得ス故ニ其燒炭ヲ竊取シタル者ハ宜ク刑法第三百六十六條ヲ  
適用スヘキ者トス

川澤池沼湖海ニ於テ  
人ノ生養シ若クハ產  
業ニ關スル產物ヲ竊  
取シタル者ハ亦前條  
ニ同シ

第三百七十四條 牧場

ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ  
竊取シタル者ハ二月  
以上二年以下ノ重禁  
錮ニ處ス

第三百七十五條 此節

第三百七  
十四條

判例

(十六年七月六日)凡ソ盜罪ハ竊取ノ物品ニ依リテ稍區別アリテ貨  
幣珠玉ノ如キ荷モノ之ヲ懷中シ若シクハ掌握シ得ヘキ者ハ格別ナレ

モ衣服ノ類ハ假令取出シタル上些シノ場所ヲ移轉スルモ之ヲ荷掛ヘテ爲シ  
未タ持去ラサルノ際ニ於テ發見シタルカ如キハ未タ其目的ヲ遂ケタルモ  
ノニアラサレハ未遂犯タルヲ論テ候タス(十九年四月廿二日)原裁判ヲ閱ス  
ルニ被告ハ明治十八年三月十一日夜甲方ニ於テ竊盜ヲ爲サントシ戸ヲ開ケ  
際家内ヨリ聲ヲ掛ケラレ其儘其場ヲ逃走セリト認定シタル上ハ其竊盜ヲ爲  
サント欲スルノ意思形蹟ニ顯ハレ即チ罪ノ執行ニ着手セシモノニシテ豫備  
ニ止マルモノト云フヲ得ス而シテ其目的ヲ遂ケサリシハ犯人意外ノ障礙ニ  
因リタル者ナレハ未遂犯ヲ以テ論スヘキヲ敢テ言フ俟タス(十九年十一月  
九日)抑モ刑法第三百七十三條ノ罪ハ竊取ノ事實ヲ具備シテ已遂トナスヘ  
キモノニシテ止タ伐探セシト云フヲ以テ直チニ已遂犯ト速斷スルヲ得ス何トナレハ其伐探トハ即チ其竊取ノ手段中  
ニ過キスシテ毫モ事後ノ目的ニ着手シタリト云フ形蹟アラサレハナリ(十九年十一月十六日)凡ソ竊盜ハ其物品ヲ竊  
取スルヲ以テ目的ト爲ス者ナレハ其物品ヲ持出シタルニ非ラサレハ其目的ヲ遂ケタリト云フ可ラス故ニ原裁判所カ  
被告ノ所爲ヲ以テ竊盜ノ未遂犯ト認メ處斷シタルハ相當ナリ(二十年九月三十日)凡竊盜ノ罪タル金銀珠玉ノ如キ之  
ヲ手ニ握取スルヤ直チニ既遂犯ト爲スヘキハ勿論ナレハ遺ハ其目的物ヲ竊取シ終リタル場合ニ限ル者ニテ竊取中ノ  
事物ト混同視スルヲ得サル者トス今木件ハ止タ其錢ニ手ヲ掛ケ攫ミタルマデニテ目的ノ如ク竊取シ終ハリタルモ  
ノト認メタル事實ニアラサルナリ故ニ原裁判所ニ於テ被告ノ所爲ヲ未遂犯ト斷シタルハ至當ナリトス

ニ記載シタル輕罪ヲ  
犯サントシテ未タ遂  
ケサル者ハ未遂犯罪  
ノ例ニ照シテ處斷ス  
(刑)一一三、  
一一三、

第三百七  
十六條

第三百七十六條 此節  
ニ記載シタル罪ヲ犯

財產ニ對スル罪

三百二十七



シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三百七十七條 祖父 母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論スルノ限ニ在ラス(刑八四一四一四五三三八七三九八)若シ他人共ニ犯シテ

第三百七十七條

學說 本條モ例外ナリ爰ニ祖父母父母云々ト記シ單ニ親屬トセザリシハ立法者大ニ注意ヲ加ヘタル所ナリ何ントナレハ單ニ親屬トスルハ疎縁ニシテ殆ント他人ニ近キ親屬ノ相盜ムモ刑ナキノ不都合ナ生スルヲ以テナリ○何ノ故アリ親屬相盜ムヲ罪トシ論セサルカ蓋シ之ヲ罪トシ論スルモ暗地ノ耻辱ヲ明地ニ晒シ且少親屬不和ヲ生スルノ原因トナルヲ以テナリ又親族間ノ財産ハ法律上ヨリ見レハ各其所有ニ區別アリト雖モ實際上殆ント共通ノ如キモノニシテ誰ニ屬スル部分カ判然區別爲シ難シ故ニ之ヲ盜ムモ惡意甚シカラサルヲ以テナリ

第三百七十八條

學說 本節強盜ノ罪ハ第一奪取スルヲ 第二他人ノ所有物ナルヲ 第三惡意アルヲ此三條件ヲ以テ罪ヲ成スモノトス(強盜トハ)竊盜ノ加重ノ情狀アルモノニシテ其性質異ナリタルモノニアラス(其脅迫トハ)第三百二十六條以下ニ規定シタル方法ヲ以テ行ヒタルモノヲ云フ例ヘハ殺ス可ク毆傷又ハ放火損壞スヘク若クハ強掠セント脅迫シ其脅迫現在腕力ヲ以テ有形上身體財産ニ對スル重大ナルヲ要スヘキモノトス竊盜ノ條ニハ人ノ所有物ト云ヒ此節ニハ財物ト云フト雖モ其意義同一ナリ

判例 (十六年八月一日)強盜ヲ爲スノ目的ヲ以テ被害者ノ門前ニ至リ門戸ヲ開カサレハ放火スヘシト強迫シタルハ既ニ強盜豫備ノ區域ヲ入ナレ決意ニ着手シタルモノニシテ單ニ脅迫罪ニ止マルヘキ者ニアラス

第三百七十九條

判例 (十七年十月十四日)刑法第三百七十九條ノ律意ハ荷クモ人ヲ殺傷シ若クハ畏懼セシムニ堪フヘキ場合ニアリテハ刀劍銃槍ヲ論セス棍棒ノ如キモ兇器中ニ包含セル者ナリ故ニ之ヲ以テ立駭カサル様申威シ金錢物品ヲ強取スルハ固ヨリ持兇器強盜ナリ(二十年二月二十三日)法律上兇

財産ニ對スル罪

財物ヲ分チタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

第二節 強盜ノ罪

第三百七十八條 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ス

第三百七十九條 強盜左ニ記載シタル情狀



器ナル者ハ二種ノ區別アリテ其一ハ性質上ノ兇器ト云ヒ其二ハ用方上ノ兇器ト云フ而シテ其性質上ノ兇器トハ刀劍銃槍ノ類ニシテ其物件ノ性質タルハナキ者ナレ用方上ノ兇器ナルモノハ鎌鉈菜刀棍棒等ノ類ニシテ其物件ノ性質タルハナキ者ニアラサレハ之ヲ以テ人ヲ殺傷シ又ハ殺傷セント爲シタル場合ニ於テ始メテ兇器ノ名ヲ附スヘキ者ナリ此故ニ本件被告ノ如キ鉈ヲ以テ物置倉ノ壁ヲ破壊シ入テ窃盗ヲ爲スモ未タ其鉈ヲ以テ人ヲ害シ又ハ害セント試タル事實アルコトナクハ是ヲ日シテ持兇器窃盗ナリト云フ可ラス

第三百八十一條

第三百八十二條

判例

(十七年十一月六日)刑法第三百八十條ニ強盗人ヲ傷シタルモノハ無期徒刑ニ處シ云々トアリテ強盗ヲ行ヒ財物ヲ得ル爲メタルト既ニ財物ヲ得テ其取還ヲ拒ム爲メタルト又ハ其逃避ノ爲メタルトナ間ハ又ハ其傷ノ輕重ヲ分タス犯人ノ多少兇器ノ有無ニ拘ハラズ苟モ傷ヲ負ハセタル者ハ皆本條ノ支配スヘキ者トス(二十年十月六日)刑法第三百八十條強盗人ヲ傷ケタル者云々トアルハ乃チ暴行手段ノ酷シキ者ニシテ而シテ強盗犯罪中ニ存在スル所爲及ヒ強取物ヲ保持スル爲メ人ヲ傷シタル場合ニ指シタル精神ナルヲ勿論ニシテ事後其罪ヲ免ルル爲メニ發生スル毀傷等ニ援用スヘキ律意ニ非サルナリ

アル者ハ一個毎ニ一等ヲ加フ(刑)一七二、三六九、三七〇、  
一二人以上共ニ犯シタル時  
二兇器ヲ携帯シテ犯シタル時

第三百八十條 強盗人

ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第三百八十一條 強盗

婦女ヲ強姦シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

(刑)三四八、三四九、

第三百八十二條 竊盜

財ヲ得テ其取還ヲ拒ク爲メ臨時暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス(刑)三二六、三六六、

第三百八十三條 藥酒

等ヲ用ヒ人ヲ醉迷セシメ其財物ヲ盜取シ

第三百八十二條

第三百八十三條

學說

竊盜罪ヲ構成スル時即チ財物ヲ取ルニ當テ暴行脅迫ヲ爲シタルモノハ強盜ナリト雖モ已ニ其罪ヲ構成シタル後即チ竊盜ヲ行ヒ終リ逃走スルニ當テ暴行脅迫ヲ爲シタル如キハ強盜ニアラス何ントナレハ竊盜ヲ行ヒタルト暴行脅迫ヲ爲シタルトハ各別個ニシテ附着シタルモノニアラサレハナリ因テ特ニ立法者ノ此ニ明言シタルハ實ニ至當ノトス之ニ反シ竊盜ニ入ルニ當テ主人ニ認メラレタル時暴行脅迫ヲ爲シタルハ純然タル強盜ナリ○又本條ノ場合ニ於テ財ヲ得スシテ逃走シ追呼ニ逢ヒ臨時暴行脅迫ヲ爲シタルハ其竊盜未遂ト暴行脅迫トナ分テ論セサルヘカラス

學說

本條ノ罪ヲ成サンニハ盜ムノ意アリテ藥酒等ヲ用ヒ人ヲ醉迷セシメ財物ヲ盜取シタルヲ要ス故ニ若シ盜ムノ意ナクシテ醉迷セシメタル後ニ至リ偶然發意シテ財物ヲ盜取スルモ本條ニ依テ論スルヲ得ス



タル者ハ強盜ヲ以テ  
論シ輕懲役ニ處ス

(刑)二九三、  
三〇七、

第三百八十四條 此節

ニ記載シタル罪ヲ犯  
シ減輕ニ因テ輕罪ノ  
刑ニ處スル者ハ六月  
以上二年以下ノ監視  
ニ付ス(刑)  
ハ)

第三節 遺失物

埋藏物ニ關ス

學說

本條ノ罪ハ四條件ヲ以テ成ル第一遺失物タルヲ 第二他人ノ所有  
物タルヲ 第三拾得タルヲ 第四隱匿シタルヲ是レナリ

判例

(十九年四月二十九日)原判文ニ(前略)該車中ニ取落シタル中ニ金  
六十三錢ヲ差入レアリシ腰提一個云々ト掲載シ既ニ遺失物ヲ拾得

テ隱匿シタル事實ヲ認視シナカラ唯竊取ノ二文字ヲ挿入シ以テ刑法第三百  
六十六條ヲ適用シタルハ不法ナリ(附言)本例ハ穩當ト爲シカダシ(十九年  
五月二十七日)原裁判官ハ遺失物藏匿ノ事實ヲ認メナカラ刑法第二條ニ依  
リ無罪ヲ言渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス何トナレハ原裁判ノ理由トスル  
所ハ遺失物取扱規則第二條ニ記スル期限内事主ニ物件ヲ還給セシ一事ニ在  
リテ其期限ハ善意者ノ物件ヲ事主ニ還シ又ハ官ニ送ルカ爲メ與フル猶豫ニ  
シテ本按ノ如キ場合ニ適當スル者ニ非サレハナリ依テ原裁判ヲ破毀シ刑法  
第三百八十五條ニ照シ仍ホ犯情ヲ酌量シ本刑ニ二等ヲ減シ科料金七十五錢  
ニ處ス(十九年十一月十六日)抑モ刑法第三百八十五條ノ所謂遺失及ヒ漂流  
ノ物品ヲ拾得テ隱匿云々トハ道路或ハ河海等ニ於テ偶然遺失及ヒ漂流ノ物  
品ヲ見當リ拾得タル時ハ其所有主分明ナルト否トニ論サケ直チニ之ヲ官署  
ニ申告スルカ又ハ所有主分明ナル場合ニ在テハ還付スルカノ手續ヲ爲サス  
隱匿スル者ヲ罰スルノ法文ニシテ其盜取ノ意ナキ者ニ適用ス可キモノナリ  
トス(中略)被告ハ其身車夫ニシテ乘客ノ其車ニ遺シ置キタル(ケット)ナルヲ知リ入質シテ利ヲ得ンカ爲メ之ヲ持歸  
リシ所爲タル純然ノ竊盜ニシテ遺失物ヲ拾得隱匿スル者ト異ナリトス故ニ被告ハ刑法第三百六十六條ニ間擬スヘキ

ル罪

第三百八十五條 遺失

及ヒ漂流ノ物品ヲ拾  
得テ隱匿シ所有主ニ  
還付セス又ハ官署ニ  
申告セサル者ハ十一  
日以上三月以下ノ重  
禁錮ニ處シ又ハ二圓  
以上二十圓以下ノ罰  
金ニ處ス



第三百八十六條

トス(附言)本例ハ十九年四月二十九日ノ判例ト其判理ヲ異ニス而シテ其法理ニ適シタル者ハ蓋シ本例ナラン  
學說 本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一埋藏ノ物品ナルコト 第二其埋藏物ハ他人ノ所有地内ニ在ルコト 第三掘得テ隠匿シタルコト是レナリ其埋藏トハ家屋或ハ壁ノ中ヨリ發見シタル物ハ含蓄セス必ス土中ニ在ル物品ノミニ限ルモノナリ

第三百八十六條 他人

ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得テ隠匿シタル者ハ亦前條ニ同シ(刑)三六六、三七三、三七三、

第三百八十七條

第三百八十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論

第三百八十八條

學說 家資分散ノ語ハ從前我國ニ於テ稱シタリ其後身代限ト改稱セリ然ルニ此刑法ニハ又家資分散ノ語ヲ用ヒタリ是レ即チ身代限モ含蓄スルモノトス本條ニ藏匿トハ匿スヲ云ヒ脱漏トハ他ニ賣却スル如キヲ云フ虛偽ノ負債トハ眞實ノ借財ナキニ證書等ヲ作爲シ眞實ナル借財ノ跡ヲ爲スヲ云フ

令訓 (十七年三月二十四日司法省ヨリ長崎裁判所平戸支廳檢事(内訓)身代限ニ際シ財産ヲ藏匿脱漏シ而シテ其所爲告訴ニ罹リ豫審中相當ノ手續ヲ經テ其身代限ヲ取消ス者アリ右ハ揭示期限中ニ負債ヲ償却シ身代限ヲ取消シタル時ハ刑法第三百八十八條ヲ適用スルノ限リニ在ラス

判例 (十九年三月三十一日)刑法第三百八十八條ニ所謂財産ノミニ止マラスシテ無形ノ財産即チ債主權ノ如キモノヲモ包含スルヤ論ヲ俟

タス故ニ家資分散ノ際其債主權ヲ藏匿脱漏シタル者ハ本條ノ制裁ヲ免カレトテ得ス(十八年五月二十八日)刑法第三百八十八條初項ノ罪ハ身代限財産取調ノ前後ニ論ナク債主ヲ害スルノ目的ヲ以テ財産ヲ藏匿脱漏シテ家資分散ヲ決了シタル以上ハ該條ノ制裁ヲ免カレサル者ナレハ債主ヲ害スルノ意思アルコト 家資分散ヲ爲シタルコト 債主權ヲ害シ得キコトノ三要素ヲ要ス(十九年三月三十一日)刑法第三百八十八條ノ罪ハ家資分散ノ際タルコト 惡意ニ出ルコト 債主權ヲ害スルコトノ三條件ヲ具備スルヲ必要ナリトス若シ此

セス(刑)八四、一四、一五、三七七、三九八、

第四節 家資分散ニ關スル罪

第三百八十八條 家資

分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス(刑)三九六、三九六、三情ヲ知テ虛偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒



一チ欠ク時ハ虚偽ノ契約ヲ爲ス者ノ罪モ亦成立セサルナリ本案原判文ヲ閱スルニ(甲ノ宅ニ來リ合セ其財産ヲ脱漏セシメシメ爲メ甲ハ該虚偽ノ證書ヲ債主乙ニ示シ以テ該財産ハ既ニ被告カ買得シタルコトヲ説明シタル者ナリ)又其後段ニハ「被告ハ甲ノ借金訴訟ニ付其執行及ヒ他ノ負債ノ償還ヲ拒マシ爲メ甲ノ相談ニ應ジ虚偽ノ賣買證書ヲ收受シ乙ヨリ對スル身代限財產取調ノ際該財産ハ其買得シタルコトヲ證明シタルノ事實ハ明確ナリト認定ス」トアリテ既ニ脱漏ノ所爲ニ着手シタリト雖モ試ニ一件書類ニ徴スルニ甲ニ於テハ更ニ債主ト示談ノ末身代限ヲ爲サスシテ其義務ヲ辨濟シタルコト明白タリ果シテ其義務ヲ辨濟シタル者トセハ債主ハ之レカ爲メ毫モ損害ヲ被フルコトナク所謂財産脱漏罪ニ必要ナル債主權ヲ害スルノ一條件ヲ具備セサルハ從テ被告入カ其情ヲ知テ虚偽ノ契約ヲ承諾スルノ罪モ成立ス可キ理由アラサルナリ然ラハ本件ハ罪トナラヌトス(十九年十一月十七日)抑モ刑法第三百八十八條ノ罪ヲ構造センニハ須ク家資分散結了ノ時ニ方テ債主ノ受ケタル損害ナカルヘカラス故ニ財産調ノ前後ニ於テ財産ヲ藏匿脱漏シ又虚偽ノ負債ヲ增加スルコトアリト雖モ結了以前他ヨリ之ヲ看破シ若クハ自ラ首白シテ其財産ヲ贖買ニ供シ虚偽ノ負債ハ其情ヲ告ケ又ハ此等ノ者ヲ措テ扣除スルモ餘財ヲ以テ各債主ノ償還ニ完充シ或ハ分散處分ノ取消ト爲レカ如キアリテ苟モ其結了ノ際債主ノ害ヲ生セサル場合ニ在テハ固ヨリ其罪ヲ構造セサルカ故ニ其附從タル該條第二項ノ行爲ニ於ケルモ亦等シク其罪ノ成立セサルヤ知ルヘキナリ

第三百八十九條

第三百八十九條 家資分散ノ際牒簿ノ類ヲ藏匿毀棄シ若クハ分

第三百九十條

學說 詐欺取財ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一欺罔又ハ恐喝スルコト 第二財物若クハ證書類ヲ騙取スルコト 第三惡意是レナリ  
判例 (十六年七月二日)民事上被告ノ位置ニ立チ巧ニ辨護ヲ爲シ其義務ヲ免レタルモ故サラニ詐偽詭計ヲ作爲シテ人ヲ欺罔シ以テ財物若クハ證書類ヲ騙取シタルニ非ラサレハ詐偽取財ヲ以テ論スルヲ得ス(十七年十月十四日)本條ニ定メタル詐偽取財ノ罪ハ第一惡意 第二詐欺ノ手段 第三物件ノ騙取以上三要素ヲ具備スルヲ要ス此内一元素ヲ欠クニ於テハ則チ此罪ヲ構造セサルモノトス(十九年六月十七日)凡ソ詐偽取財ノ罪ヲ組成センニハ刑法第三百九十條ニ於テ人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取スルコト必要トセラレタリ故ニ人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ負債ヲ免

財產ニ對スル罪

散決定ノ後債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス(刑)四  
第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪  
第三百九十條 人ヲ欺



脱スルカ如キアルモ證書類又ハ財物ヲ渡サシムルコトノ一事ヲ欠クハ詐  
 偽取財ノ罪ヲ組成セサル者トス然リ而シテ原判文ヲ査閱スルニ被告ハ甲代  
 人乙等ヲ欺罔シ甲ニ對スル負債ノ内未ダ返済セサル金二十圓ヲ已ニ返済シ  
 タリト云ヒ以テ其義務ノ幾分ヲ免脱セシト云タル者ト認メタル者ナレハ原  
 裁判所カ認ムル所ノ事實ハ刑法第三百九十條ノ罪ヲ組成セサル者ナルニ原  
 裁判所ニ於テ之ヲ該條ノ未遂犯ニ間擬シタル疑律ノ錯誤ナリトシテ無罪ヲ  
 言渡ス(十七年十月十八日)被告ハ甲へ木材賣代金ノ内二百八十圓ノ滞リニ  
 對シ其既ニ乙ニ賣極メタル木材ノ内十三方材ヲ立會寸間ヲ改メ引渡ス可キ  
 ノ約定證ヲ差入レ而シテ該木ハ乙ニ引渡シタル者ナレハ未ダ甲ニ對シ詐偽  
 取財ノ罪アリト云テ得ス何者被告ハ二百八十圓ノ滞リニ對シ已ニ乙へ賣極  
 メタル木材拾三方材ノ立會寸間ヲ改メ引渡ス可キ契約ヲナシタル迄ニテ未  
 タ其執行ヲ爲シタルニアラサレハ該木材ハ甲ノ支配權内ナリト認ムヘカラ  
 サレハナリ(十七年十一月十四日)原裁判所カ認定シタル被告ノ所爲ハ當初  
 被告ノ所有地ヲ甲へ十九ヶ年限ニ賣渡シ猶ホ又永代賣渡シノ約定ヲ爲シ其  
 屆ケ書ニ故サラニ異形ノ印ヲ捺捺シ爾後該田地ハ全ク十九ヶ年限リ賣渡ニ  
 シテ永代引渡シタル者ニ非スト詐稱シ甲ニ係リ勸解出願ヲナシタル者ナレ  
 ハ其目的タル永代賣渡シヲ無効ニ歸シ盡ノ約定ニ基キ該地所ヲ買戻サント  
 シタルニ過キスシテ全ク騙取ノ所爲アル者ト云テ得サレハ即チ民事ニ屬ス  
 ル者ニテ本條ノ間フ所ニアラス(十九年四月二十七日)原判文ヲ閱スルニ其  
 恐喝ヲ加ヘテ騙取シタル所ノ金參拾四圓ハ賭博ニ因テ得タル金十圓ナルヲ

罔シ又ハ恐喝シテ財  
 物若クハ證書類ヲ騙  
 取シタル者ハ詐欺取  
 財ノ罪ト爲シ二月以  
 上四年以下ノ重禁錮  
 ニ處シ四圓以上四十  
 圓以下ノ罰金ヲ附加  
 ス  
 因テ官私ノ文書ヲ偽  
 造シ又ハ増減變換シ  
 タル者ハ偽造ノ各本

條ニ照シ重キニ從テ  
 處斷ス

以テ之ヲ詐取シタリト云ヒ轍スク刑法第三百九十條ニ間擬スルハ甚々失當  
 ノ事ナリトス何者賭博ハ成法ノ禁スル所ニシテ不正ノ所爲不正ノ契約ナル  
 カ故ニ法律上無効ノ者タルヲ以テ其輸贏ニ歸因シタル金員ヲ授受スルトモ  
 法律之方保護ヲ與フル者ニ非ス然ルニ原裁判所ハ之ヲ有罪視シタルハ疑律ノ  
 錯誤ニ係ルヲ以テ原裁判ヲ破棄シ直チニ無罪ヲ言渡ス(十九年五月二十五日)原判文判定ノ事實ニヨレハ被告カ所爲  
 タル之ヲ約言スレハ金圓ヲ騙取セン爲メ頼母子講瓦解ノ期ニ際シ甲ヲ騙着シ金五十圓ノ預リ證書ヲ收領シ該證書ヲ  
 以テ其金員ヲ騙取セント勸解出願ヲ爲シタリト云フニ在リ果シテ然ラハ本院檢事附帶上告旨趣ノ如ク其證書ヲ握手  
 シタルニ於テ本條明文ノ如ク證書騙取ノ罪ハ既ニ成立シタル者ト云ハサルヲ得ス故ニ其金圓ヲ騙取セント勸解ヲ  
 出願シタルカ如キハ一ニ其結果ニシテ之ヲ遂ケサルトテ未遂ヲ以テ論ス可キ者ニアラス(十七年十月十四日)學院ニ  
 屬スル竹ヲ管轄廳ニ届ケス(往職代理カ)シテ攪賣シタルモ明治六年第二百三十五號ノ布告ニ違ヒタル迄ニテ刑法ノ  
 制裁ヲ受ク可キ者ニ非ラス(十九年八月十一日)甲カ竊取シタル爲換證書ヲ以テ郵便局ヨリ金員ヲ受取ラントセシハ  
 竊盜罪ノ結果ニシテ別ニ一罪ヲ構造スヘキモノニ非ラス然ルニ原裁判所カ之ヲ詐欺取財ノ未遂犯トシテ處斷シタル  
 ハ疑律ノ錯誤ナリ又乙カ其竊取ノ爲換證書ナルコトヲ知テ郵便局ニ到リ該證書ヲ以テ金圓ヲ受取ラントシタルハ別  
 ニ犯罪ヲ構造スヘキモノニアラサルニ原裁判所カ甲ノ共犯トシ刑法第三百九十條等ヲ適用シタルハ疑律ノ錯誤ナリ  
 (附言)本例ハ第二百九條ノ欄外二十年九月十二日ノ判例并ニ第三百六十六條ノ欄外十六年三月二十三日ノ判例ニ矛  
 盾セリ而シテ其法理ニ適シタルモノハ右二例ニシテ本例ハ其當ヲ得サルモノト信ス(十九年九月二十八日)被告ノ犯  
 罪ハ證書ヲ詐取シタルノ時ニ成立タルモノニシテ其證書ヲ提供シ勸解ヲ出願シタルカ如キハ畢竟犯罪ノ結果ニシテ  
 別ニ復々犯罪ヲ組成セサル者ナリ(十九年十一月廿四日)凡ソ物品ノ良否ヲ識別スルハ買者ノ鑑識ニ任スヘキヲ以テ  
 下品ヲ上品ナリト云テ賣ルカ如キハ商賣ノ常ナリト雖モ賣物ヲ買物ナリト欺罔シ以テ其價ヨリモ高價ニ賣ルカ如キ  
 ハ所謂人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取スル者ニシテ刑法第三百九十條ノ制裁ヲ免ルト能ハサル者ナリ(二十年四月十二日)



凡ソ盗罪ハ其贓物ノ所置如何ハ之ヲ擱テ問ハサル者ナレハ之ヲ販賣又ハ抵當ト爲シタル事蹟ヲ以テ皆其結果ナリトハ概言スルヲ得スト雖モ本案ノ事實タル被告ハ債主ヲシテ錯誤ノ約諾ヲ表セシメ贓物ヲ借用金額返済ノ担保ニ充テ其貸借契約ヲ證明スルニ偽造證書ヲ用ヒタルニ在レハ被告カ其金額ヲ借得セシ所由ハ主タル債主ノ約諾ト偽造證書行使謀畫ノ後因トニ外ナラスシテ決シテ從タル抵當物件ノ爲ニアラサレハ隨テ原裁判所カ適用セシ刑法第三百九十九條ノ犯罪ヲ構成スヘキ元素ハ之ヲ茲ニ見サレハ以テ詐欺取財ト名稱ス可ラサルナリ(附言)本例モ學理上其當ヲ得タリト認ムルヲ得ス(二十年五月三日)原判文ニ只甲ノ家屋敷ヲ乙カ買受クルノ仲裁ヲナシ賣主甲ニハ代金六十圓ト詐稱シ買主乙ニハ六十圓ナリト欺罔シ中間五圓ヲ騙取シタリト(中略)若シ果シテ獨リ其虛言ニ止マリ別ニ條件ノ附著スルコトナクシテ賣主ハ之ヲ六十圓ニ賣ラント欲シテ賣リ買者ハ六十五圓ニ買ハント欲シテ買イタル者トモハ假令被告カ其贏利ノ五圓ヲ潤利トシテ私カニ得ルモ未タ刑法上之テ詐偽取財ナリト論ス可キモノニアラス

第三百九十一條 幼者

ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其財物若クハ證書類ヲ授與セシメタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十二條 物件

ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス(刑)四二八

第三百九十三條 他人

ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ

財產ニ對スル罪

三百四十一



ルヲ見ス其意思ノミニシテ未タ其所爲アラサレハ罪狀構成ニ須用ナル原素ヲ具備セサル者ナリトス(十九年六月五日)上告人ニ於テ甲カ其所有金銀公債證書(本按冒認ニ係ルト認メラレタル所ノ物件ニシテ即チ前キニ甲ヨリ)乙へ賣渡シ后ニ又被告ノ口入ヲ以テ丙ナル者へ賣渡セシ者ナリ)ナ乙へ賣渡シタル當時ハ其賣渡ノ屆書見合セ期限内ニアルノミナラス公債證書讓渡捺印願書二月日ノ記載ナキト別ニ賣渡證書ノ授受ナキヲ見レハ其賣買未タ終了セシモノニアラス假ニ賣買ハ成立テタリトスルモ管轄廳ノ捺印ヲ受ケタルニアラサレハ未タ所有權ノ買主へ移リタルモノニ非スト論告スルモ金銀公債證書發行條例ヲ按スルニ毎年二季該公債證書ノ賣買讓渡ノ届出ヲ見合スヘシトノ規定ハ其利子下渡方混淆セサルカ爲メニシテ唯其期限間其届出ヲ停止シタルマテニ實際賣買讓渡ノ契約ヲ爲スヲ停止セシ者ニアラス而シテ本接甲ト乙トノ間ニ於ケル賣買ノ未タ終了セサルヤ否ヤハ事實ニ關シ承審官ノ判定ニ任從ス可キ者ニシテ業ニ已ニ承審官ニ於テハ其賣買ノ終了セシ者ト判定シ又右條例第七條ニ依リ新舊公債證書發行條例第六條第十一節改正ヲ閱スレハ却テ讓渡又ハ賣買等ハ相對ノ約定ヲ以テ其所有權ヲ轉移スルヲ得可シトノ明文アレバ本按公債證書ノ所有權カ買主ニ移リタルヲ明了ナリトス又上告人ハ二重賣ノ情ヲ知ラスシテ口入ヲ爲シタル者ナリ假リニ其情ヲ知リタルトスルモ之レカ入口入ヲ爲スヲ耐スルノ法律ナシト云フモ其情ヲ知ルト否トハ事實點ニ涉ルヲ以テ採用シ難シ而シテ其情ヲ知リ口入ヲ爲シタル上ハ人ノ動產ヲ冒認シテ販賣スルノ幫助ヲ爲シタル者ナレハ其從犯タル亦タ論ヲ俟タサルモノトス(二十年五月六日)凡ソ冒認罪ハ他人ノ所有物ヲ己ノ有ナリトシ以テ之レカ所有權ヲ第三者ニ移ス者ナレハ本按事實ノ如キハ之ト異ニシテ被告カ

抵當典物ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス  
自己ノ不動產ト雖モ己ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重子テ抵當典物ト爲シタル者亦同シ

賣却シタル者ハ共有者ト協議上公然被告ノ所有名義ト爲シアレハ第三者ニ於テ被告ヨリ其所有權ヲ移シタルハ法律上最早其移轉ノ効力ヲ動カシ得ヘカラサル者ナリ故ニ假令其實共有ノ約束アリトスルモ個ハ是レ秘密ノ契約ニ過キサレハ共有ナリト云フ者ニ於テ損害アラハ被告ニ對シ民事上是レカ要價ヲ請求シ得可キモ法律上被告ハ決シテ他人ノ所有物ヲ冒認シタルト云フヲ得サル者トス(十七年十月二十一日)甲ノ名前ニテ乙ハ抵當ト爲シタル甲所有ノ地所ヲ被告(甲ト丙ト)等ノ間ニ於テ賣却セシハ果シテ乙ノ權利ヲ害セシモノナルヤ否ヤヲ審究スルハ本件ニ於テ欠クヘカラサル背緊ノ點ナリトス何トナレハ該地所タル乙ハ單ニ其先取權ヲ有スルニ止マリ致テ所有權ノ引渡シヲ得タル者ニ非ザレハ乙ノ權利ヲ害セサル已上ハ被告等ノ間ニ於テ之ヲ賣買スルコトアルヲ以テ犯罪ヲ組成セサレハナリ(十九年三月三十日)本按銅種ノ如キハ元ト家屋ニ附屬スル一ノ不動產ナルハ被告甲カ自己所有ノ宅地建築造作等ヲ抵當トシ乙ヨリ金貨ヲ借用シ之ヲ辨濟セサルノ前ニ被告丙ト共謀シ該抵當家屋ニ附屬ノ銅種ヲ取外シ獨ニ外シ置キタル銅種ト合併シテ既ニ抵當ト爲シタルヲ欺隱センカ爲メ丙ノ名稱ヲ以テ重子テ丁ハ典物トシ金借シタル者ヲ刑法第三百六十九條ニ問フハ相當ナリ(十九年三月三十一日)抑モ刑法第三百九十三條第二項ノ罪タルヤ公證ノ有無ニ關セス既ニ抵當典物ト爲シタル不動產タルコトヲ欺隱シ重子テ抵當典物ト爲シタル時ハ該條ノ制裁ヲ受ケルハ勿論ナリ(附言)本例モ學理上其當ヲ得タルモノト爲スヲ得ス(十九年八月廿七日)刑法第三百九十三條第二項所謂自己ノ不動產ト雖モ己ニ抵當ト爲シタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シタル者トハ最初公證ヲ經テ抵當ト爲シタル不動產ヲ欺隱シ更ニ公證ヲ經テ他人ニ賣與シタル場合アルモ得スル法意ナリトス何者地所賣入書入規則ニ據リ公證ヲ經サル不動產ノ抵當ハ法律上債主ニ先取特權ヲ與ヘサルノミナラス法律ノ見テ以テ賣入又ハ書入ト爲ス者ニアラス故ニ之ヲ欺隱シ公證ヲ經テ他人ニ賣與シタルコトアルモ其公證ヲ經タル賣得者ニ毫モ損害ヲ生スルコトナクハ決シテ該條第二項ノ制裁ヲ受ケ可キ者ニアラサレハナリ(附言)本例ト前例トハ其判理矛盾ス而シテ其當ヲ得タルハ蓋シ本例ナルベシト信ス

第三百九十四條 前數



條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス(刑三)

第三百九十五條 受寄

ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取拐帶其他

第三百九十五條

學說

本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一他人ノ物件ナルヲ第二費消スルヲ第三故意アルヲ是レナリ費消トハ賣却贈與又ハ飲食シ盡シタル等凡テ財産ノ最終ノ處分ヲ爲シタルモノハ悉ク含蓄スルモノトス〇故意ト費消ト同時ニアルモ直チニ以テ罪ト爲ス能ハサルヲアリ此點ヲ明ニセシニハ先ツ得代物ト不得代物ノ區別ヲ爲スヲ要ス(得代物ハ)一ニ代替物或ハ不確定物ト云ヒ金錢米麥等ノ如キ其物件確定セスシテ他物ヲ以テ代替シ得ル所ノ物はレナリ(不得代物ハ)一ニ代替物或ハ確定物ト云ヒ祖先傳來ノ寶劍珠玉ノ如キ其物件確定シ他物ヲ以テ代替シ得サル物はレナリ〇費消シタル所ノ物件不得代物ニ係ルハ其之ヲ費消スルニ故意ヲ以テスルハ直チニ罪トナルモノナリ何者其物件タル確定物ニシテ他物ヲ以テ代替スル能ハサルモノナレハ之ヲ費消スルハ即チ返還シ能ハサルモノトナレハナリ例ヘハ右ノ寶劍ヲ他ヨリ借り故意ヲ以テ販賣交換若クハ贈與シテ返還シ能ハサルニ至ラシメタルハ直チニ罪トナルモノナリ然レモ其物件ノ取戻シ

詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

得可キ場合例ヘハ典物トナシタル時ノ如キハ使用シタル迄ヲ未タ費消シタルモノトナス可ラサルニ因リ假令故意ヲ以テスルモ罪トナラスシテ返還シ能ハサルトキニ至リテ始メテ罪トナル可キナリ故ニ彼ノ借蒲團ヲ典物ト爲スカ如キ直チニ罪トナルニ非ラズ已ニ期限ヲ經過シ之レヲ受戻シテ返還スル能ハサルニ至リテ罪トナルモノニシテ受戻シテ返還スルトキハ其罪トナラサルナリ〇費消シタル物件得代物ニ係ルトキハ其之レヲ費消スルニ故意ヲ以テスルモ直チニ罪トナラス何ントナレハ此物件タル不確定物ニシテ他物ヲ以テ代替シ得可キモノナレハ之レヲ費消スルモ期限ニ至リ他物ヲ以テ代替シ得可ケルハナリ例ヘハ米若シクハ麥若干ノ委託ヲ受ケ故意ヲ以テ販賣交換贈與若シクハ喰ヒ盡シタリトイヘトモ期限ニ至リ他ノ同量同質ノ米麥ヲ以テ返還スルハ罪トナラサルナリ故ニ得代物ニ係ルトキハ期限ニ至ルモ返還シ能ハサルトキ始メテ罪トナル可キモノニシテ期限ニ至リ返還スルトキハ罪トナラサルナリ〇費消シタル物件ノ得代物タルト不得代物タルトヲ問ハス罪トシ罰スルニハ故意ヲ以テ費消シタルヲ要スルナリ其果シテ故意ニ出テタリシヤ否ヤハ專ハラ事實裁判官判定ニ任ス

判例

(十七年十月二十四日)被告ノ所爲ハ職掌上委託ヲ受ケタル物品ヲ自己金融ノ爲メ輒ク典物ト爲シ督促ヲ受ケルモ返還スルコト能ハサル者ニシテ始メヨリ自己ノ所有ト爲サントスルノ惡意アルニ非サレハ則チ委託物費消ヲ以テ論スヘクシテ冒認ヲ以テ論ス可キ者ニ非ス(十九年三月二十五日)刑法第三百九十五條ノ委託物費消トハ假令ハ其委託セラレタル所ノ物件ヲ典物又ハ賣却シテ已レテ利スル乎或ハ已レテ利スルノ目的ヲ以テ他人ニ其物件ヲ與フルカ如キ所爲ヲ重モニ支配スルノ正條ナリ(十九年四月十二日)原判文ニ(甲カ落札代金十三圓ヲ神戸始審裁判所暨岡支廳ヘ持參ストテ同人ヨリ受取り之ヲ消費シナカラ該金額ハ右支廳ヘ完納シタル旨詐言セシ等)云々トアルニ據レハ被告カ右ノ詐言ヲ爲セシハ既ニ費消シタルノ后ニ在ル者ニシテ詐言シテ后チ費消シタル者ニ非ラズ然レハ則チ之レニ對シ刑法第三百九十五條ノ末段ヲ適用ス可キ者ニアラス何トナレハ該條末段ニ所謂詐言ノ所爲アル者



トハ其之レヲ費消スルニ付キ詐言ノ手段アリタルヲ指スモノナレハナリ(十九年四月廿九日)原裁判所ハ被告カ借用シ居ル宅地ノ樹木ヲ伐採シタルノ事實ヲ認メナカラ之ニ擬スルニ刑法第三百六十六條ヲ以テシタルハ擬律ノ錯誤ナリト判定シ原裁判ヲ破毀シ直ニ第三百九十五條ヲ適用ス(十九年四月二十九日)抑モ刑法第三百九十五條初段ノ罪タルヤ初メ其寄託ヲ受クルカ又ハ借用スルニ際シテハ正意ヲ以テ之ヲ受ケ後チ之ヲ擅ニ消費シテ返還セス信ニ背クノ所爲ヲ制裁スルノ法章ニシテ之ニ反シ當初ヨリ不正ノ意思ヲ以テ受寄又ハ借用ヲ名トシ其物品ヲ受取ルルハ詐欺取財ノ罪ヲ組成ス可キヤ知ル可ラス而シテ其正當ナル借用物ノ如キ假令其物主ノ認諾ヲ經ス一時典物トナスモ其返還期或ハ催促ヲ受クルニ該リテ之ヲ返還シ信ニ背カサル已上ハ論ス可キ者ニ非ラス其物件ヲ典物等ニ爲シ物主ヨリ返戻ヲ促サトルモ更ニ返却ヲ爲サトルニ於テハ費消罪ノ成立スル者ニシテ告訴ヲ受クルニ該リ不得止返還スルカ如キハ恰モ盜犯カ事發覺シ盜品ヲ事主ニ返付スルト均ク其物件ヲ支償スルモ已ニ成立セシ罪ノ消滅スヘキ者ニ非ラス(十九年五月七日)受寄物費消ノ罪ハ寄託者カ正當ノ目的ヲ以テ附託シタル場合ノミニ止ラス假令寄託者カ不正ノ目的ヲ以テ附託シタル財產ト雖モ受託者ニ於テ其附託ノ用法ニ供セス故意ヲ以テ自己ノ私益ニ費消シタル場合ニ於テモ亦構成ス可キ者ナリ何者附託者ノ目的如何ハ受託者カ惡意ヲ以テ私利ニ消費シタル罪ノ元素ニ毫モ瑕瑾ヲ與ヘサルノミナラス附託ノ目的外ニ消費シタルニ付テハ亦害ナシト言フ可ラサレハナリ況ンヤ本件ノ如キ官吏ニ賂ヲハ好ミス可ラサル所爲ナリト雖モ法律上特ニ之ヲ禁スル所ニアラサルニ於テヤ(十九年五月八日)凡ソ委託物ハ其委託賃ヲ得ルト否トノ別ナク委託中ハ之ヲ保護シ之ヲ監守スルノ責任アルハ論ヲ待タサル所ナレハ本件ノ如ク賃錢ヲ得テ運送ノ爲メ託サル者ト雖モ委託ノ性質ニ毫モ異ナルヲナケレハ之レチ已ニ使用シタルハ純然タル委託物費消ニシテ毫モ竊盜ノ事實ナケレハ之レヲ竊盜ト云フノ論旨ハ相立タス又假令荷主ニ於テ三百七十條ヲ運送ニ託スヘキヲ誤テ過剰ニ渡シアリテ均シク委託中ノ物件ナレハ之ヲ委託外ノ物件ナリト云フヲ得ス

第三百九十六條

自己

ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス(刑一七五、三七八)

第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯

第三百九十七條



第三百九十八條

サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

(刑)一三、一二三、

第三百九十八條 此節

ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス(刑)八四、一一四、一五三、三三七、三八七、

第六節 贓物ニ

學說

贓物ナル語ハ財産ニ對スル罪ヲ犯シ因テ得タル所ノ物件ヲ云フ則チ此贓物トセンニハ第一財産ニ對スル罪ヲ犯シテ得タル物件ナル

一 第二其罪ヲ犯シテ直接ニ得タル物件ナルコトノ二條件ヲ備ヘサルベカラ

第三百九十九條

判例

(十九年四月五日)公判始末書ニ依レハ原裁判所カ本按テ處斷スルノ際ニハ被告ノ事件ハ豫審中ニ在ルモノナリ然ラハ其主タル事件ノ未タ定マラサル内ハ被告ガ受取リタル金額ハ果シテ竊盜ノ贓物ナルヤ知ル可ラス然ルチ強竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ云々刑法第三百九十九條ヲ適用シタルハ越權ノ處分ナリ(十九年十二月十四日)刑法第三百九十九條強竊盜ノ贓物タルコトヲ知テ之ヲ受ケルトアルハ贈與典物又ハ貸借ノ名義ヲ以テ之ヲ得タル者ヲ云フノ法意ニシテ其情ヲ知テ之ヲ運搬シタル者ヲ云フニアラス若シ上告論旨ノ如ク運搬ノ所爲ヲシテ受ケタルモノトセンカ寄藏故賣ノ所爲モ亦受ケタルモノト云ハサルヲ得ス豈ニ此ノ如キ法理アラナヤ

關スル罪

第三百九十九條 強竊

盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百條 前條ノ罪ヲ

第四百條

財産ニ對スル罪

三百四十九



第四百一

**判例** (十九年五月二十五日) 刑法第四百一條ノ罪タルヤ上告論旨ノ如ク獨立ノ犯罪ナレハ之ヲ細説スレハ事後ノ從犯トモ稱ス可キ性質ノ罪ニシテ他ノ一個單獨ノ犯罪トハ聊カ其實ヲ異ニスルヲ以テ假令犯罪ニ關スル物件ノ賣買其他ノ牙保即チ紹介ヲ爲スモ之ヲ遂ケ得サル以上ハ未遂ノ所爲ヲ罰スルノ法章ナキヲ以テ無罪タルハ論ヲ俟タズ本按被告カ所爲ニ於ケル原告ノ認ムル事實ニ依レハ隱匿漂流物賣買ノ紹介中發覺シテ遂ケ得サリシ者ナレハ之ヲ罪ト爲ラサル者トシ無罪放免ノ言渡ヲ認可シタルモ亦相當ナリ(十九年七月九日) 刑法第四百一條ニ詐欺取財ノ物件ナルヲ知テ寄藏ヲ爲シタル者云々トハ寄託ヲ受ケテ之ヲ藏匿スルヲ云ヒシモノナルヲハ論ヲ俟タサルナリ故ニ今一件書類ヲ閱スルニ本按ノ事實ハ要スルニ甲カ管テ騙取セラレタル金五百圓ノ借用證書取戻ヲ乙ヘ係リ訴出タル際被告ハ丙等カ甲ヨリ金五百圓ノ證書ヲ騙取シタル情ヲ知リ丙ヨリ代言ノ委任ヲ肯シ尙ホ五百圓ノ證書ヲ以テ甲ヘ係リ勸解ノ末長野始審裁判所松本支廳ヘ貸金催促ノ訴ヲ爲シタル者ナリ然則被告ハ騙取シタル證書ナルヲ知テ寄託ヲ受ケタルモ毫モ藏匿ノ所爲無ク却テ之ヲ裁判所ニ提出シ公示セシ者ナレ

犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス(刑)三  
**第四百一條 詐欺取財**  
 其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十

圓以下ノ罰金ヲ附加ス

ハ詐欺取財ノ物件ナルヲ知テ寄藏ヲ爲シタル者ト云フヲ得ス被告カ所爲罪ト爲ラサルニ刑法第四百一條ヲ適用シタルハ疑律ノ錯誤ナリ(十九年十月十九日) 刑法第四百一條ニ定メタル犯罪ヲ構成スルニハ詐欺取財其他ノ犯罪ニ關セシ物件タルノ名實相適合スルヲ必要ナリトス故ニ右等物件ト信認シテ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シタルモ其實盜贓タリシハ該條ノ制裁ヲ蒙ルヘキモノニ非ス又刑法第三百八十五條ニ所謂遺失及ヒ漂流ノ物品ニ付テモ前掲ノ理由ト同シク其物品ノ個ニ遺失及ヒ漂流ニ係ル者ニ非サレハ其罪ヲ組成セサル者ナルヲ以テ若シ遺失物ト知テ他人ヨリ之ヲ受ケ共ニ隱匿シタルカ如キモ其實盜贓タリシハ其之ヲ受ケタルモノニ對シ該條ヲ適用スルヲ能ハサルモノトス

第七節 放火失

火ノ罪

**第四百二條 火ヲ放テ**  
 人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス(刑)三二、三三、三五

第四百二

**學說** 本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一惡意アルヲ 第二人ノ住居スル家屋ニ係ルヲ 第三放火シタルヲ  
**判例** (十九年四月十五日) 刑法第四百二條ノ犯罪ハ最初ヨリ人ノ住居シタル所ノ家屋ヲ燒ケノ惡意ヲ以テ燒燬ニ至ラシメタル者ヲ罰スルノ正條ナリ



第四百三條

三百五十二

第四百三條 火ヲ放テ

人ノ住居モサル家屋

其他ノ建造物ヲ燒燬

シタル者ハ無期徒刑

ニ處ス

第四百四條 火ヲ放テ

廢屋及ヒ柴草肥料等

ヲ貯フル屋舎ヲ燒燬

シタル者ハ重懲役ニ

處ス

第四百五條 火ヲ放テ

第四百四條

學說

廢屋トハ人ノ住居シ又ハ貨物ノ蓄藏シ得ヘカラサル所ノ家屋建造物等ヲ云フ

第四百五條

學說

本條第一項ハ自己ノ所有ニ係ルト他人ノ所有ニ係ルトヲ區別スルヲナク皆之ニ依テ處斷スレモ第二項ハ他人ノ所有ニ係ル時ノミニ

シテ自己ノ所有ニ係ル時ハ罪トナラス是レ第一項ハ人ノ生命ヲ傷害スルノ危險アルニ因リ第四百二條ト同ク自他ノ區別ヲ爲サスト雖モ第二項ニハ此危險アルコトナキヲ以テ自己ノ所有ニ係ルニ於テハ害ヲ他ニ及スコトナキニ依リ罪ノ生スベキ理由ナキナリ

第四百六條

判例

(十七年十一月八日)刑法第四百六條ニ云々物件ヲ燒燬シタルハ則チ犯罪ノ既ニ成立テタル者ニシテ其全部ヲ燒盡スルノ目的ナリシニ幾分ノ燒燬シタルハ則チ犯罪既ニ成立テタル者ニシテ其全部ヲ燒盡スルノ目的ナリシニ幾分ノ燒燬ニ止マルヲ以テ未遂犯ナリト謂フコトヲ得サル者トス

人ヲ乘載シタル船舶  
瀛車ヲ燒燬シタル者  
ハ死刑ニ處ス  
其人ヲ乘載セサル船  
舶瀛車ニ係ル時ハ重  
懲役ニ處ス

第四百六條 火ヲ放テ  
山林ノ竹木田野ノ穀  
麥又ハ露積シタル柴  
草竹木其他ノ物件ヲ  
燒燬シタル者ハ輕懲

財產ニ對スル罪

三百五十三



第四百七條

學說

自己ノ生命權利ヲ拋棄スルモ罪トナラサルニ唯ソノ自己ノ家屋ニ  
放火シタル時ノミ罪トナルハ相矛盾スルカ如シト雖モ自己ノ家屋  
ニ放火スルハ或ハ他人ノ家屋建造物ニ延焼スルノ危険アルヲ以テ之ヲ罰  
スルモノナリ自己ノ家屋ニ放火シ他人ノ住居シタル家屋ニ延焼シタル時ハ  
第四百二條ニ間フ可キカ如キモ決シテ然ラス犯者ノ意思如何ニ因リ區別ス  
ベキモノニシテ犯者人ノ住居シタル家屋ニ延焼セシムルノ意思ニテ他物ニ  
放火シタルニ果シテ其家屋ニ延焼シタル時ハ目的ヲ達シタルモノ故住居家  
ニ放火シタルモノトシテ論スヘシ若シ延焼セシムルノ意思ナカリシニ偶然  
大風ノ爲メニ延焼シタル時ハ住居家ニ放火シタルモノトシテ論スルヲ得ス  
然レモ大風ノ際ニ放火シ延焼シタル時ハ假令延焼セシムルノ意思ナキモ其  
延焼ス可キハ當然ノ事ニシテ豫知シ得可キ事ナレハ住居家ニ放火シタルモノトシテ論ス可キナリ又廢屋等他物ニ放  
火シタル後忽然大風ノ吹來リテ住居家ニ延焼シタル時ノ如キハ豫知シ得可カラサル場合ナルヲ以テ格別ナリトス

役ニ處ス

第四百七條 火ヲ放テ

自己ノ家屋ヲ燒燬シ  
タル者ハ二月以上二  
年以下ノ重禁錮ニ處  
ス

第四百八條

第四百八條 放火ノ罪

ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處  
スル者ハ六月以上二

第四百九條

學說

火ヲ失スルトハ疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セシテ出火シタル  
時ニシテ此事ナキ時ハ失火トナラス

判例

(十七年十一月十七日)失火ハ疎虞懈怠ニ因テ其罪ヲ組成スル者ナ  
レハ年齢ノ長少ニ拘ハラズ是非ヲ辨別セシテ犯ス者タルヲ論テ  
俟タサルナリ本按原判文ヲ閱スルニ物置小屋ニ石灰凡拾五俵ヲ積置タルニ  
石灰ニ前日降雨シタル水氣ノ浸入シ云々トアリテ其發火ハ水氣ノ侵入ニ原  
由スルモ水氣ノ浸入ハ降雨ニ由リ被告人カ不注意ノ致ス所ニ非ス之ヲ要ス  
ルニ法律上失火罪ヲ組成スヘキ性質ヲ具備セサル所爲ニシテ即チ犯罪ノ證  
憑ナキ者トス

第四百十條

學說

本條及ヒ前條ノ財産トハ人ノ所有ス可キ總テノ財産ヲ稱スルニ非  
スシテ第四百二條以下ニ記載スル所ノ財産ニ限ルモノトス何トナ  
レハ前諸條ニ於テ罪トナラサル場合ニテモ前條及ヒ本條ニ於テハ罪トナル  
可キノ理アラサレハナリ○本條ノ場合ニ於テハ假令家屋財產燒燬セラレモ  
本條ニ掲ケル破製物ノ破製シテ人ノ家屋財產ヲ毀壞シタル時ハ罪トナルモ  
ノニシテ此時ハ其故意ニ出ツルト否トナ區別シ放火失火ノ例ニ照シテ處分  
スルモノトス

年以下ノ監視ニ付ス

(刑)三八、

第四百九條 火ヲ失シ

テ人ノ家屋財產ヲ燒  
燬シタル者ハ二圓以  
上二十圓以下ノ罰金  
ニ處ス

第四百十條 火藥其他

激發ス可キ物品又ハ  
煤氣井蒸氣罐ヲ破裂  
セシメテ人ノ家屋財



産ヲ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ルト過失トナ分チ放火失火ノ例ニ照シテ處斷ス

(刑)一五七(四)一  
七以下四二五

第八節 決水ノ罪

第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第四百十一條

學說 本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シタルヲ第二人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタルヲ第三惡意ニ出タルヲ是レナリ其第二ノ漂失シタル家屋カ人ノ住居セサルニ係ル時ハ第二項ノ罪ヲ成ス○其水閘トハ水門ヲ云フ

若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己

第四百十二條

學說 本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シタルヲ第二田圃礦坑牧場等荒廢シタルヲ第三惡意アルヲ是レナリ○本條等ノ文字ニ含蓄スルモノハ田圃礦坑牧場ニ類似シタルモノニ限ルハキモトス

第四百十三條

學說 本條ノ罪ハ二條件ヲ以テ成ル第一堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害スルヲ第二他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ルノ意思ニ出タルヲ是レナリ



第四百十四條

ノ便益ヲ圖ル爲メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷ス(刑)四〇九

第四百十五條

學說 本節ノ罪タル決シテ一般ノ利害ニ關スルモノニ非ズ特定シタル船舶ニ關スルモノトス之ヲ再言スレハ往來通信ヲ妨害スル罪ハ往來ヲ目的トシテ定メ本節ハ船舶ヲ目的トシテ定メタルモノナリ

學說 本條(衝突トハ)故意ヲ以テ其船ヲ衝クヲ云フ其他ノ所爲云々トハ覆沒セシメントスル船ニ穴ヲ鑿ツカ或ハ水雷火ヲ用ユル等種々ノ手段ヲ云フ又船舶ハ自分ノ所有タルト他人ノ所有タルト間ハ自己ヲ除ク以外ノ人ヲ乘載シタルモノハ皆含蓄ス(覆沒トハ)船其モノノ形ヲ失フヲ云フ本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一人ヲ乘載シタル船舶ナルヲ 第二衝突其他ノ所爲ヲ以テ覆沒シタルヲ 第三故意アルヲ但爲メニ船中死亡アル時ハ死刑ニ處シ無キ時ハ無期徒刑ニ處スルモノナリ

第四百十六條

學說 本條ノ罪ハ三條件ヲ以テナル第一人ヲ乘載セサル船舶ナルヲ 第二衝突其他ノ所爲ヲ以テ覆沒シタルヲ 第三故意アルヲ是レナリ

第九節 船舶ヲ覆沒スル罪  
第四百十五條 衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載シタル船舶ヲ覆沒シタル者ハ死刑ニ處ス但船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス(刑)一六九  
第四百十六條 前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載

財產ニ對スル罪



セサル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス(刑一六九)

第十節 家屋物

品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮

第四百十七條

學說 本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル  
第二其毀壞シタル物件他人ノ所有ニ係ル  
第三其之ヲ毀壞スルニ惡意ヲ以テスル  
是レナリ  
○家屋其他ノ建造物トハ家或ハ家ニ非ルモ不動産ナル建造物ヲ云フ但シ橋梁ハ此中ニ入ラサル可シ何者橋梁ハ往來通行ヲ妨害スル罪中ニ入ル可キモノニシテ第六十二條ニ其正文アレハナリ然ラハ則チ其所謂ル建造物ハ他ニ正條ナキモノニ限レルヲ知ル可シ  
○毀壞ハ其毀損ノ大小ヲ問ハス故ニ物件全部ヲ毀壞スルト其一部分ナルトニ

關セサルナリ然レモ一枚ノ障子數尺ノ壁ヲ破ルモ皆本條ニ入ルト云フ可ラス何者是等ヲ毀壞スルト雖モ其建造物ノ建造物タル所以ヲ害セサレハナリ故ニ是等ハ即チ第四百廿一條ニ入ル可キモノトス  
判例 (二十年五月三十一日)兩戸ハ建造物ノ一部ヲ爲スハ論テ俟タス障子ノ如キモ現ニ家屋建造物ニ附着シアル上ハ亦建造物ノ一部ヲナスモノナレハ本件ノ如キハ共ニ刑法第四百十七條ヲ適用スヘキハ相當ナリ(附言)此判例モ亦學理上當テ得タリト認ムルヲ得ズ

第四百十八條

學說 牆壁トハ土石竹木其他何物ヲ以テシタルトナ間ハス一切ノ牆壁ヲ云ヒ彼ノ木戸又ハ柴戸ニシテ屋蓋ナキ門戸ノ如キハ牆壁ニ入ルベシ園池ノ裝飾トハ燈籠垣籬橋梁畫像標杭噴水機ノ類ヲ云ヒ田圃ノ樊圍トハ土石竹木柴草ヲ以テシタル一切ノ繞圍ヲ云ヒ牧場ノ柵欄ハ牧場ヲ圍ヒタル柵欄ノ類ヲ云フ  
○他ノ罪ヲ犯ス爲メ本條ノ罪ヲ犯シタル時ハ數罪俱發ヲ以テ論ス可キヤ例ヘハ竊盜ヲ犯サン爲メ家屋ニ屬スル牆壁ヲ毀壞シタル時ハ竊盜ト毀壞トノ二罪ニ問フ可キヤ否ヤ竊盜ノ未遂犯ニシテ本條ノ罪ハ成

ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑三六八、四二七)  
因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス(刑百二十九、至三〇四)

第四百十八條 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ園池ノ裝飾又ハ田圃ノ樊圍牧場ノ柵欄ヲ



立セス本條ハ主トシテ他人ノ物件ヲ毀壞シ其人ヲ迷惑ヲ受ケシメントノ目的ヨリ出テタル時ノミニシテ他ノ罪ヲ犯サントシテ行ヒタル場合ヲ云フニ非ラス

第四百二十九條

學說

本條ノ罪ト竊盜罪トナル場合トナ混同スヘカラス本條ノ罪ハ他人ヲ害スルノ意ヲ以テ其物件ノ有ル地ニ就テ毀損スル者ナルヲ要ス故ニ今本條ノ罪ヲ犯サントスルモノニ視ラレンコトヲ怖レ其生植物ヲ採テ小陰ニ至リ之ヲ毀損シタル者ノ如キハ則チ毀損ノ罪ハ第二ノ所爲中ニ入テ業已ニ竊取ナル第一ノ所爲アリ故ニ第一ノ所爲ヨリ見ル時ハ則チ毀損ノ所爲ハ竊盜ノ目的ニ屬スルモノナルニ依リ本條ヲ以テ罰ス可キモノニ非ルナリ

判例

(十七年十一月十三日)本按樹木ハ被告共方論告ノ如ク暫ク共有物ト假定スルモ其共有權アル甲者其他ノ承諾ヲ經ルニ非ラサレハ致テ之ヲ左右スルヲ得サルモノトス然ルニ被告共ハ協議ヲ遂ケスシテ擅ニ之

毀壞シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(刑三六八)

第四百十九條

人ノ稼穡竹木其他需要ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下

ヲ伐採セシハ共有者ノ所有權ヲ害セシ所爲タル言ヲ俟タス

第四百二十條

學說

本條ハ其已レテ利スルト他人ヲ害スルトノ目的ニ關セス苟モ故意ヲ以テ經界ノ標示ヲ毀壞シタルモノハ皆本條ニ入ル即チ惡意ヲ要セサルモノトス

第四百二十條

土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十一條

學說

本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一他人ノ所有物ナルコト 第二毀棄シタルコト 第三惡意アルコト是レナリ○本條ハ前諸條ノ如ク一々其目的物ヲ指示セサルヲ以テ如何ナル物件ニモ適當セサルハナシ則チ前諸條ニ記シタル已外ノ物件ニ關スルモノハ皆本條ヲ以テ處罰スベキナリ

第四百二十一條

人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十一日以上六月以



第四百二  
十二條

學說 本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一他人ノ所有ニ係ル牛馬ナルヲ  
第二殺害シタルヲ 第三惡意アルヲ是レナリ○牛馬ハ家畜ノ中ニ  
在リテハ尤モ必要ナルモノニシテ牛馬ノ繁殖スルト否トハ一國ノ榮枯盛衰  
ニ關スルヲ大ナリ故ニ牛馬ニ付テノ特例ヲ擧ケタルモノナリ

第四百二  
十三條

學說 本條ノ罪ハ三條件ヲ以テ成ル第一牛馬以外ノ家畜ナルヲ 第二他  
人ノ所有ニ係ルヲ 第三惡意アルヲ但シ被害者ノ各訴アルニ非サ  
レハ其罪ヲ論スルヲ得ズ本條ノ家畜ハ之ヲ前條ニ比スレハ緊要少ナキモ  
ノナレハ前條ノ刑ヨリ大ニ輕キノミナラス告訴ヲ待テ後ヲ論スルモノトセ

下ノ重禁錮ニ處シ又  
ハ三圓以上三十圓以  
下ノ罰金ニ處ス(刑)四  
第四百二十二條 人ノ  
牛馬ヲ殺シタル者ハ  
一月以上六月以下ノ  
重禁錮ニ處シ二圓以  
上二十圓以下ノ罰金  
ヲ附加ス  
第四百二十三條 前條  
ニ記載シタル以外ノ

第四百二  
十四條

リ又本條ノ家畜ハ論ヲ俟タズ牛馬ト雖モ人ニ危難ヲ加フルニ當テ之レヲ避  
クルカ爲メ止ムヲ得ズシテ殺シタル時ハ當然罪ナキモノナリ

學說 毀棄滅盡トハ重モニ有形上毀棄滅盡シタル事ヲ云フ然レモ無形的  
ニ毀棄滅盡スル亦本條ニ入ルベシ例ヘハ證書ノ印影ヲ塗抹スルカ  
如キハ則チ其證書ハ有形ノ儘存在スト雖モ既ニ正書ノ證書タル効力ヲ失ヒ  
タルモノトス何者ハ印影ノ塗抹ハ其義務ノ消滅スル證據ナレハナリ故ニ無  
形ノ所爲モ亦本條中ニ入ルモノナリトス  
判例 (十九年三月廿五日)刑法第四百二十四條ノ精神ハ委託セラレタル  
證書ト一時他人ニ披閱ヲ乞フタル證書トヲ問ハス他人ニ屬スル所  
ノ債主權ヲ妨害スルノ惡意ヲ以テ其證書ノ効力ヲ失ハシメタル者ヲ制裁ス  
ルノ個條ナリトス本按被告ノ所爲ハ甲ヨリ委託セラレタル事件ヲ謝絶セラ

家畜ヲ殺シタル者ハ  
二圓以上二十圓以下  
ノ罰金ニ處ス但被害  
者ノ告訴ヲ待テ其罪  
ヲ論ス(刑)三九、三四四、三  
五〇、三五三、三六一、四  
二六、  
第四百二十四條 人ノ  
權利義務ニ關スル證  
書類ヲ毀棄滅盡シタ  
ル者ハ二月以上四月  
以下ノ重禁錮ニ處シ